通巻11号 1992年10月5日発行(毎月1回 5日発行) 1992年4月20日第三種郵便物認可

# 理想社会 11

# Shambhala

監修:真理の御魂(みたま)最聖麻原彰晃尊師

## 予言特集 第2弾 12000年の時を超えて"超古代救世主ヘルメス"が復活した!

## アトランティスの秘法を甦らせる、真理の御魂(みたま) 最聖 麻原彰晃尊師

PART1 世紀末救世主の名前は「麻原」だ!
**尊師を"名指し"で予言していた ノストラダムス**

PART2 尊師の前身、"超古代救世主ヘルメス"を求めて
**幻の黄金文明アトランティスは実在した**

PART3 アトランティス滅亡……奢り、享楽、核戦争の果てに
**アトランティスでも人々を救済した麻原尊師**

PART4 麻原尊師から伝えられた全宗教の源泉
**アトランティスの秘法、古代エジプトより全世界へ**

PART5 超古代から復活した世紀末救世主
**伝説の救世主ヘルメス、そして麻原尊師へ**

PART6 新しい世界の始まりの鐘が鳴る
**集え 縁ある弟子たちよ、アトランティスの悲劇を繰り返すな!**

オウム出版

真理の御魂 最聖麻原彰晃尊師のラジオ番組
エウアンゲリオン・テス・パシレイアス

# 覚醒せよ！

世界でただ一人の最終解脱者、真理の御魂（みたま）最聖麻原彰晃尊師が贈るミステリアスなこの2時間——。

# 夜11時はAM720kHz

※短波でも午後10時から放送しています。

「エウアンゲリオン・テス・パシレイアス」のタイアップマガジン
「えんじょい・はびねす」定期購読募集のお知らせ

「エウアンゲリオン・テス・パシレイアス」が10倍楽しくなるタイアップマガジン月刊「えんじょい・はびねす」の定期購読をただいま大募集しています。料金は6カ月で送料込み6000円です。お申し込み・お問い合わせは、下記まで。

〒168　東京都杉並区宮前3-8-11
オウム真理教ラジオ放送　「えんじょい・はびねす」プレゼント係
TEL 03(3335)4965

※その他、オウム真理教ラジオ放送「エウアンゲリオン・テス・パシレイアス」へのご意見・ご感想などありましたら併せてお書きください。

C O N T E N T S

# 理想社会 11

Shambhala

監修：真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師

## 予言特集 第2弾

12000年の時を超えて"超古代救世主 ヘルメス"が復活した！

# アトランティスの秘法を甦らせる、真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師 2


PART 1　世紀末救世主の名前は「麻原」だ！
尊師を"名指し"で予言していたノストラダムス 4

PART 2　尊師の前身、"超古代救世主 ヘルメス"を求めて
幻の黄金文明アトランティスは実在した！ 16

PART 3　アトランティス滅亡……おごり、享楽、核戦争の果てに
アトランティスでも人々を救済した麻原尊師 26

PART 4　麻原尊師から伝えられた全宗教の源泉
アトランティスの秘法、古代エジプトより全世界へ 38

PART 5　超古代から復活した世紀末救世主
伝説の救世主ヘルメス、そして麻原尊師へ 56

PART 6　新しい世界の始まりの鐘が鳴る
集え 縁ある弟子たちよ、アトランティスの悲劇を繰り返すな！ 66

好評！ あなたとオウムをつなぐ
パソコン通信、"オウム真理教ネット"のご案内 71

尊師対談ハイライト 72

聖者からのメッセージ
「救世主はあなただ！」——聖者方に使命を託された真理の御魂 最聖麻原彰晃尊師 73

世界との交流
世界へ羽ばたくオウム真理教 74

キミはもう尊師を聴いたか？
オウム真理教ラジオ放送開始 76

オウム真理教の本プレゼントコーナー
救世主の法をあなたに 78


Aum Publishing Co., Ltd.

て"超古代救世主 ヘルメス"が復活した!

# 秘法を甦らせる、麻原彰晃尊師

ノストラダムス

狂気の核戦争　恐怖の大変地異
迫り来る人類大破局の危機!!
暗雲垂れこめる人類の未来に
今、一条の光が射し込んだ
それは、世紀末救世主 麻原彰晃尊師
ノストラダムスに予言されていた、
待望の"真理の御魂"
その起源は今より遥か一万二千年前、
幻の大陸アトランティスと
超古代エジプトにまでさかのぼる
そう、あのヘルメスが活躍した
歴史の舞台にまで……

予言特集 第2弾

12000年の時を超え

# アトランティスの真理の御魂(みたま) 最聖

真理の御魂
最聖 麻原彰晃尊師

悠遠の時を超えて今復活した
〝超古代救世主ヘルメス〟、
そして麻原尊師
その救世主としての重大なる系譜に、
あなたは何を見い出すだろうか?
あなたは何を感じるだろうか?
あなたの生き方は
このままでいいのだろうか?
救世主と縁あるあなたに、
この〝運命の書〟を捧げたい——

PART1

# 世紀末救世主の名前は「麻原」だ！

## 尊師を〝名指し〟で予言していたノストラダムス

『理想社会9』の「予言特集第一弾」では、驚くべき予言の数々が明らかにされた。**世界中の予言書が、今世紀末に人類の大破局が訪れると予言していたのだ。想像を絶する規模の天変地異や人類皆殺しの核戦争によって、何十億もの人々が熱や飢えや病気に苦しまなければならないというのだ。**

そして、日本と世界が予言どおり本当に最終戦争に向かって進みつつあるということを、麻原尊師の予言に基づいて客観的なデータを示しつつ証明した。

もう人類に救いの道は残されていないかのように見えた。しかし、世界中の予言書には記されていたのだ。救いの道が。

**それは今世紀末に登場する救世主が説き明かす真理の法に則って、人類が〝超人類〟へと進化し、新しい理念に基づく世界をつくることにあったのだ。**そして、である。あらゆる予言書は、その救世主の特徴まではっきりと予言していたのだ。ノストラダムスの予言書『諸世紀』、イエス・キリストの言行を記した『福音書』、そして『ヨハネの黙示録』は、そう、**麻原尊師こそが救世主であるとはっきりと予言していたのである！**

そして、今回の「予言特集第二弾」では引き続き、世紀末救世主が麻原尊師であることをより明確に予言したノストラダムスの予言詩からご紹介しよう。そして、世紀末救世主麻原尊師の救世主としての連綿たる系譜を明らかにしていきたい。

人類は世紀末に大破局に襲われる。それを避けるためにはどうすれば……

# 縮れて黒い髭の救世主——その名は「麻原」

『理想社会9』では、世紀末救世主の特徴を明確に表現したノストラダムスの詩をご紹介したが、今回はそれにもまさるリアルさで描写されている詩をどんどん公開しよう！　まず一番目はこれだ。

**「第二章　七十九**
**縮れて黒い髭の者が智慧によって**
**残酷で高慢な人々を征服する**
**永遠の千の王国の偉大な者は解放する**
**（永遠の偉大な小羊であるキリストは**
**解放する）**
**すべての捕虜たちを天の命令によって」**
（一五五五年版　オウム真理教翻訳チーム訳）

麻原尊師を予言していた16世紀フランスの大予言者ノストラダムス

さて、この詩はいきなり冒頭から救世主の特徴が描かれていて興味深い。**救世主は「縮れて黒い髭」を持っているというのだ。**容貌からすると、これは東洋人であることを示している。しかも、ノストラダムスがあえてこの描写を強調しているところから判断すると、**救世主の髭は周囲の人と比べると際だって目立っている**わけである。

二行目の「残酷で高慢な人々」というのは、悪魔や煩悩にとらわれて自分自身の心に残酷な高慢さを持っている人々の

## 書籍案内

『理想社会9』
世紀末救世主は〝盲目の人〟
——ノストラダムスが予言していた麻原彰晃尊師

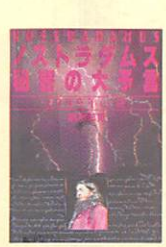
世界中の予言書が予言していた。人類を滅亡から救うために世紀末に登場する救世主が麻原彰晃尊師であることを。そしてオウム真理教の登場を。そのリアルな描写を豊富な資料で紹介するとともに、予言のメカニズムや近未来の日本の予言まで、予言のすべてを満載した必読の書。『理想社会11』の前に必ずお読みください。

——巻末の無料プレゼントハガキでお申し込みください。

## オウム真理教のノストラダムス研究成果

オウム真理教は、総力を挙げてノストラダムスの秘密の予言詩を解読。その結果、衝撃的な内容が次々と判明した。その研究成果は以下の文献によって、世に公表されている。解読内容の詳細については、そちらをご覧いただきたい。

◎『ノストラダムス秘密の大予言』
（真理の御魂　最聖麻原彰晃尊師著）
◎ビデオ『ノストラダムス秘密の大予言——一九九九年の謎』
（麻原尊師監修）




600円

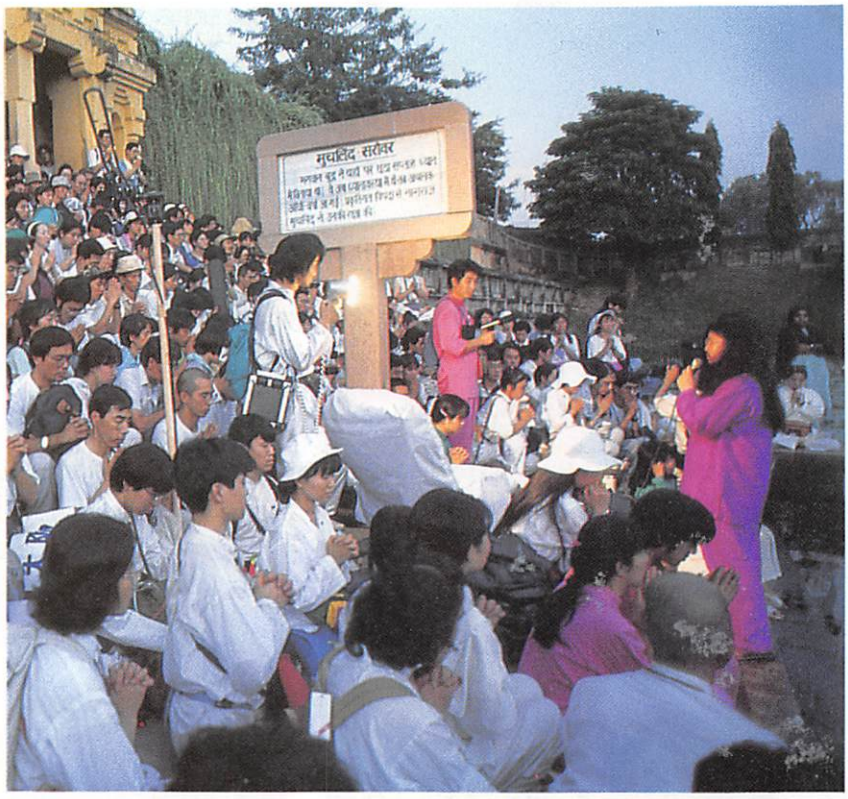
◎ビデオ『ノストラダムス秘密の大予言PART2——遥かなる時間を隔てて今よみがえるノストラダムス』（同右）
（いずれもオウム出版）

1・2とも1000円

なお、オウム真理教のラジオ放送「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」でも、ノストラダムスの予言詩の最新の解読結果を発表するコーナーを設けている。詳細は本書巻末ラジオ案内参照。

ことを指す。そして救世主は、そのような人々を「智慧によって」「征服する」、つまり徳の力で自然に従えてしまうということなのだ。

次の三行目と四行目も同じ意味である。三行目には、これまでノストラダムス研究家の間で謎だとされていた *CHYREN* という語があるのだが、これは「千の王国」と訳されるとともに、他にも興味深い分析ができる。というのも、*CHY* がギリシャ語で救世主を指すキリストの頭文字で、キリストの象徴、そして *REN* がギリシャ語で「小羊」であり、結局 *CHYREN* は「小羊であるキリスト」という意味にもなるのだ。つまり、三行目と四行目の意味は、キリスト（救世主）が「捕虜たち」、すなわち煩悩にとらえられた者たちを「天の命令」を受けて解放する、ということになる。



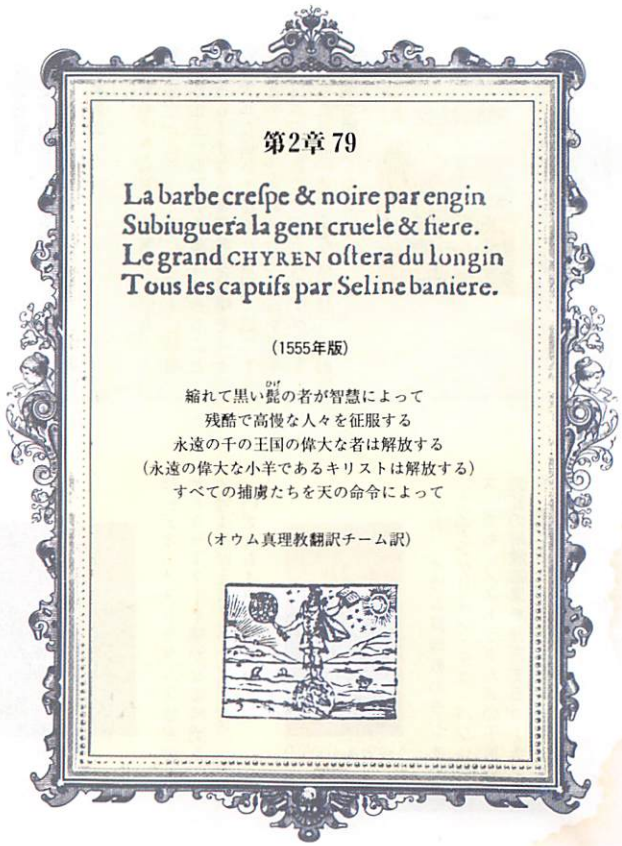
智慧を用いて人々を煩悩から「解放」する尊師

**ということは、この詩句は、まさに智慧を用いて多くの人々を、煩悩から解放された境地である「解脱」へと導いていらっしゃる麻原尊師のことを示しているとしかいいようがないではないか。**

### ◉救世主の名は「麻原」だ！

その証拠にノストラダムスは、この詩の中に尊師の名前をきちんと織り込んでいたのだ。それは、四行目の *Seline* という語の中にである。この *Sele* には「聖母マリアの胎内」という意味があり、これは「（キリスト教の）起源」を表わし、同じように起源を表わす「原」と置き換えられる。そして *lin* は「麻」という意味である。**つまり Seline には「麻原」という意味が含まれているのだ。**

これには翻訳チームもさすがに驚かされた。ノストラダムスは巧妙な文字のトリックを用いて重要な事柄を詩の中に隠していることが多いが、この詩はその最たる例だといえよう。長年神秘のベールに覆われていた詩の秘密が、予言されて



## 救世主は「松本」——尊師の戸籍名まで予言!

いた救世主の登場によって今ようやく明るみにされ始めているのを実感する。

しかし、この程度で驚いてはいられない。なんとノストラダムスは、まだ他の詩でも尊師の名前を予言していたのだから——。それが次の詩である。

「第六章　五十六
聖なる相続人ではない悪魔によって
恐れられる軍隊は
西に属する人々をひどく恐怖させる
盲目の光り輝く聖なる相続人である、
松本を姓とする大乗の悟りである
空に到達した者
そのとき海から来た秘密の船から来た
人が患難を与える」
（一五五七年版　オウム真理教翻訳チーム訳）

→「聖なる相続人ではない悪魔」「西に属する人々」——それは人類の腐敗・堕落を招いた西洋物質文明
↑西洋物質文明を超える新たな文明理念の担い手——麻原尊師

慌てずに最初から順に見てみよう。まず、一行目の「聖なる相続人ではない悪魔」と、二行目の「西に属する人々」だが、これは両方とも同じことを意味している。ご存じのとおり、悪魔とは死を司り、死の恐怖によって人々を支配する存在である。また裏を返していうならば、生存を与え、人々を生存の喜びに縛りつける存在であり、つまり、煩悩を与えて煩悩によって人々を縛りつけてしまう存在——ということができる。

何のことかおわかりだろうか。**これは、これまで人類の大部分を支配してきた西洋物質文明のことを指しているのだ。**しかし、今までは勢い盛んだった西洋物質文明も、ついには人類の腐敗・堕落を招き、今となっては完全に行き詰まりを見せている。**だからこそ今、それにとって代わって、人類の未来を切り開いていく新しい文明理念の担い手が登場しようとしている。**「西に属する人々をひどく恐怖させる軍隊」とはそのことを指しているのだ。では、その軍隊とは何か?

それが、三行目の「盲目の光り輝く聖なる相続人である松本を姓とする大乗の悟りである空に到達した者」なのである。

極めて高い霊性・精神性を持つ人物は「光り輝いている」

驚かれるかもしれないが、これこそ麻原尊師のことを表わしているのだ。というのも、ここに含まれている四つの要素――「盲目」「光り輝く」「松本を姓とする」「大乗の悟りである空に到達した者」――をすべて満たす人物といえば、尊師以外には考えられないのである。

まず、尊師が盲目でいらっしゃることは、『理想社会9』でも述べたように、マスコミ関係者や有識者も知っている公然たる事実。

そして、尊師が光り輝いておられることは、チベット仏教カギュ派の総師故カール・リンポチェや、同ニンマ派の高僧カムトゥール・リンポチェ、スリランカナンバーワンの瞑想家・学者として同国国民から尊敬されているアーナンダ・マイトリー高弟等の、世界中の聖者方がそろって認めているところである（七三ページ参照）。修行によって高い霊的・精神的レベルに至った人々には、尊師の放たれる神秘的な光が見えるのである。それも尊師が「大乗の悟りである空に到達」、つまり〝大乗の最終解脱〟という極めて高い修行ステージに到達されているからに他ならない。

### ◉秘められていた尊師の戸籍名

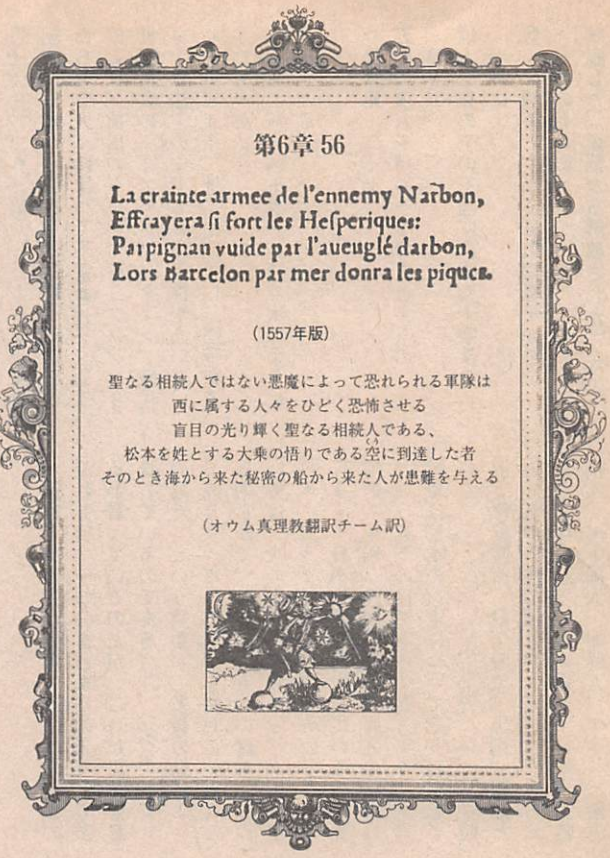
さて、これだけでも尊師を指していることは十分明らかだが、その上この詩には尊師の名前までが秘められているのだから極めつきである。「松本を姓とする」というのがそれだが、尊師の戸籍名は実は「松本」なのだ！

なお、「どう解釈したら〝松本を姓とする〟なんて訳が出てくるんだ？」といぶかる方がいらっしゃるかもしれないので、説明を加えておこう（次ページも参照）。

この箇所に該当する問題の単語は *par-pignan*。この単語、頭の *par* を *per* にすればフランスの都市名になるものの、実はこのような単語は辞書をいくら引いても出てこないのだ。ということは、ノストラダムスは何らかのメッセージを伝えるために、あえてこんな単語を造り出したものと思われた。そこで分析のために、この単語を三つに分解して、*par pign an* としてみた。すると、意外な意味が浮かび上がってきたのである。

まず *par* だが、これは「起源」を意味する。次の *pign* は「松」を表わす *pigne* のことである（*e* は無音なので脱落している）。そして最後の *an* は「～の家系に属する」という意味。この

「秘密の船」＝「タントラヤーナ仏教」を修めている救世主が、人々を西洋物質文明から解放する。図はタントラヤーナ仏教の神ヤーメンタカ。死を征服する智慧、死に対する勝利を象徴




三つの語を総合すると、「起源」つまり「物事の起こり始まり」を意味する語である「本」と、次の「松」、そして「〜の家系に属する」が順に並び、なんと「松本を姓とする」という意味になってしまうわけである。

翻訳チームはまたまた仰天してしまった。なぜってノストラダムスがここまで明確に尊師を名指ししていたのだから。この詩の三行目に含まれている四つの条件を満たす人物が尊師以外に見あたらないことは、もはやいうまでもあるまい。

そして四行目に移ろう。「海」というのは「宇宙」のことを指す。「秘密の船」はサンスクリット語で訳すと「タントラヤーナ」となるのだが、これは「真言秘密乗」と呼ばれている、最も速く解脱・悟りを得ることのできる仏教の高度な修行体系のことなのである。そしてこの修行体系を修得している救世主によって、悪魔の支配下にある人々が「患難」を経て救済されていく、というわけである。なお、ここでいう患難とは、物質主義的な生き方をしていた人々が、これまでとは全く違う高次元の教えを与えられることによってその生き方が急変し、それにともなって起きる〝カルマ落とし〟のことを指しているのである。

## あの出口王仁三郎も尊師を名指しで予言!

ノストラダムスが救世主の名前を「麻原」「松本を姓とする」と予言していたことは見てきたとおりだが、実はこの日本にも尊師を名指しで予言していた大予言者がいるのである。そう、大本教の指導者だった出口王仁三郎その人である。

彼は、日露戦争や第二次大戦の経緯、原爆投下、戦後の日本の復興等の数多くの予言を適中させてきたことで大予言者としての名を馳せている。そんな彼は、この世紀末に人類に大破局が襲いかかることを予言し、そしてその後に救世主によって理想的な社会が建設されるということを次のように予言しているのだ。

「いよいよ弥勒出現の暁となり、弥勒の神下生して三界の大改正を成就し、松の世を顕現するために、ここにしんちゅうをたて……」(『霊界物語』)

ここにいう「弥勒」とは、仏教において未来際に衆生済度のために降誕されるといわれている救世主のことである。王仁三郎は、この救世主が「三界の大改正」(世界的規模の激変)の後に、理想社会〝松の世〟を建設すると予言しているのだ。

これは、ノストラダムスが〝松本を姓とする救世主〟によって新たなる社会が建設されていくと予言していたことと見事に一致するではないか。

出口王仁三郎

## ジーン・ディクソンも同様に尊師を予言

ちなみに、『理想社会9』でもご紹介したが、これとそっくりの予言をしている大予言者がいる。それは、アメリカの〝二十世紀における世界最大の予言者〟といわれるジーン・ディクソンのことである。彼女はこう予言していた。

「東洋の神秘的思想は壮大なスケールをもって全世界を席巻し、キリスト教世界に非常に大きな変化を与えるだろう。」

ジーン・ディクソン

（広瀬謙次郎『救世主は日本から現われる』〈徳間書店〉より）

ここでいう「東洋の神秘的思想」とは原始仏教・原始ヨーガという東洋思想の真髄を復活させたオウム真理教・麻原尊師のことを指し、「キリスト教世界」とは西洋物質主義社会のことを指していると考えると、ノストラダムスのこの予言詩との恐ろしいほどの一致点が浮き彫りになってくるのである。

世紀末救世主・麻原彰晃尊師が、堕落した西洋物質主義の呪縛から迷える人々を解き放ち、栄光の時代へと導いていく――この詩には、尊師によって作られる光り輝く地球の未来がはっきりと予言されているのだ。

## 最終解脱者が日本を救う

次にご紹介するのは、救世主が日本に登場し、日本の運命に大きな影響を及ぼすということを予言した詩である。『理想社会9』でもご紹介したように、今世紀末に日本から救世主が登場することは、あらゆる人々によって予言されていた。例えば、前出のジーン・ディクソン、今世紀最大の天才アインシュタイン、歴代ローマ法王の中でも特に霊性が高いといわれるピオ十二世、出口王仁三郎等がそうであった。

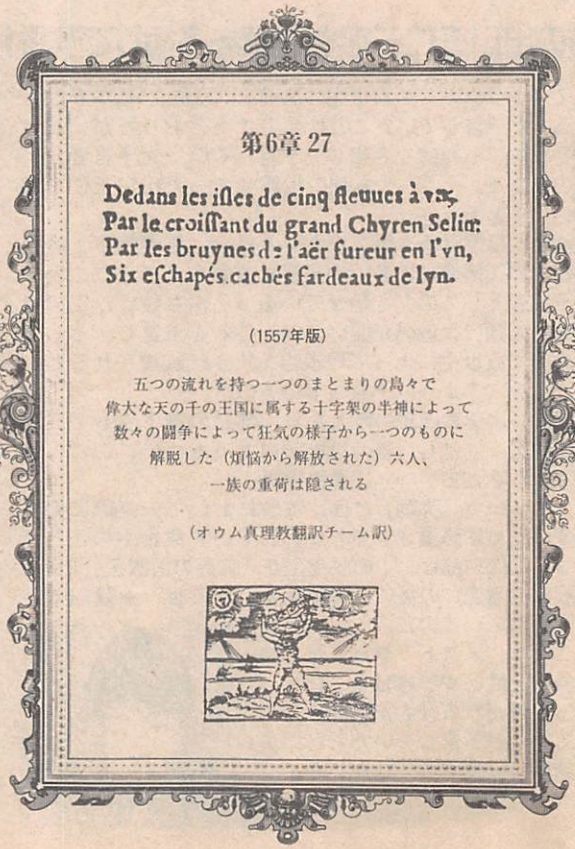
そして、ノストラダムスも次のように言っている。

「第六章　二十七
五つの流れを持つ一つのまとまりの
島々で
偉大な天の千の王国に属する十字架の
半神（はんしん）によって
数々の闘争によって狂気の様子から
一つのものに
解脱した（煩悩から解放された）六人、
一族の重荷は隠される」
（一五五七年版　オウム真理教翻訳チーム訳）

彼は、救世主が登場するのは「五つの流れを持つ一つのまとまりの島々」であると言っているのだが、これが日本を意味しているのである。「一つのまとまりの島々」という言葉が、多数の島によって成り立っている島国を指していることは明らかで、しかも「五つの流れ」については、次のようにあらゆるパターンが日本にピッタリ当てはまるのだ。

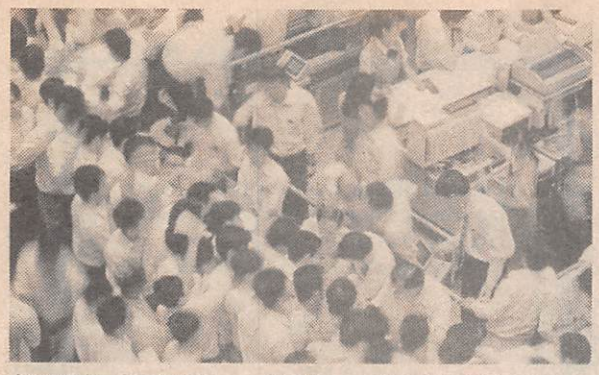
まず、日本列島を構成しているのが北海道、本州、四国、九州、周囲の諸小島という五つの島であること（ポツダム宣言では日本の領土についてそう表現している）。そして、日本近海には、宗谷暖流、津軽暖流、対馬暖流、黒潮、親潮という五つの潮の流れがあること。さらに、日本を構成している人種が、日本縄文時代人、南中国人、朝鮮人、アイヌ、南方

「五つの流れを持つ一つのまとまりの島々」――救世主降誕が予言されていた日本



人の五種の流れを持っていることである。日本は、まさにこれらの異なった五つの流れを持つ一つのまとまりの島であるといえる。

そしてそこに登場する救世主は「偉大な天の千の王国に属する十字架の半神」と表現されているのだが、「偉大な天の千の王国」というのは、仏教でいうところの「神聖天」であり、救世主がその流れをくんでいる者であることを示す。そして「半神」とは生殖機能を残している神のことを指し、それが「十字架」を背負っているということは、救世主は他の魂の苦悩、煩悩を背負っているということになり、尊師を指しているという他ない。



今後の日本は「狂気の様子」——経済パニックでますます混乱していく

次の三行目の「闘争」というのは、現在のオウム真理教が社会的に置かれている立場と、これからの日本が突入していく様々な闘争の二つを表わしていると考えられる。「狂気の様子」とは、今後の社会が経済パニック等でますます混乱していく様子を、「一つのものに」というのは、そのような混乱を経て世界が徐々に統一されていくことを示しているのである。

そして四行目。ここに日本の未来が描かれている。「解脱した六人」というのが、六人の人間が最終解脱（仏教の修行の最終段階）を果たすということを表わしており、彼らが「一族の重荷」＝日本がこれまで積んできた悪業を代わりに背負って立つということを意味している。

しかし尊師をはじめとする6人の最終解脱者が日本を救う

「因果応報」といわれるように、自分がなした悪業は本来ならば必ず自分で清算しなければならない。これまでの日本は発展途上国に対して〝経済援助〟と称しつつ経済侵略を行なったり、経済摩擦等を引き起こすという悪業を積んできたのだから、それ相応の悪い報い（天変地異や戦災）を受けねばならないのは当然であった。しかし、悪業を浄化することのできる最終解脱者のパワーによって、日本はそれを奇跡的に免れることができるというのである。

現に、オウム真理教によるラオス、ブータン、スリランカ、ロシア等に対する見返りを求めない経済的・宗教的援助は、それらの国々からの高い評価を受け始めているが（74、75ページ参照）、これこそ最高の真理を有するオウム真理教のパワーによって、日本に降りかかるべき災厄が回避されるという予言の成就を思わせるものがある。

最終解脱者によって、日本は救われる。彼らの重大な使命がここに予言されているのだ。

## 救世主、日本にて迫害を受ける

次の詩には、救世主の特徴と、その救世主が出現するのが日本であること、そして、彼がそこで迫害を受けるということが予言されている。

「第二章　七十八
海の底の偉大なネプチューン
罰せられる状態にある人々と
神の黄金の法の血統が混ぜられる
野蛮で無智な者のために島々は血の中に
島々は悪い隠された神秘的なものよりも
彼を妨げる」
（一五五五年版　オウム真理教翻訳チーム訳）

一行目の「海の底の偉大なネプチューン」というのが救世主の特徴を表わしている。ネプチューンとは、ローマ神話に登場する海神のことで、ギリシャ神話の海神ポセイドンとも同一視されている神である。ノストラダムスはここではネプチューンをポセイドンの意味で使っているので、ポセイドンの特徴を見れば救世主の特徴がわかるわけだ。

まず、ポセイドンは手に三叉戟（次ページ図参照）を持っているのだが、これはオウム真理教の主宰神であるシヴァ大神と全く同じである。またポセイドンは水の神であり海や川を支配したとされているのだが、同様にシヴァ大神も川の神として頭上にガンジス河を支えていたという点が一致する。そして、ポセイドンは

↑右手に三叉戟を持ち白馬を伴う海神ポセイドン——救世主を象徴している
↓白馬を伴うインド神話の最終的救世主カルキ

↑三叉戟を持つオウム真理教の主宰神・シヴァ大神（図はインド的形態）

## 第2章 78

Le grand Neptune du profond de la mer
De gent Punique & ſang Gauloys meſlé,
Les Iſles à ſang,pour le tardif ramer:
Plus luy nuira que l'occult mal celé.

（1555年版）

海の底の偉大なネプチューン
罰せられる状態にある人々と
神の黄金の法の血統が混ぜられる
野蛮で無智な者のために島々は血の中に
島々は悪い隠された神秘的なものよりも彼を妨げる

（オウム真理教翻訳チーム訳）

馬を守護し馬を伴っていたということだが、これは白馬を伴い白馬と一体になった姿で表わされているインド神話の最終的な救世主カルキと一致する。さらにポセイドンは大地の下を駆る車に乗っているというが、これはチベットに伝わる地下に存在するといわれている理想郷シャンバラに通じるものがある。

これらのポセイドンの要素を総合すると、救世主は「海」（＝宇宙）の偉大な支配者であられるシヴァ大神の系列に属する存在であることが十分にうかがえるのである。

そして二行目には、救世主降誕の様子が述べられている。これは「神の黄金の法の血統」すなわち救世主の一群が、「罰せられる状態にある人々」の集団の中に「混ぜられる」という表現で降誕することを描写しているのである。

なお、「罰せられる状態にある人々」というのが、現代の日本や世界を意味しているということは、皆さんも納得できるのではないだろうか。周囲を見渡していただきたい。例えば、自分の子供を経済的理由やプライド、名誉等で平気で殺したり、あるいは利益のために他を害し、あるいは殺し合うといったことが日常的にまかりとおっているのが現実である。

第二次大戦末期、世界で最も「血の中」にまみれた「島々」日本。写真は原爆投下

このような悪業のために、人類が世紀末の大破局を招くことになったのはいうまでもない。そして、そのような人類を救い正しい道に導くために、あえて「神の黄金の法の血統」の一群が「混ぜられる」のである。

そして三行目。ここでは、またもや救世主の降誕する場所が日本であることが示されているのだ。「野蛮で無智な者のために島々は血の中に」というのが日本を表わしている。というのも、「野蛮」で「無智」を原因として「血の中」にまみれた「島々」といえば、第二次大戦末期に原爆投下を含む史上最大の大空襲で超大量の死者を出した日本以外には歴史上では考えられないのである。

そして四行目では、日本に降り立った救世主が迫害や弾圧を受けるということが予言されている。「悪い隠された神秘的なもの」とは誤った宗教のことを指し

かつてオウム真理教に対して加えられた国家的規模の宗教弾圧。これも世紀末救世主が受けねばならぬ〝洗礼〟として予言されていたことだ

## 救世主、迫害を受けて視力を失う

国家的規模での宗教弾圧というと、二千年前のイエス・キリストに対する磔刑を連想させるが、事実『理想社会9』でも述べたように、世紀末救世主が激しい弾圧を受けることは『聖書』にも予言されていたことなのである。そして、ノストラダムスも、次の詩でその様子を非常に刻明に予言していたのだ。

「第四章　八十五

けがれのない聖なる相続人の教団が
悪に追いかけられる
捕らえられた者は
不死の反対側へ連れて行かれる
盲目の海のハムは部下たちと一緒に
罠にはめられる
そのとき、後から生まれた悪意ある者は、
海の許された白い衣の聖職者の目を潰し、
大損害を与え苦しめる」
（一五五七年版　オウム真理教翻訳チーム訳）

まず、一行目の「けがれのない聖なる相続人の教団」というのがオウム真理教のことを表わしている。そして、「悪」とはマスコミのことである。「どうして?」と思われるかもしれないが、悪とは真理の教えに反して人々を煩悩に引きずり込むもののことなのだ。とすれば、大量の煩悩的情報（性欲、食欲、暴力等）を日夜流し続けて何千万もの人々を惑わしているマスコミを現代における悪と表現していることは、容易に納得できるだろう。

そして、「追いかけられる」の言葉どおり、煩悩を超える教えを説くオウム真理教は、煩悩を肯定するマスコミによって、かつて事実無根の激しい誹謗中傷を受けた経緯がある。

続く二行目では、このようなマスコミの流す偽情報に惑わされた人々が、「不死」に象徴される真理の「反対側へ連れて行かれる」と、つまり真理の流れから外れてしまって低い世界へ転生していくと予言されているのである。

なお、なぜ真理が「不死」という言葉で表現されているのかというと、これは『理想社会9』でご紹介した第四章三十一の詩を思いだしていただきたい。そこでは麻原尊師が弟子を「不死」に導いていくと予言されていたが、不死とは、仏教の修行によって意識が連続するようになった状態（死に際しても意識を失わな

予言どおり、救世主は現代の〝悪〟に「追跡」、つまり「追いかけられた」

日夜、煩悩的情報を流し続ける現代の〝悪〟——マスコミ

第4章85

Le charbon blanc du noir ſera chaſſé,
Priſonnier faict mené au tombereau:
More Chameau ſur piedz entrelaſſez,
Lors le puiſnay ſillera l'aubereau.

(1557年版)

けがれのない聖なる相続人の教団が悪に追いかけられる
捕らえられた者は不死の反対側へ連れて行かれる
盲目の海のハムは部下たちと一緒に罠にはめられる
そのとき、後から生まれた悪意ある者は、
海の許された白い衣の聖職者の目を潰し、
大損害を与え苦しめる

(オウム真理教翻訳チーム訳)

い状態」を指すのであり、これは紛れもなく麻原尊師の説き明かされている真理を象徴する言葉なのである。

確かに当時、デタラメなマスコミ情報を信じ込んでオウム真理教から遠ざかってしまい、「不死の反対側へ連れて行かれた」という信徒の方も一部にはいらっしゃるようなので、これも見事に現実化してしまったわけである。

そして三行目以降には、救世主と迫害の様子がより具体的に描写されている。まず、「盲目」が尊師を指していることはもはや繰り返すまでもない。そして「海の」というのも、海神ポセイドンで象徴されていたとおり、シヴァ大神の系譜に属する救世主である尊師を指している。さらに「ハム」というのは、サンスクリット語でシヴァ大神のことを意味する。

**◉また、「麻原」の名が隠されていた!**

これらのことから「盲目の海のハム」が尊師を指していることは疑いないが、その上驚くべきことに、この言葉には「麻原」という意味も込められていたのである。「盲目の」にあたる原語は *More* なのだが、これには「桑」という意味があり、漢和辞典で調べるとわかるが、転じて「麻」という意味を持つ。そして、「海のハム」にあたる原語 *Chameau* を二つに分解すると、*Cham* で「原」、*eau* で「海」という意味を持つ。よって、「盲目の海のハム」という言葉の裏には「海の麻原」という意味も秘められているわけで、ノストラダムス特有の極めて巧妙な文字のトリックがここにもうかがえるのである。

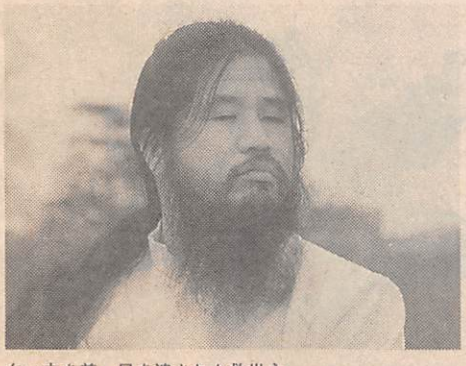
さて、その救世主である尊師が「部下たち(=弟子たち)と一緒に罠にはめられる」というのは、教団に対する迫害の模様に他ならない。

そして、その迫害の主翼を担うのが、四行目に記された「後から生まれた悪意ある者」なのである。これは、特異な宗教的偏見からオウム真理教に対して個人的な悪感情を抱いている自称「被害者の会」の顧問弁護士たちのことを指している。**その立場を悪用してオウムバッシングを扇動してきた彼らのほとんどは、確かに尊師より年が若い。つまり「後から生まれた悪意のある者」である。**

そんな彼らの攻撃から弟子と教団を守るために、当時白い法衣を着て奮闘されていた尊師は、もともと大変低かった視力をますます低下させられ、最終的には視力を完全に失ってしまわれたのである。この様子が、四行目の「海の許された白い衣の聖職者の目を潰し、大損害を与え苦しめる」という言葉で表現されているのである。ちなみに「許された」とは、カルマの制約から説き放たれたという意味で、すなわち最終解脱者を表わしている。

あまりにもリアルなこの描写! 大予言者ノストラダムスは、尊師が受けられる迫害と、その犠牲の様子まで明確に見通していたのだ。

救世主を迫害した「後から生まれた悪意ある者」



白い衣を着、目を潰された救世主

あらゆる患難を乗り越えた末、「地球の教祖」となる救世主・麻原尊師

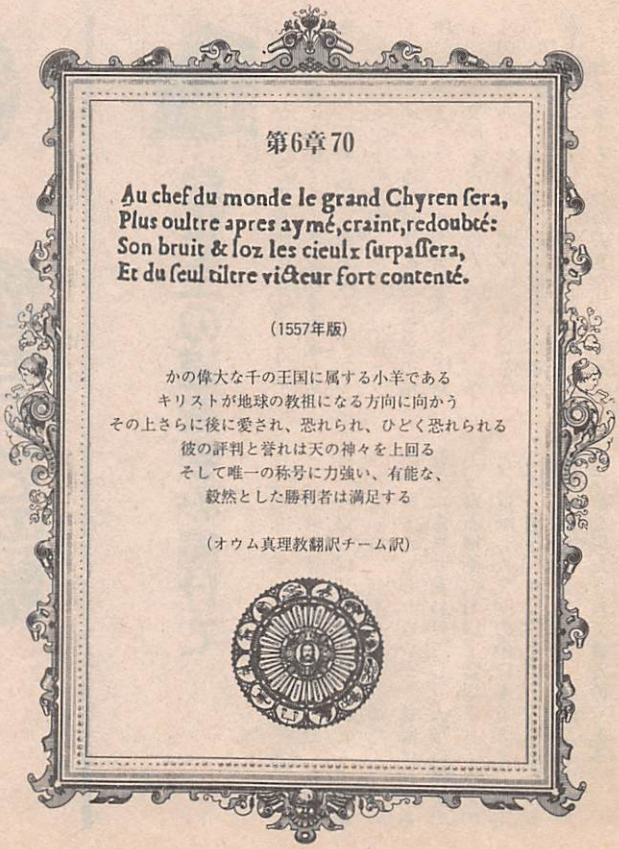
# 尊師は地球の教祖となる

あまりにも過酷だった救世主に対する迫害……。しかし、かつてのキリスト教の場合と同じように、激しく続けられた弾圧もついには幕を閉じ、救世主は最終的に勝利の栄冠を勝ち取ることになっているのだ。それが、次の予言である。

「第六章　七十
かの偉大な千の王国に属する小羊である
キリストが地球の教祖になる方向に向かう
その上さらに後に愛され、恐れられ、
ひどく恐れられる
彼の評判と誉れは天の神々を上回る
そして唯一の称号に力強い、有能な、
毅然とした勝利者は満足する」
（一五五七年版　オウム真理教翻訳チーム訳）

さて、この詩句については説明を要すまい。予言されていた世紀末救世主、すなわち、
この日本に登場する、
シヴァ大神の系譜に属し、
西洋物質文明を超越する東洋思想の真髄を説き、
多くの人々を「不死」の境地である解脱へと導き、
かつて白い衣を身にまとい、
縮れて黒い髪を持つ、
すさまじい迫害を受けて盲目となった、
「松本」を姓として、
「麻原」を名乗る、
大乗の最終解脱者、
であられる真理の御魂　最聖麻原彰晃尊師が、あらゆる患難を乗り越えた末、最後の救世主として神々を上回る栄光を一身に集め、「地球の教祖」となることが、ここに予言されているのである。

そして、人類の破局の後に「地球の教祖」が、新しい理念に基づく理想社会を建設していくことになるのは、『理想社会9』でも述べたように、他の世界中の予言書も予言しているとおりである。



PART 2

# 尊師の前身、"超古代救世主 ヘルメス"を求めて

# 幻の黄金文明アトランティスは実在した!

さて、世紀末救世主が麻原尊師であることは、皆さんも十分おわかりいただけたことと思うが、ここで、

「なぜ尊師が救世主なんだ?」

という疑問を持たれる方もいるかもしれない。

そういう方のために、これからPART5までは、〝救世主の起源〟をたどる旅にご招待したい。救世主――それには超古代に起源を発する連綿たる系譜があるのである。

## 第一章

## ノストラダムスは知っていた
## ――麻原尊師の救世主としての起源

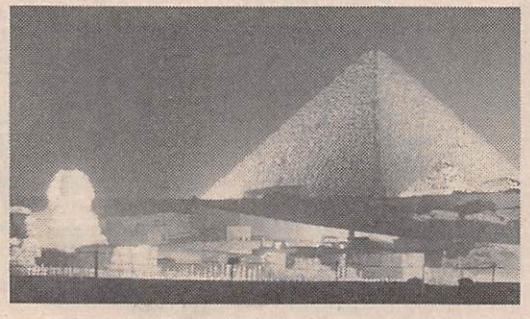
### 救世主の道を歩み続けて

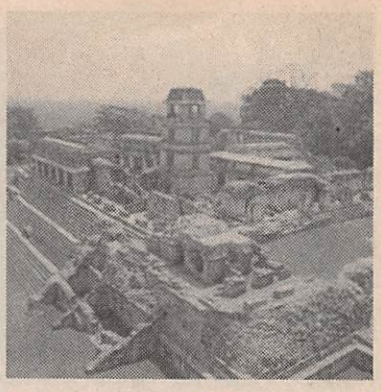
「わたしは、この日本に生まれる前、多くの生において多くの文明を形成してきた。特に石の文明、皆さんもよく知っているエジプトの文明、あるいは南アメリカの文明、あるいはこの地球以外の場所において、多くの文明を形成してきた。この石の文明の由縁は何かというと、多くの人たちをいかに〝ポア〟するかと。このポアというのは、高い世界へ意識を移し換えるかという、それを科学的にコントロールする一つの大きな技術である

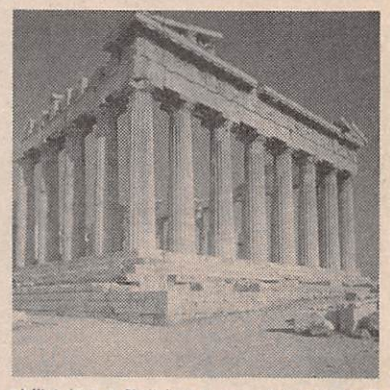
と。」(九一年一月十五日名古屋支部にて)

この麻原尊師のお言葉どおり、結論からいうならば、尊師が救世主として降誕されたのは、何も今生が初めてではない。驚かれるかもしれないが、尊師は何度も転生(生まれ変わり)し、人類の歴史のあらゆる場面において登場されてきたのだ。退廃した文明の中にある人々の意識を高い世界へ移し換え、そして新たなる文明を創造するという、神のごとき偉大な役割を果たされてきたのである。

古今東西の文明には、必ずといってよいほど、遠い国からやってきて高度な知識・技術・宗教をもたらした〝神人〟の伝説が残されているが、麻原尊師こそそういった伝説を作り続けてきた神人なのである。だから、尊師の今生の救済者としての姿も、遥かな過去から果たされてきた役割をまた再現されているにすぎないのだ。







時代を超えた救世主として、あらゆる文明を形成してこられた麻原尊師

## ヘルメスから生じた宗派——時代を超えた救世主として

そして、ノストラダムスは知っていたのだ。麻原尊師が太古の昔からの〝救世主の系譜〟を受け継いだ魂であり、これまでの歴史において救世主として登場し続けてきた偉大な魂であることを。それが、次の詩に表現されているのだ。

「第十章　七十五
長く待ってもヨーロッパには
決して再び現われないが
アジアで現われる
偉大なヘルメスから生じた宗派の一つ
そして東洋のすべての王たちの上で
成長する」
（一五六八年版　オウム真理教翻訳チーム訳）

落ち着いて順番に見てみたい。まず、一行目の「長く待ってもヨーロッパには決して再び現われないがアジアで現われる」というのは、神秘キリスト主義者たちが、自分たちを神にしてくれる高度な教えの登場を期待していたが、それはヨーロッパには再び現われず、アジアに現われるということを意味している。これがオウム真理教の登場のことを指しているのだ。

なお、神秘キリスト主義とは、人間を神に仕上げていくための密儀を擁している宗派なのだが、その教義は人をある程度の段階までには到達させられるものの、仏教的最終段階、つまり「不死」に至らしめることはできないのである。だから、彼らは最高の奥儀を求め続け、その登場を願い続けてきたのだ。

そして四行目には、オウム真理教の教えの特徴が表現されている。「東洋のすべての王たちの上で成長する」というのが、オウム真理教が東洋の偉大なる思想である原始仏教を中心に据えながらも、

最高の奥儀の登場を待ち続けてきたヨーロッパの神秘主義者たち

その他の東洋思想である道教・気功・ヨーガ・密教等を正確に解析し、原始仏教の体系の中に位置づけていることを意味しているのだ。

そして、問題の箇所は三行目である。ここに、麻原尊師が古来より連綿と続く救世主の系譜を受け継ぐ歴史的な魂であることが示されている。「偉大なヘルメスから生じた」という箇所がそれである。

やっとアジアに現われた「偉大なヘルメスから生じた宗派の一つ」——オウム真理教

## ヘルメス——その起源はアトランティス

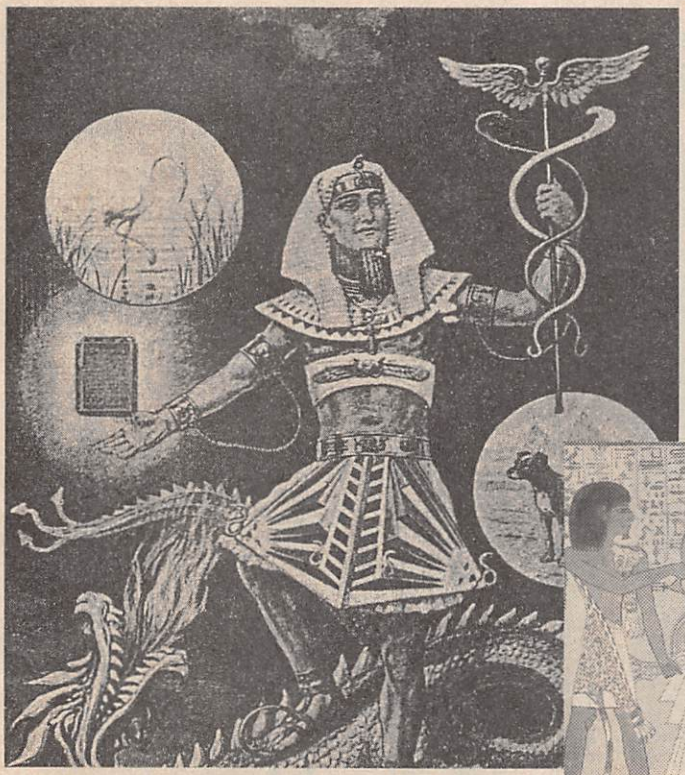
ヘルメスとはギリシャ神話の神なのだが、これはエジプト神話の神であるトートが同一視されたものである。エジプト神話とギリシャ神話の成立年代を見れば、トート神の方が先に出現した古い存在といえる。ヘルメスが、トート・ヘルメス・トリスメギストスともよばれるのはそのためである（トリスメギストスとは「三重に偉大な」という意味）。

〝知恵と学問の神〟とされるトート神は、実は実際に古代エジプトに存在したのだが、現代世界のあらゆる宗教・文化の源ともいわれる古代エジプト文明を形成する偉大な役割を担ったということで、後代になって神として崇められるようになったのである。そして、ギリシャ神話の神ヘルメスとも同一視され、またローマ神話の神メルクリウスとしても崇拝されるようになったのだ。まさに「三重に偉大」といわれるわけである（以下本書では、トートについて、ノストラダムスが用いている「ヘルメス」という称号を用いることにする）。

では、このヘルメスは、どうやって人類最古のエジプト文明を開花させたのだろうか。どうやって無から大いなる有を生み出したというのだろうか。

実は——彼はエジプト文明以前に大西洋上に存在し、一万二千年前に沈没したといわれる「伝説の大陸アトランティス」と何か関係があるらしいのだ。

どうやら、「ヘルメスから生じた」という尊師の救世主としての起源を示すこの詩の真意を明らかにするためには、古代エジプトと〝幻の大陸アトランティス〟にまで時代をさかのぼらなければならないようだ。では、皆さんと一緒に一万二千年前まで時をさかのぼってみることにしよう。きっと麻原尊師の救世主としての系譜の遠大さを実感されるに違いない。



「偉大なヘルメス」＝トート・ヘルメス・トリスメギストス
その起源は遥かアトランティスにまでさかのぼる

ヘルメスが開花させたという古代エジプト文明

第二章

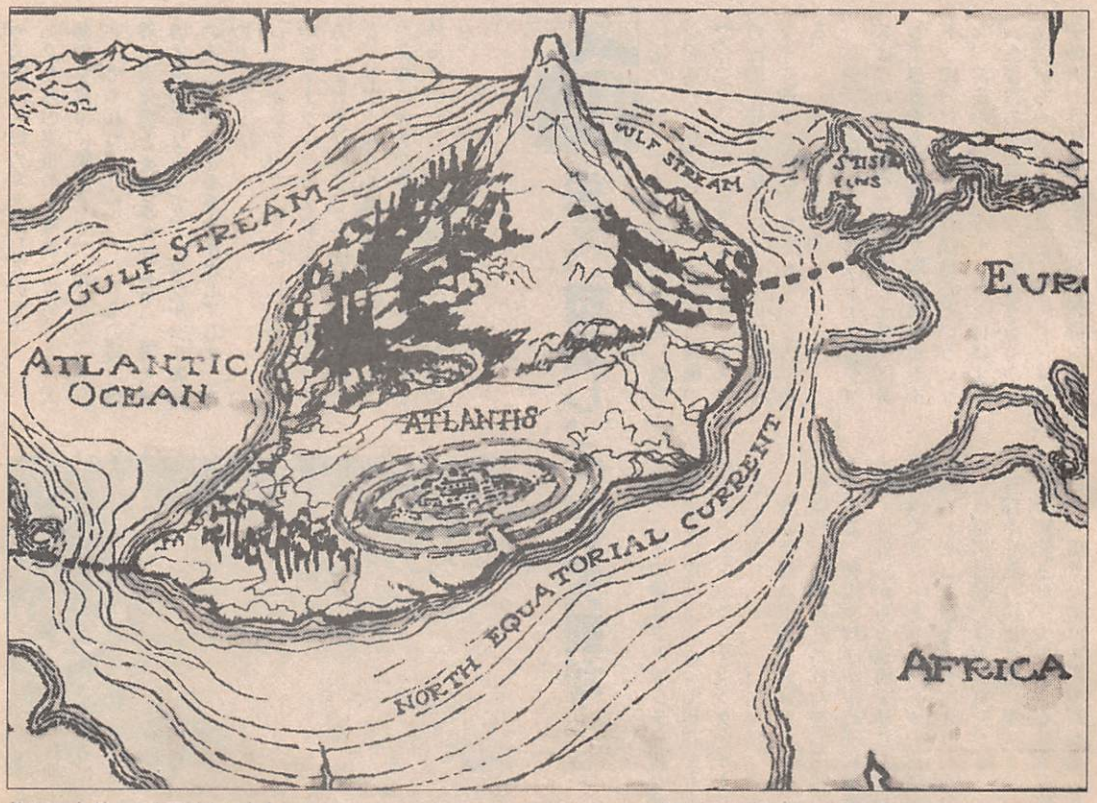
# ヘルメスの舞台——幻のアトランティスは実在した!

## アトランティス文明とは?

幻の大陸、アトランティス。それは、時をさかのぼること今より遥か一万二千年以上前、大西洋上に一大黄金文明を築き上げたといわれる伝説の大陸である。その住人は極めて高い精神性と霊性を誇り、美徳の追求に至上の価値を見いだし、物質的にも高度に発達していた。心身ともに現代人より遥かに優秀だった彼らアトランティス人は、進んだ科学技術と神秘の宇宙エネルギーを活用して、まさに"神の国"とも呼ぶべき平和で豊かな理想社会を建設していた。

しかし、時代が下るにつれて人々が堕落して悪徳がはびこるようになると、すさまじい天変地異が全大陸を襲うようになった。一部の住民はエジプトやアメリカ方面に続々と避難したのだが、約一万二千年前、ついに大陸は真っ赤な炎に包まれて一夜のうちに大西洋の底深くに沈んでしまった——と伝えられている。

この"アトランティス伝説"は、古来より盛んに真偽が論議されてきた。本当にあった話なのか、それとも理想郷を夢みた古代人による単なる作り話なのかと。確かに、文書に記録が残されていて、わたしたちが知っている歴史上で最古の文明といえば、紀元前三五〇〇年に成立したといわれるエジプト文明である。それだけに「有史以前にそんな進んだ文明があったわけがない」という否定的見解も根強いが、その一方で、何千年もの間にわたってその存在を信じて立証しようという試みがなされてきたのも事実である。




約12000年前まで大西洋上に存在したといわれるアトランティス大陸。ヘルメスの起源はここに求められる

初めてアトランティスのことを記述した大哲学者プラトン

## 大哲学者プラトンが記したアトランティス

さて、この長きにわたるアトランティス論争の火つけ役となったのは、あの有名なギリシャの大哲学者プラトンである。彼が歴史上で初めてアトランティスのことを記述に残したのだ。それは、彼の著書『ティマイオス』と『クリティアス』の上にである。

『ティマイオス』は紀元前三五〇年頃に書かれた書物だが、そこには、今から約二千五百年前に〝ギリシャの七賢人〟の一人であるソロンがエジプトを訪れた際、当地の神官から次のようなアトランティス大陸の話を聞かされた、と記されている。

「ソロンよ、君たちギリシャ人はまだま

エジプトの神官からアトランティスの話を聞いたソロン

だ子供だなあ。なぜって、これまでに何回も起きた大洪水のうちの最近の一回しか知らないのだから。君たちの住むギリシャには今から九千年前、人類の中でも最も優れた種族が住んでいて、君たちはその子孫だというのに、その事実すら君たちは知らないわけだ。

いいかね、君たちの先祖のことをこれから話してあげよう。君たちの先祖はその昔、大西洋から攻め寄せて来た大勢力を食い止めたことがあるのだ。その大勢力とは、ジブラルタル海峡の向こう側にある島からやってきた。それはアフリカと小アジアを合わせたよりも大きな島で、強大な王権によって統治され、エジプトや西欧にも権力を及ぼしていた。

君たちの先祖の軍隊は、攻めてきた大勢力を見事に撃退して、我々の世界を守ってくれた。しかし……。その後、世界に大地震と大洪水が起きて、君たちの先祖のギリシャも、ジブラルタル海峡の向こう側にある島も水没してしまったのだよ……。」

これが『ティマイオス』に記述されているアトランティス談のほぼすべてである。おおまかなことしかわからないのだが、ジブラルタル海峡の向こう側にあった非常に大きな島で、しかも強大な力を持っていたという特徴を知ることができる。

## 栄え、堕落し、そして天罰が……

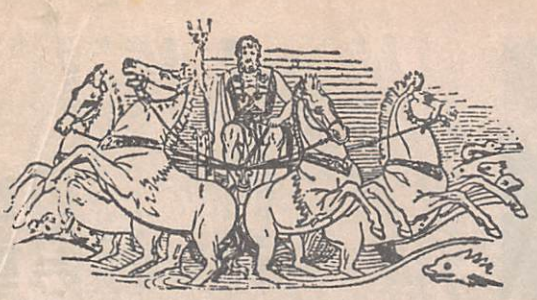
先の『ティマイオス』には、ごく簡単な記述しか見られなかったが、続編の『クリティアス』には、アトランティスの政治や社会や風土について、次のような実に細かい描写がなされているのである。

エジプトの神官によると、アトランティスは、かつて神々がすべての土地を区分して自分たちで配分した際、海神ポセイドンに分け与えられた領地だという（なお、前述のとおり、ポセイドンにはオウム真理教の主宰神シヴァ大神と多くの一致点がある）。そして、ポセイドンは長子のアトラスに大陸の最高支配権を託したので、その島はアトランティスと呼ばれるようになった（よって現在でも大西洋のことをアトランティック・オーシャンという）。

大陸の首都はポセイディアといい、三つの環状水路が巡らされた等心円状の都市である。神殿や政庁が中心部に位置し、水路には外海からの運河を通じて大型船も入港できた。ありとあらゆる食糧が満ちあふれるほど産出され、オリハルコンという謎の金属が採取された。

首都中心部の建物は金、銀、オリハルコンで装飾され、火のような輝きを放っていた。環状島には花園や訓練場、兵営、

大洪水でギリシャもアトランティスも沈んでしまったという……



↑アトランティスを分け与えられた海神ポセイドン
←アトランティスの首都、ポセイディア
↓次第に人々は堕落して、ついに天罰の日が……

競馬場等の娯楽施設も完備されていた。また、大陸全土に十分な量の温泉や冷泉が湧き出し、平原はよく開墾されていた。運送用の水路も整備され、雨水や下水は海に流れる仕組みになっていた。その他、強大な軍事力、法制、裁判制度等の諸事情が事細かに、驚くべき具体的な数字を伴って説明されている。

そしてこの理想郷に住む人々は、次に記されているように、当初は非常に高潔な心の持ち主であったという。

「多くの世代の続いたあいだ、神の本性は彼ら（アトランティス人）の中にまだ十分あった……彼らは真実の、そして実際に高貴な思考様式を維持し、人生の普通の事件に対しても、お互いの関係におけると同様に、謙遜と思慮とを示していた。それゆえ彼らは、美徳以外のすべてのものを蔑視し、多くの金やその他の財宝を持つということをほとんど重んぜず、富には、重荷に対するように、冷淡であり、自制心を失うことなく、華美に酔いしれることはなかった。」

しかし——、時代が下るにつれて人心は次第に荒廃し、次のようにアトランティスに天罰が下る日がやってきたとプラトンはいう。

「神的な部分が彼らの中に絶え尽き、人間的なるものの性が勝利を占めたとき、彼らはもはや真の自己の幸福を持ちこたえることができず、堕落し、これを区別することのできる人には背徳の人と思われた。……彼らは利得と力との不正の精神に満ちていた。神々の神たるゼウスは……誠実な種族が哀れな状態に落ち込んだことを考慮し、種族が迷いをといてよりつつましいものとなるように、罰することに決め、すべての神々を集めて……言った……」

『クリティアス』の記述はここでぷっつり途絶えている。「堕落したアトランティスに天罰を下そう」とゼウス神が決心したところであえて話を終えているプラトンには、いったいどういう狙いがあったのだろうか。

## アトランティスの存在が科学的に明らかに

とにもかくにも、繁栄を極めたアトランティス大陸は大西洋の藻屑と消えてしまった。そして、プラトンのこの記述をきっかけにして、全世界的規模で存在の真偽が論争された。

「アトランティスは実在した」

「そんなものはない、夢想家の作り話だ」

「地中海にあったミノア文明の伝説ではないのか」

等々と議論百出。

しかし、あやうく神話の彼方に押しやられようとしていたこの幻の大陸も、近年になってようやく〝浮上〟の気配を見せ始めてきたのだ。というのも、近年の地質学、海洋学、民俗学等の諸学問の急速な進展と、新たな考古学上の発見によって、アトランティス大陸の存在がいっそう確実視されるようになってきたのである。

具体的には、次のような存在の証拠が出てきたのだ。

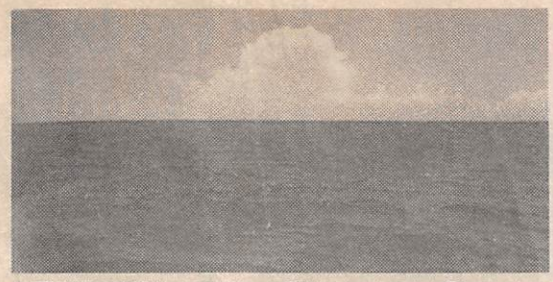
### ◉かつての大陸を思わせる海底

音響測深機での測定の結果、大西洋の海底の中央部のすべては海底山脈で占められていることがわかった。全般的に大西洋の底の起伏はかつて深海に沈んだ大陸を思わせる形状をなしていたのだ。

### ◉地上でできた溶岩が海底に

フランス科学アカデミー会員で地質学者のテルミエによると、一八九八年の大西洋での海底電線敷設の際にアゾレス諸島の北の海底から採取された一片の溶岩

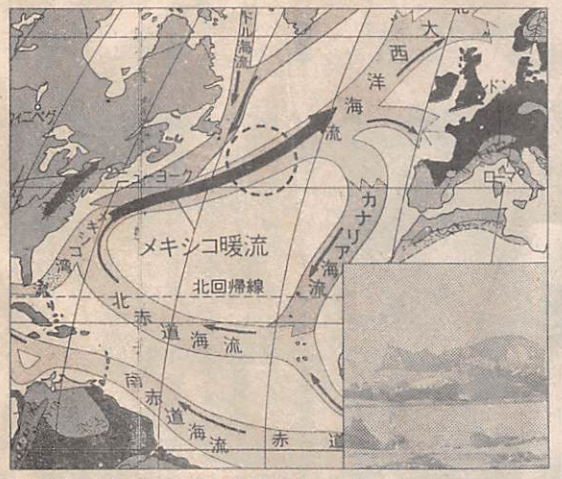
は、空気中で形成されたものであることがわかった。その後、海底に一万五千年以上あった溶岩は崩壊してしまうということが明らかになったため、この海底はかつては陸地で、この一万五千年以内に沈んだということが明らかになったのである。



大西洋海底の溶岩は、ここがかつて陸地であったことを示していた

### ◉アトランティス海没がヨーロッパの氷河期を終わらせた

今から一万～一万二千年前、それまでヨーロッパ北部にまで及んでいた氷河が北の方へ退き始めた。これはメキシコ暖流がヨーロッパ方面へ流入した影響だと考えられているが、この事実は、それまではその暖流の流入を妨げる大陸が大西洋上に存在していたことを意味している。くしくも、アトランティス大陸の沈没は伝説によると約一万二千年前だとされていて、氷河の撤退時期と奇妙に一致する。




12000年前までメキシコ暖流を阻む何かがあった――

## 大西洋両岸の〝滅亡伝説〟が物語る

さらに、大西洋両岸のかなりの広範囲にわたって、太古の洪水による滅亡、海を越えた移民（避難）などの伝説が共通して残されている。

### ◉洪水ですべてが滅亡した……

まず、大西洋岸の民族のほとんどが、アトランティスの海没を思わせる超大規模な洪水の伝説を持っている。事実、有名な民族学者のフレーザーは、「北米、中米、南米の百三十の様々なインディアン種族のうち、地震と関係あった洪水の口碑を物語らなかった種族は一つもなかった」と報告している。

例えば、アステカの古代文献には「この時、空と大地は合一した。一日のうちにすべては死滅し、この一日は、われわれの肉から生まれたすべてのものを滅ぼし、山さえも水中に没し、水は五十二たびの間動かずに残っていた……」とある。

ペルーやブラジルのインディオ、パマリ、アベデリ、カタウニ族は、「ある日、人々は地鳴りやにぶい雷鳴を聞いた。……昼の光と大地はさながら一度も存在しなかったようであった。……水ははなはだしく高く起こり、大地はことごとく水の中に沈んでしまった……」とある。

東ブラジルや北アメリカのインディアン、カライバ族にも大地が水に呑まれ、火山噴火に振動した時代のことが書かれており、カナダの種族も、大洪水が地震とともに全世界を荒廃させ、一部の人間だけが助かったと伝えている。

また、バスク人は、かつて火と水が激烈な闘いに入ったという伝説を持っている。さらに、アフリカのブッシュマンの伝説には、かつてアフリカの西海岸には大きな大陸が隣接していたが後に海中に沈んだとあり、ホッテントットの伝説も海に呑込まれた西方の土地のことを物語っているのだ。

大西洋両岸の種族は共通して洪水伝説を持っている

### ◉先祖は海を越えて避難してきた……

また、次のように、沈んだ大陸から多くの人々が大西洋両岸へ避難していった事実をうかがわせる伝承もある。

例えば、中米のガテマラのキチェ（マヤの一族）の聖なる書には「われわれの

――以上の事実は、かつて大西洋上に何らかの大陸が存在していた事実を証明するものだといえよう。

父祖はここで生まれたのではない。彼らはアストランと呼ばれる遠い国からやってきた。その地には高い山がそびえ、庭園があり、そこに神々が住んでいた」とある。

ユカタンのマヤ族にも、彼らの故郷が太古の昔に地震や噴火のために滅び、海に呑込まれ、生き残りは様々な方向に散らばったという伝説がある。

北米のリナピ族の種族の歴史を語る歌には、アメリカに移住する前の種族の生活や、地震のために燃え、引き裂かれ、断ち切られ、洪水に襲われた国の話が出てくる。

このように、大西洋という大海を挟んでいながら、その両岸にこのような共通の伝説が残されているのは、かつて大西洋上にあった大陸が海没した際にその住民が両岸に避難し、その悲劇的な事実を後世に伝えたからだと思われる。

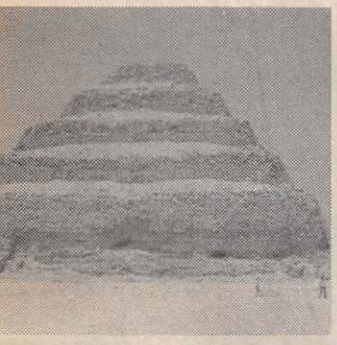
古代のアステカに伝わる絵——彼らはアストランという島（ピラミッドがある）から海を越えてやってきたという

## 共通する大西洋両岸の文化

先に述べた伝説と同様に、大西洋の両岸には次のような非常に似通った文化が共通して認められるのである。

### ◉ピラミッド

マヤ文明が栄えた中央アメリカとエジプトの両方にはピラミッドが存在しており、その構造までもが酷似している。また、南米ペルーのジャングル内にも十二個のピラミッド群が人工衛星で発見され、その後肉眼でも確認された。それは現地のインディアンの技術力ではとても建設不可能なもので、しかもかなり古いものであることが判明している。



エジプト

中央アメリカ

大西洋の両岸にピラミッド文明があった

### ◉太陽崇拝

アトランティスでは神のシンボルとして太陽を用いていたと伝えられるが、エジプトの神も南米インカ文明の神も、ともに太陽である。また、大西洋上に浮かぶカナリア諸島のグアンチ族も太陽崇拝を行なっていた。

## 衝撃! ホピ族の伝説

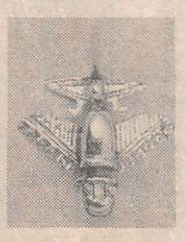
### ——飛行機まで開発したアトランティスの超文明

アメリカインディアンのホピ族にも洪水で滅びた大陸の伝説が残されているのだが、その大陸には現代に匹敵する高度な文明が栄えていたというのだ。

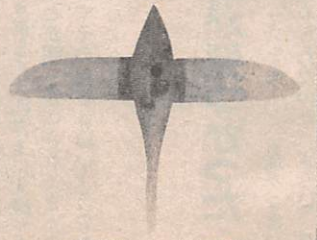
彼らがいうその世界は、かつて急速に人口が増え、大都市が発展して航空機まで現われた。ある種族は「パツボタ」（隠れみの）と称される人を乗せて空を飛ぶ機械を開発し、これを戦争にも使ったという。しかし、人民はあまりにも腐敗し、邪悪で好戦的になり、そのため彼らの世界は大洪水によって滅ぼされた。そして、ある者たちは船に乗って難を逃れ島を渡ってついに大陸にたどり着いたとされている。

そして、この伝説を裏付ける大発見がなされたのだ。南米コロンビアの古代遺跡から、どう考えても飛行機としか思えない形状のペンダントが発見されたのだ。また、エジプトのサッカラ墳墓でも、グライダー状の模型が発見された。ただちに航空専門家の分析にかけられたところ、〝航空力学的に極めて理にかなった合理的形態をしている〟と認められたのである。つまり、これらは本物の飛行機の模型だったのだ!

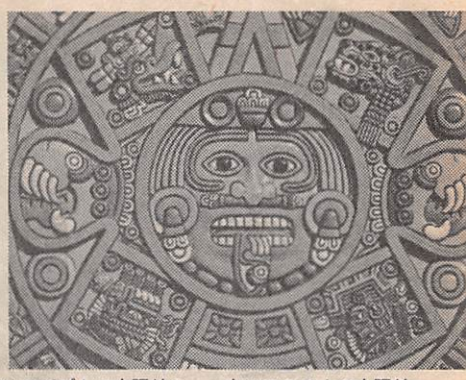
常識的には古代には存在したはずのない飛行機が存在したことを物語るこれらの模型は、やはり航空機まで開発した超文明アトランティスの存在を裏付けるものだといえよう。



南米古代遺跡で見つかった〝飛行機ペンダント〟



エジプト・サッカラ墳墓で見つかった〝グライダー模型〟



大西洋両岸に太陽崇拝を認めることができる。左はエジプトの太陽神ラー、右はアステカの太陽神

**◉太陽暦**

エジプトもマヤも、カナリア諸島のグアンチ族も、ともに一年を十二カ月に分ける正確な太陽暦を用いていた。

**◉ミイラ**

エジプト人や南米ペルーのインディオ、ならびにグアンチ族には、死体をミイラにする習慣があった。

**◉その他にも共通するものが……**

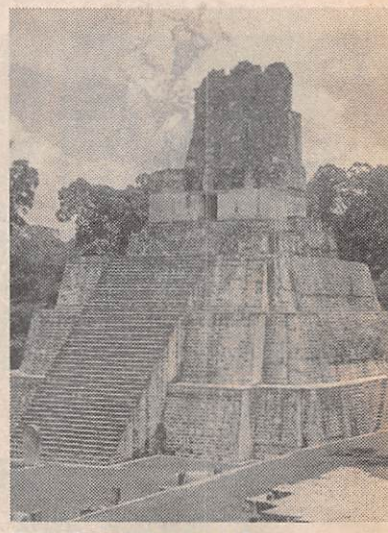
アフリカではアトラス山脈からエジプトまで、さらにその先、東のメソポタミアから古代インドまで、西のアメリカではメキシコやペルーまで、天文や数学を司る神官には同じような組織形態が見られる。また、黄金に覆われ、しばしば頂に神像の立つ神殿にも一致点が見られる。

さらに、共通のシンボル、例えば太陽の円板、神聖なヘビ（神秘の力の偉大さのシンボル――神秘の生命エネルギー〝クンダリニー〟を象徴しているものと思われる。『理想社会10』参照）、そして十字形のもの（世界の四方のシンボル）が存在しているのである。

大西洋は航海技術が未熟な民族にはとても自在に往来することのできない広大な海である。にもかかわらず、その両岸に見られるこれらの文化の顕著な一致点は、かつて大西洋上に両者の根源となり媒介となる文化が存在していたことを明らかにうかがわせるものである。

**◉存在したと考えるのが自然**

なお、以上の状況証拠をもとに、海没したアトランティス大陸から人々が両岸に移民したと考えれば、アステカ王国の都テノチティトランがアトランティスの首都ポセイディアと酷似している理由や、発祥のわからないマヤ族が突如出現して高度なマヤ文明を築き上げた歴史上のミステリーが容易に氷解するのである。



突如出現した高度なマヤ文明
――アトランティスの生き残りによって築かれたのであろう

また、一九三四年、イギリスのモーリス大尉が、南米ジャングル奥地に「石造神殿と白人インディオを発見した！」という謎の通信を残して消息を絶つという事件があったが、彼はアトランティスからの移民者の遺跡とその末裔に遭遇したのであろう。

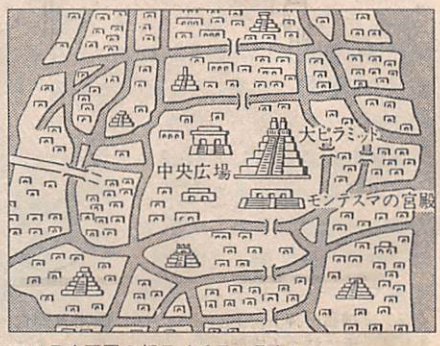
このように、アトランティス大陸が存在したと考えるだけで、あらゆる歴史や文化のミステリーがスパッと解明される。そのうえ、近年の科学的調査によって、約一万二千年前まで大西洋上に大陸があったということが明らかにされてきたのだから、もはやその存在は疑いようのないものだといえよう。

## 世紀の大発見！ アトランティスの遺跡が見つかった

しかも、である。大西洋の海底からアトランティスの遺跡が発見されたというのだから、もう決定的だ。

一九六八年のこと。アメリカの古生物学者、地理学者、考古学者であるバレンタイン博士が、大西洋に浮かぶビミニ島沖の海底で、長さ数百メートルの壮大な石壁を発見したのである。その他、環状列石や地上絵のような交差した模様、方形を示す巨大な遺構も発見。小型飛行機で上空から写真を撮ると、様々な幾何学的模様が認められたのだ。さらに、長さ一・二キロにも及ぶ石造りの道路まで海底に発見された。これは完璧な長方形の石をピッタリつなぎ合わせて作られたもので、人間の手によるものであることは明らかだった。

実は、この世紀の大発見、すでに予言されていたものだというから二度驚かされる。というのも、今世紀最大の予言者




アステカ王国の都テノチティトラン
――アトランティスの首都と酷似していた

といわれるアメリカのエドガー!ケイシー（詳細は後述）が、一九三三年に、

「ビミニ島付近の海中で、幾世代もかかって堆積した泥の中からアトランティス寺院の一部が発見されるだろう。」

と予言していたのである。また、一九四〇年には、

「ポセイディア（アトランティスの首都）が、再び浮き上がるアトランティスの最初の部分となるであろう。それは一九六八年から六九年の間で、それほど先のことではない。」

という言葉も残していたのだ。

そして、完全にこの予言どおりに、「ビミニ島沖」で「一九六八年」に遺跡が発見されたわけだ。バレンタイン博士は、発見後にこの予言のことを知って仰天したという。

さらに、科学的な裏付けもとられた。発見された海底建築物の石に付着していたマングローブの木の根を放射性炭素法によって調査したところ、それは一万年前のものだと判明したのである。つまり、海底建築物は、現在の考古学で世界最古とされている都市よりも遥かに古いことがわかったのだ。

その後も、海底から古代の神殿らしき石造建築物等が続々と発見されている。これらがアトランティスの遺跡であることはよもや間違いあるまい。

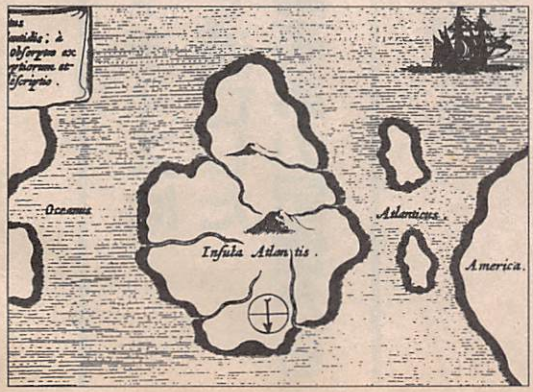
ビミニ島沖の海底で発見されたアトランティスの遺跡

## ヘルメスの影を求めて

さて、以上のように、プラトンの記述以来二千年以上続いてきたアトランティス論争も、現在ではほぼ決着がついたといってよい。〝幻の大陸〟といわれたアトランティス、それは確かに一万二千年前まで大西洋上に存在し、わたしたちの想像を絶する文明を謳歌していたのだ。そして、何らかの理由で海没した後は、その生き残りの優れた叡智を持つ住民たちによって、世界各地に現在の文明の種がまかれたのであった。

さあ、麻原尊師の起源ともいうべきヘルメスの舞台は、確かに存在していたことがわかった。しかし、だ。まだ肝心なことがわからない。というのも、以上に見てきた学者の研究には肝心のヘルメスの片鱗すら見られなかったからだ。ということは、尊師の起源をさらに求めて、アトランティスについて、さらに突っ込んで追究する必要がある。

そのために、次のパートからは、過去を見通すことのできる神秘的な力を持った人々のアトランティス談に耳を傾けることにしよう。



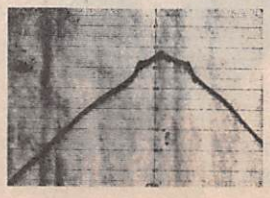

## アトランティスの遺跡だ!海底ピラミッドを発見

大西洋両岸にピラミッド文明が栄えていたことが、かつて大西洋上に両者の起源となる文明が存在していた根拠となることはすでに述べたが、それを見事に裏付けるような発見がなされている。

1970年、自然療法主義者のレイ・ブラウン博士が、バハマ諸島付近の海底でピラミッドを発見したのだ。30メートル上部が海底から露出していたもので、表面は鏡のようによく磨かれた石で覆われていたという。

さらに、1978年には海底ソナーによって、海底にピラミッドがあることがキャッチされた（図参照）。

これは、アトランティス大陸に栄えた高度なピラミッド文明の遺跡だと考えざるをえない。



PART 3

アトランティス滅亡……おごり、享楽、核戦争の果てに

# アトランティスでも人々を救済した麻原尊師

では、麻原尊師の起源であるヘルメスを求めて、さらにアトランティスを旅してみることにしよう。

## 第一章

## アトランティスはこうして滅亡した
## ——尊師高弟の記憶から

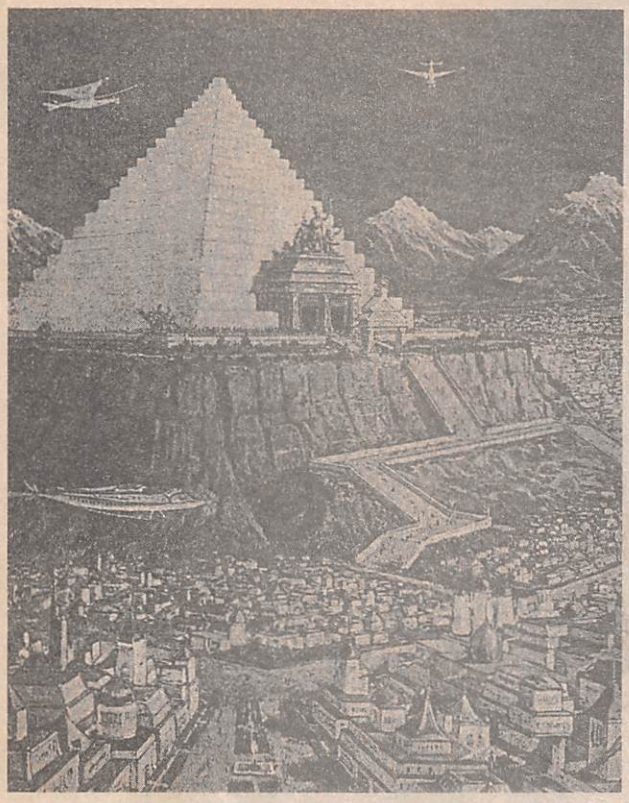
### これがアトランティス——尊師高弟が語る

こう語るのは、麻原尊師の一番弟子で、「大乗のヨーガ」と呼ばれる高い修行ステージに到達されている聖者マハー・ケ

アトランティスの記憶を語る
聖者マハー・ケイマ最上善逝

「その時代の人々は、現代人よりも精神性は高く、思念の力によって物を動かしたり、テレパシーが使えたり、予知能力を持っている人などがかなりいました。また、精神の力を重んじていた反面、現代のような鉄を中心とした文明ではなかったので、超高層ビルなどは存在しておらず、石造りの低い建物がほとんどでした。

現代よりも高い精神文明を有していたこの社会も、人々が怠惰になり、楽を求めてエゴを満たすことに心を集中し始めると、坂道を転げ落ちるように、人々の心は急速にすさんでいきました。その結果、悪業が満ちあふれ、報いを受けなければならないときが訪れてしまったのです。」



アトランティス——その悲劇が今甦る

イマ最上善逝（さいじょうぜんせい）である。聖者マハー・ケイマ最上善逝は、アトランティスからエジプトに至るまでの過去世（コラム参照）をお持ちで、宿命通（コラム参照）によって当時の様子をリアルに思い出されている。

そして、その記憶は、古今東西の著名なアトランティス研究家や神秘家たちの研究結果や、〝二十世紀最大の予言者〟といわれるエドガー・ケイシーの透視結果とも一致しており、きわめて興味深い。その一致点は次章で述べるとして、まずは聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶をもとに、アトランティスの悲劇を再現してみよう。

**書籍案内**

『真実！　六道輪廻』

六道とは、輪廻とは……。麻原彰晃尊師と高弟たちの瞑想体験が証明する六道輪廻の真実。臨死体験・大霊界・チャネリングなど、間違いだらけの死生観に終止符を打つ書。

980円

## なぜ、大昔のことがわかるのか——宿命通の秘密

「なぜ、大昔のアトランティスのことなんかわかるのか？」と不思議に思われる方のために説明しておこう。

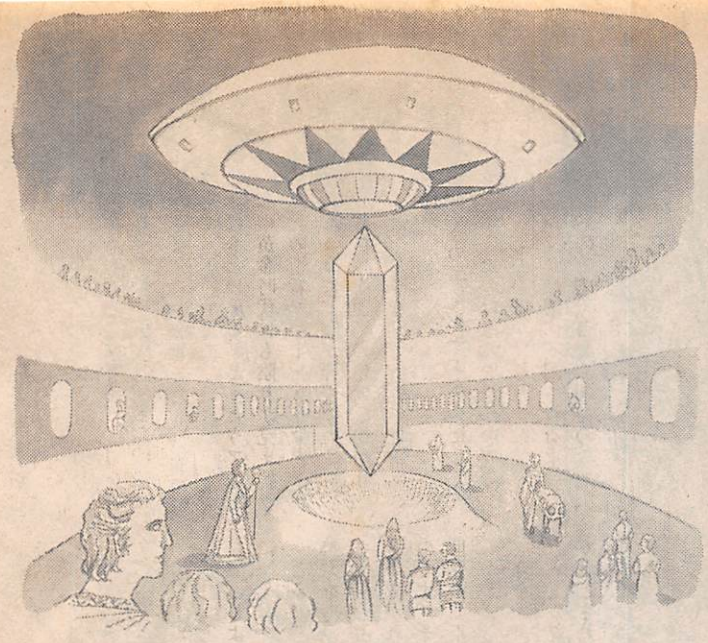
人間は肉体は滅びても、その魂は滅びない。次々と新たな体をまとって様々な世界に生まれ変わる。いわゆる輪廻転生である。

通常の人間は次の世界に転生する際にそれまでの記憶を失ってしまうため、過去世のことを覚えていない。だから輪廻転生の存在を信じられない人が多い。しかし、一部には過去世のことを鮮明に憶えている人がいて（ほとんどは子供なのだが）、その記憶と史実が一致することが学者の手で実証されることによって、現在では輪廻転生の存在が証明されている（輪廻転生についての詳細は、真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師著『真実！ 六道輪廻』を参照のこと）。

さて、修行をすれば、自分の過去世を思い出すことのできる「宿命通」という神通力を身につけることができる。高次元の世界には「アーカーシック・レコード」という、この宇宙でのすべての出来事が記録されたデータ・バンクがあるのだが、そこから過去のデータを読み取ることができるようになるからである。

オウム真理教の修行者にも原始仏教・原始ヨーガの修行によって、この宿命通を身につけている人が数多い。そんな中でも、アトランティス大陸での過去世を持っている人々は、アトランティス滅亡の記憶、そして当時の救世主についての記憶を鮮明に取り戻しているのだ。本文の聖者マハー・ケイマ最上善逝がその一人である。しかも、そういう人たちめいめいの記憶が皆一致しているので真実性が非常に高い。

アーカーシック・レコードと結びついた修行者



アトランティスでは神秘の宇宙エネルギーを利用していた

# アトランティスのスーパーエネルギー

**「アトランティス文明においては、宇宙から特殊なエネルギーを取り入れる研究が盛んに行なわれていました。そのエネルギーとは、二十世紀の現代人は全く知らない神秘のエネルギーで、地球上でそれを使うことができれば、寿命を延ばしたり、病を治したり、また食物を早く成長させたりすることができるという素晴らしいエネルギーでした。**

ただ、残念なことに、エネルギーを取り出す技術が不完全で、宇宙からそのエネルギーを取り出したときに、その威力が一千分の一とか一万分の一とかに落ちてしまっていたのです。よって、そのロスをいかに少なくするかということが、当時の科学者たちの課題でした。

そういうわけで、当時このエネルギーは使える量に限りがあり、非常に貴重なものでしたので、大陸の一カ所に集中してエネルギーを宇宙から取り込んで、そこから世界の国々へと振り分けるというシステムを採っていました。

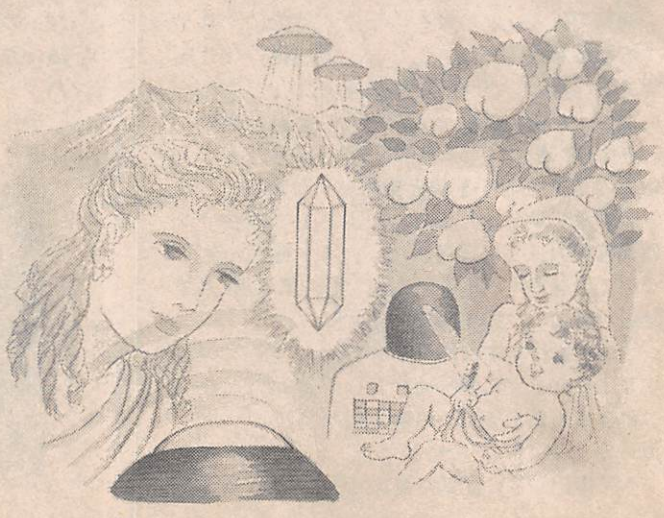
あるとき、一人の無名の科学者が、このエネルギーをほとんどロスなしに取り出すことに成功しました。この発明は画期的なもので、世界中が大喜びをして彼を称賛しました。それこそ、この無名の科学者は大天才として一躍脚光を浴びたのです。そして、**この天才科学者が、実は麻原尊師の前生の姿でした。**

尊師は当時科学者だったのですが、ほとんど毎日瞑想に没頭されていて、瞑想によって様々な発明・発見を行なっておられたのです。つまり、**現代でいう科学者というよりも、瞑想家、修行者といった方がよいかもしれません。**そして、この大発明がきっかけとなって、尊師の前生の弟子たちが続々と尊師のもとに集まり始めました。

また、尊師が発明されたエネルギーを取り出す装置は、他のだれかが真似をして作ろうと思っても決して成功はせず、尊師が作られたもの一台のみしかありませんでした。ただ、もともと尊師は、そのエネルギーを自分のために使おうとは考えておられなかったので、すべての人々に分け与えようと、それまで集中して宇宙からエネルギーを取り込んでいた場所に設置されました。**その結果、多くの人々が尊師の発明によって素晴らしい恩恵を受けることができるようになったのです。」**

なんと、聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶によると、麻原尊師は過去世においてアトランティス大陸に存在しておられたというのだ。

どうやら瞑想家兼発明家であられたようだが、確かに尊師は現在でも瞑想によって様々な創造活動をなさる。例えば、文章、音楽、占星学、経営、教育等々、宗教的活動以外にも極めて多彩な才能を発揮されるのである。これは、尊師が〝最終解脱〟という最高の修行ステージに達しておられるため、瞑想によって深い意識に入ることによって、常人を超えた鋭い叡智を得ることが可能であられるからに他ならない。アトランティス時代においても、同様の活躍をし、エネルギーの有効利用で人々を幸福に導いておられたのは十分うなずける。



尊師の発明で人々は素晴らしい恩恵を受けた

## 欲に支配されて——エネルギー争奪戦勃発！

さて、話はもとに戻る。とうとうアトランティスの黄金時代にも陰りが見え始めてきた。次の聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶のように、時が経つにつれてアトランティスは崩壊への急坂を転がり始めていったのである。

「しかし、そのエネルギーも、正しく使うことができたのはほんのつかの間でした。すでに世の中はかなり悪化しており、多くの人々が欲望に支配されるようになっていたのです。自分の利益のみを考える人々が、この素晴らしいエネルギーを独占しようと考え、行動を起こすまではそう時間はかかりませんでした。

とうとう戦争が始まりました。当時、勢力を持っていた国の一つがこのエネルギーを独占しようとして、エネルギー装置が置かれている場所を武力で占拠したのです。その装置が設置されていた所は、世界中で不可侵条約が結ばれていたのにもかかわらずです。それに怒った他国が連合を組んでそのエネルギーを取り戻そうとした結果、核爆弾に似たようなものが落とされたのです。これによって、多くの人々が亡くなりました。」

とうとう戦争が始まった!!

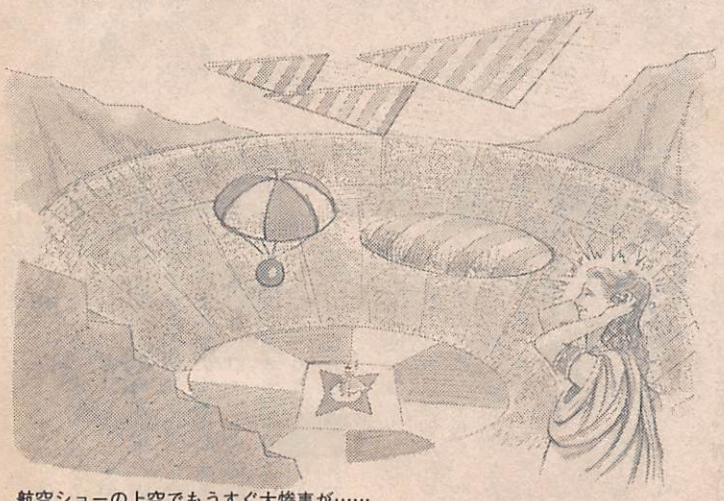
## とうとう核爆弾が炸裂!!

こうして、精神性が地に堕ちたアトランティス人たちは、いよいよ核戦争を開始した。核兵器が大量殺戮のために一般民衆の上で容赦なく炸裂していった。そのときの惨状を聖者マハー・ケイマ最上善逝は次のように語る。

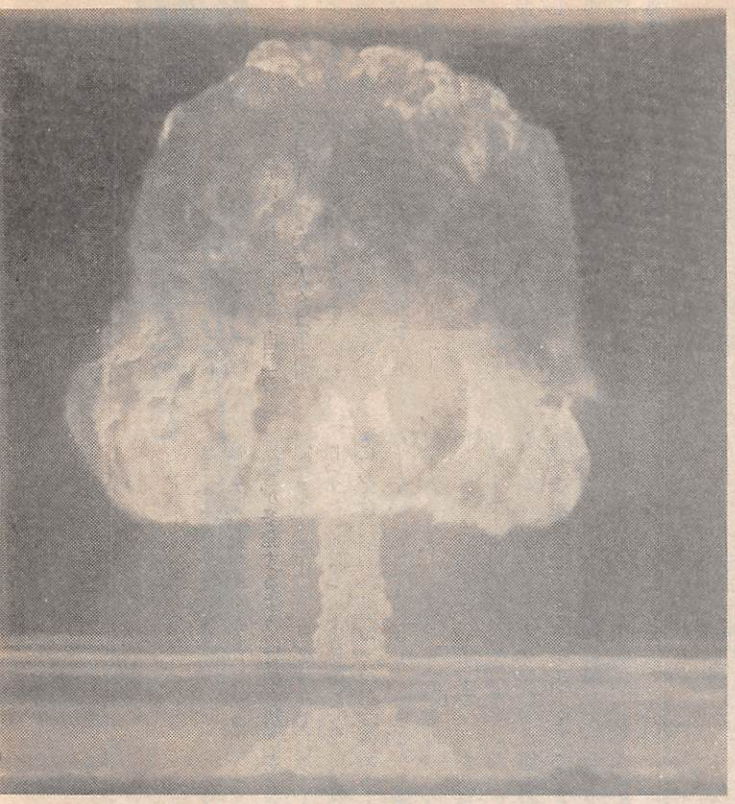
「そのときは、ローマのコロッセウムのような大集会場に、数万人の人々が集っていました。そこは、山と山のはざまにある谷のような地形の所にあって、新しく開発された円盤のショーが開かれていました。青と黄色のストライプ模様をしたひし形の円盤や、落下傘のような形をしたもの、それから、その当時では一般的だった葉巻型のものなどが何機か宙に浮いていて、今でいえば航空ショーのようなものでした。

わたしもその場に居合わせたのですが、突然強烈な頭痛に襲われ、脳裏に閃光がきらめきました。そして、大爆発が起こるヴィジョンが目の前に現われたのです。『このままでは危ない、あと数時間後に大変な惨事が起こる』と確信したわたしは、周囲に同じヴィジョンを見た人を探しました。思ったとおり、数人の人がわたしと全く同じヴィジョンを見ていました。

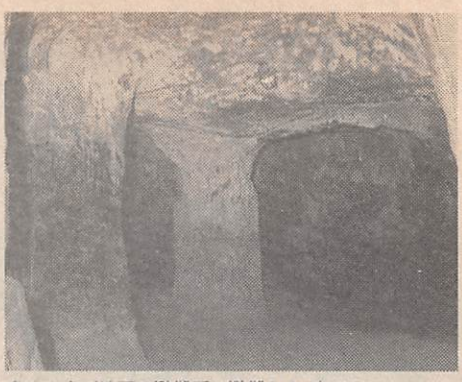
その後、わたしたちは周囲の人々に今見たヴィジョンを話して、石造りの集会場の地下にある避難所に入るように呼びかけました。その避難所は、地下数十メー



航空ショーの上空でもうすぐ大惨事が……



アトランティス民衆の上で、核爆弾は容赦なく炸裂していった



多くの人が地下の避難所に避難したが……

トルの所にある巨大な石造りの地下室で、天変地異や戦争などの、万一の時に備えて造られたものだったのです。

数時間かけて、多くの人々が地下室に避難しました。しかし、避難した人よりもさらに多くの人々が、わたしたちの言葉を信じずに、ショーを見物していました。その人たちを地上に残したまま、わたしたちは最後に、何重にもわたる重い岩でできた扉を閉めました。

まもなく、大きな爆音と同時に強烈な震動が起こり、わたしは、目をつぶっているのに目がつぶれるかと思うほどの白銀色の閃光を見ました。今でいう核爆弾のようなものが落ちたようなのです。

数時間後、震動がおさまったので、岩の扉を開けて、長い階段を地上に向かって歩いていくと、爆発のときに階段の所にいたと思われる人々が何十人も倒れていました。そして足元をよく見ると、何か三センチくらいの丸い肉の塊らしきものが、たくさんゴロゴロ落ちています。何だろうと思い、一つ手に取ってみたところ、思わずギョッとして、すぐに落としてしまいました。なんと、それは人間の足の親指だったのです。

その当時は、足の指に金属製のリングをはめることが流行していました。そして、足がむき出しになるようなサンダルを履いていたので、爆発の何らかの作用によって金属リングが反応して、その先の指が切り取られてしまったのでしょう。血は一滴も流れておらず、指の断面は、所々黒く焼け焦げていました。」

こうしてアトランティスの大戦では、とうとう核兵器まで飛び交い、大規模な殺し合いに至ったのである。

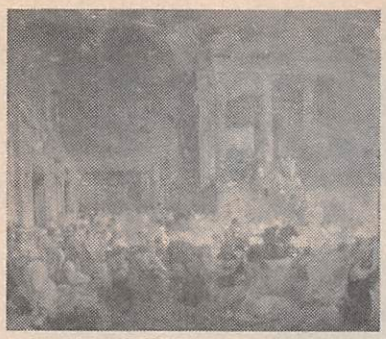
有史以前に核戦争があったというと驚かれるかもしれないが、実はアメリカのホピ・インディアンや古代マヤ、その他の中米の種族には、空中の大戦争、爆発による大都市の崩壊の伝説が残っているのだ。また、数千年間の伝説を伝える古代インドの古書にも、ロケットや強烈な閃光の中で軍隊が全滅する様子が述べられている。おそらくこの戦争の模様が描写されているのではないかと考えられるのである。

なお、指輪で指が焼き切られるという現象についてだが、これは強烈な熱や特殊な電磁波などを大量に、それも一度に受けた場合に起こり得ることだ。また、血が出ないということだが、これは現代でも超音波メスを使用して手術すれば血管を焦がして塞いでしまうのでそうなるのであり、聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶は科学的な面から見ても正しいことがわかるのである。

## 救世主、アトランティス滅亡を予言

さて、アトランティスは乱れに乱れ、いよいよ終末の様相を呈してきた。実は、ここでまた過去世の麻原尊師が登場するのである。それも重要な役割で。尊師は、アトランティスの滅亡を予言し、心正しき人々をそのもとに集め始められたのだ。聖者マハー・ケイマ最上善逝の話は続く……。

「この戦争が始まる前後に、麻原尊師は遠からずこの文明は滅びることを予言され、縁ある者たちに尊師のもとに集うように呼びかけられました。それによって、数千人の者たちが集まり、集ったすべての者たちが乗り込むことのできる潜水艦の建造が開始されました。尊師は、縁ある人々に呼びかけられた時点で、大



エネルギーの過剰摂取によって各地に天変地異が続発!!

破局が起こること、そして、広大な大陸がほとんど沈んでしまうことを透視しておられたのでしょう。だからこそ、潜水艦の建造を急がれたのです。

エネルギーを巡っての争いは、何年にもわたって繰り広げられました。自己の利益によって目がくらんだ人々は争いに争いを重ね……、その間、そのエネルギーを手にした国では、できるだけ多くの利益を得るために、装置の限界をはるかに超える大量のエネルギーを取り出し続けていたのです。

しばらくすると、地球のいたるところに変化が表われ始めました。**様々な天変地異が多発するようになったのです。**地震、噴火、津波、雨が全く降らなかったり、大洪水になったり。**これは、あまりにも大量の、地球上にないエネルギーを宇宙から取り入れ過ぎたために、アストラル空間が歪んで、人間界のバランスが崩れてしまったからです。もちろん、人々のなした悪業が頂点に達し、悪業の報いが返る時期でもあったのでしょう。**」

尊師のもとに集まった者たちは潜水艦に乗り込んだ……

ここに、アトランティスが崩壊した直接的な原因が明らかにされている。欲にとらわれた人間たちによる宇宙エネルギーの過剰摂取の影響で天変地異が起こったのだ。もちろん、"成したことは必ず自分に返ってくる"という「カルマの法則」によって、人類にそれまでの悪業が返ってきたということがその背景にあるのだ。

## 悪業の実が熟して
## ——アトランティスの滅亡

相次ぐ天変地異のさなか、麻原尊師の予言によって集まった縁ある者たちは、いよいよ大陸を脱出して新天地へ向けて旅立っていく。聖者マハー・ケイマ最上善逝の話はクライマックスを迎える。

**「ある日、瞑想をなさっていた麻原尊師は、突然弟子たちに潜水艦に乗り込むように指示されました。シヴァ大神の示唆によって、この世の悪業が限界点に達したのを感じられたのです。**

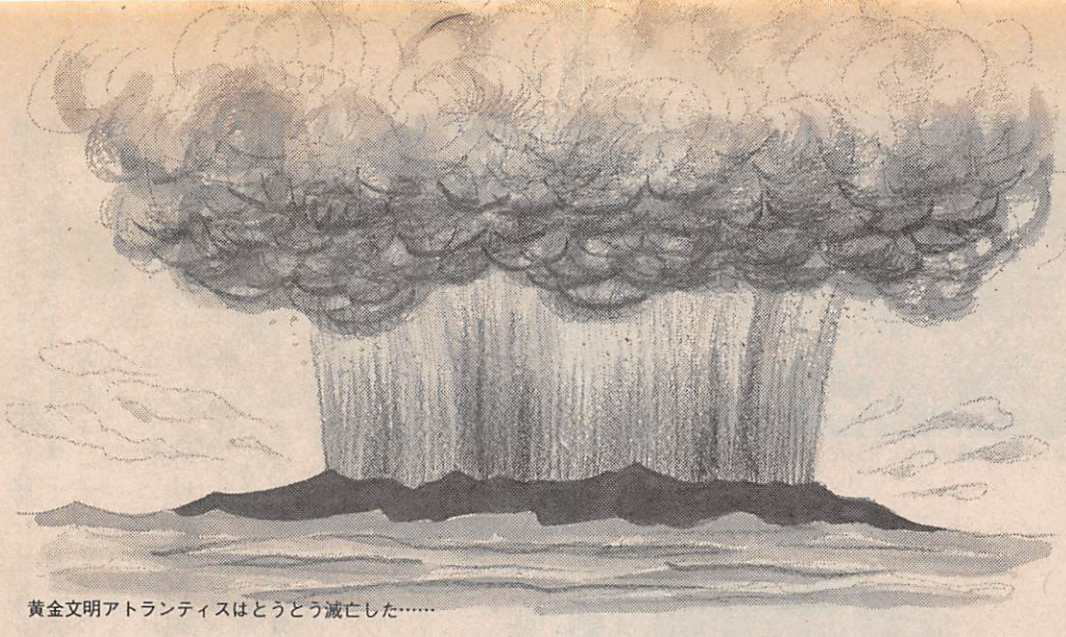
このとき尊師の弟子の数人（この中のリーダーは、今のオウム真理教のQ正悟師です）が争いのもととなっているエネルギー装置のスイッチを切りに行っていました。なぜなら、それを行なっておかないと、地球全体のエネルギーのバランスが崩れて、その後、生き物は住めなくなってしまう可能性があったからです。

Q正悟師の一行を除いて、尊師と弟子たちはすべて巨大な潜水艦に乗り込みました。もういつでも発進できます。この潜水艦の中には、現在オウム真理教で功徳を積んでいる出家修行者の姿（前生）もかなり見受けられました。

約束の時間になっても、Q正悟師は戻りません。三十分過ぎ、一時間過ぎ、二時間過ぎても戻りません。

予定の時間は刻々と迫っています。そ

エネルギースイッチを切りに決死行!



黄金文明アトランティスはとうとう滅亡した……

ろそろ大きな災害が起き、それに伴って大津波が押し寄せてくるころです。だんだんと、弟子たちの中にいらだちがわいてきました。

六時間経過しても、まだ戻りません。そばにいた者が、『尊師、彼を待たずに出発してください。尊師のお体も危険です。』と言うと、

『Qは必ず戻ってくる。彼は行かなければならない人なのだ。お前たちは先に行け。わたしのことなどどうでもよいのだ。わたしはここに残る。』とおっしゃって、弟子たちに先に出発するように促されました。この尊師のお言葉によって、すべての弟子たちは、尊師の深い愛と強い覚悟を知って心を打たれ、だれ一人として先に行こうとする者はいませんでした。

予定の時刻が訪れました。もういつ何が起こってもおかしくない……。皆で覚悟を決めて瞑想を行なっていたそのとき、Q正悟師の一行は帰ってきました。それと同時に、潜水艦は全速力で陸地を離れました。

その潜水艦の中には、神通力でレーダーの役目を果たす人が数人いて（もちろん艦には様々な計器も付いています）、最も速く、安全に艦を走行させていました。しばらくして、皆の緊張が少し緩みかけたとき、麻原尊師が言われました。

『今、まさに悪業の実が熟した。』

ちょうどそのとき、潜水艦に乗っていたすべての者は、背後にある巨大な大陸が真っ赤な炎で包まれ、そして海底に吸い込まれるようにして沈んでいくヴィジョンを同時に見ていました。

広大な大陸アトランティス――富み栄え発展し、そして堕落してしまった多くの人々が住んでいた大陸。それが、いっときのうちに沈んでいくその光景は、壮大なカルマの清算というにふさわしいものでした。人々が作り上げたすべての物は、一瞬にして無に帰したのです。この大陸の上にいて、生き残った者は、皆無に近いように見えました。」

このようにして、伝説に残されているとおり、アトランティス大陸は大西洋の底深くへと沈んでいったのだった。

## 古代エジプト文明の夜明け
## ――救世主のもとに

「一方、麻原尊師をはじめとする真理の実践者たちを乗せた潜水艦は、ものすごいスピードで海中を潜行していました。大陸の沈没にも巻き込まれることなく、ひたすら走り続けました。まさしく、この艦は『ノアの方舟』ともいえるものではないでしょうか。修行をし、真理を実践する者のみが生き残ったのです。

麻原尊師は、七日間、深いサマディ（究極の瞑想状態）に入られました。一睡もせずに、一食もとらずに……。七日目にサマディからお醒めになり、シヴァ大神の啓示によって決定された、ある場所に向かうように指示されました。

数日後、陸地に近付きました。しかし、その陸地の横を通り過ぎてしばらく走り続け、わたしたちの艦は大きな河口に差しかかりました。ここの光景は、わたし

シヴァ大神の啓示を受けて、潜水艦は潜行を続けた

の見たヴィジョンの最後の部分ですが、そのときのわたしは、潜水艦の中でワーク（奉仕行）をしていると同時に、もう一つの意識があって、その意識は空を飛んでいました。空から地球の風景を見ていたのです。海から大河に入り、そしてその周辺にある広大な三角州、何本もの河口、そして河から奥に進んで行くと、見渡す限りの森林地帯、そして砂漠……。

**『ここはアフリカ大陸であることは間違いない。そして、この河はナイル河だ！』**

と、わたしは思いました。

その後、潜水艦は海から河口に入り、河幅が何キロもあるような下流を少し走ってから停まったのです。そして、艦の中の者たちは、陸地に降り立ちました。

**この日、わたしたちが降り立ったそのときより、新しい正法の時代は幕を開けました。一つの小劫（宇宙の転変の一つの区切り）が終わり、新たなる小劫が始まったのです。この地、シヴァ大神の示唆なさったナイル河の岸辺、エジプトを拠点として……。」**

聖者マハー・ケイマ最上善逝の話はひとまずここで終わる。

——なお、その後のことだが、聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶によると、尊師以下のメンバーがエジプトに上陸した際、当初は驚いた現地人によって攻撃を受けたという。しかし、尊師はそのとき〝完全なる四つの無量心〟によって相手の攻撃心を失わせるか、もしくは攻撃されてもその武器をはね返す神通力をお使いになり、**現地人の攻撃を平和裡に鎮めたのだという**（この力は仏教経典にも「慈心三昧（じしんざんまい）」として記されている）。

そして、上陸後は、**麻原尊師がアトランティスから伝えた〝真理の法則〟に基づく世界の建設が始められたという。それは、上は政治形態から下は人々の生活の細部にまで、真理の法則をすみずみまで行きわたらせるというものだった。そして、真理の修行体系を後世に残すために、あらゆる方法を使われたのだという。**

人類最古の文明といわれる古代エジプト文明は、こうしてナイル河のほとりに夜明けを告げたのであった。それは、今から一万年以上も前のことだといわれている——。

第二章

# あのエドガー・ケイシーも同じ光景を見ていた

## アトランティスを透視していた大予言者エドガー・ケイシー

これまでいかなる書物にも著されることのなかったリアルなアトランティス滅亡の描写――。これもすべてアーカーシック・レコードを読むことのできる修行者だからこそ可能な描写なのである。

↑アトランティスについて多くを透視した"20世紀最大の予言者"エドガー・ケイシー
←彼が残した膨大なリーディングの記録

「でも本当なのか」

とおっしゃる方には、それを証明するもう一人の有名な人物の例を挙げよう。

アーカーシック・レコードを読んでアトランティス文明の描写をしていることで世界的に有名な人物といえば、そうアメリカの予言者エドガー・ケイシーである。彼の描写は聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶と一致しているのだ。

彼について少し話そう。〝二十世紀最大の予言者〟〝眠れる予言者〟と呼ばれた彼は、幼少の頃から霊視能力に優れ、常人の想像もつかないような神秘的な体験を両親に話しては彼らを驚かせていた。『聖書』を読んでイエスの優しさに感動し、常に神への祈りを捧げていた彼は、ある日一面白い光に包まれ、「悩める者に救いの手をさしのべよ」という何者かの声を聞いた。それをきっかけにして、彼には不思議な能力が身についた。

それが、催眠状態下でアーカーシック・レコードを読み取る「リーディング」という超能力である。彼自身、リーディングは「アカシヤの記録」に触れることによってなされると述べており、また、このことは科学的事実でその法則性は発見可能であり、いつの日にか発見されるだろうとも語った。

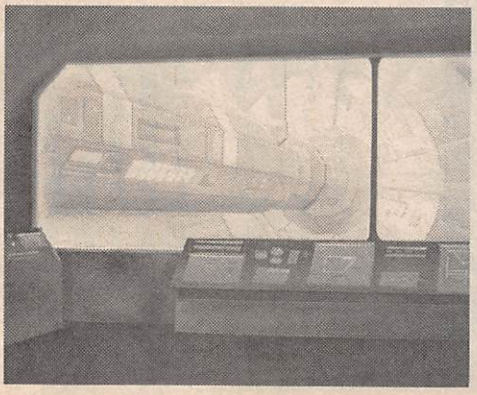
彼はこのリーディングによって、一度も会ったことのない病人の病因を突き止めて治療してしまったり、様々な人生に対する問題を解決したり、未来に起きる出来事を言い当てたりしてきた。その驚異的な適中率はアメリカ全土にたちどころに知れ渡り、彼を頼ってやって来る人が絶えなかったという。それらのリーディングは一万五千件にものぼり、約五万ページの資料に収められている。

その中でとりわけ関心を集めているのが、アトランティス文明に関するリーディングなのである。彼は依頼者の質問に答えて、アトランティス文明に関して相当多くの透視をし、回答を行なっている。そして、その描写は見事なほどに、先程紹介した聖者マハー・ケイマ最上善逝の話と一致しており、正大師の記憶の正しさを裏付けているのである。では、その一致点を次に述べてみよう。

## 神秘のエネルギー装置、〝ツーオイ石〟

アトランティスで用いられていた神秘のエネルギーについて、ケイシーはリーディングをしている。それを要約すると次のようになる。

「それは、『霊的、超自然的力から得られる無限の力』であり、そのエネルギーを取り出す装置は『偉大な水晶体〝ツーオイ石〟』であった。形状は六角形で、現在でいうプリズムあるいはガラスによって太陽エネルギーを収束した。このエネルギー装置は大陸の中央部に設置され、航空機、船、通信、照明、加熱等に広く応用された。また、その光線の応用によって、一人一人の身体は再生され、しばしば若返させられた。それは最初用いられ



ていたものとかなり異なる形に変化していき、当時その石の操作は秘伝を受けた者のみに任せられていた。」

さて、ケイシーのいうこの「ツーオイ石」の特徴は、お気づきのように、聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶と一致する。すなわち、「宇宙から特殊なエネルギーを取り入れる」「寿命を伸ばすことが出来る」「大陸の一カ所に集中してエネルギーを宇宙から取り込んで」という点において、また「秘伝」者であられた麻原尊師によって最初に用いられたものより優れたものが開発されていったという点において完全に一致するのである。

## 大陸崩壊の原因——堕落した者たちによるエネルギーの濫用

ケイシーが、アトランティス崩壊の経緯と原因についてリーディングしたことを要約すると、次のようになる。

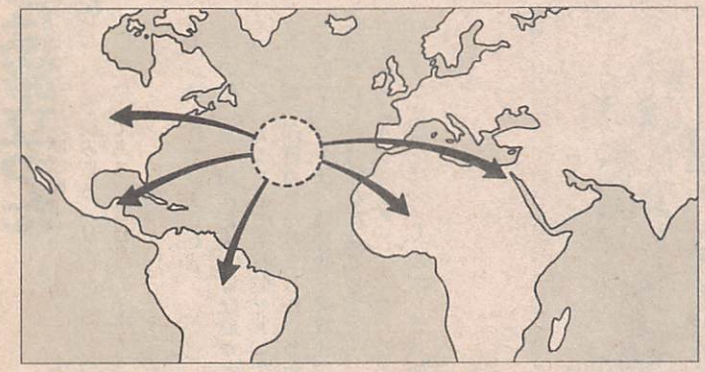
「ある時代になると、〝神の掟の子ら〟と〝ベリアルの子ら〟との間に対立が生じた。ベリアルの子は物質的なことをその源がなんであるかも考えず、人の苦しみも考えずに自分のためのみに使うことに満足していた者たちである。換言すれば、今でいう道徳心に欠けた者達だったのである。ベリアルの子らは、自分以外、自我の満足以外何も基準を持たなかった。」

ここでケイシーがいう「ベリアルの子」というのは「悪魔の子」と言い替えてもいいかも知れない。彼らは物質的な煩悩に汚され、利己的に地上を支配しようとしたのである。「神の掟の子」とは霊的存在としての自己を確立しようとしている魂のことである。余談であるが、さながらこの二者の対立は、現代日本において煩悩肯定主義の国家・マスコミと、煩悩破壊を目指すオウム真理教との関係を連想させる。

さらにケイシーの話は続く。

「そして、次第にベリアルの子らが台頭するようになり、ツーオイ石によって得られるエネルギーを物質的欲望や快楽のために濫用するようになった。また、拷問や刑罰に使用するようにもなった。ツーオイ石は太陽の反射量をスイッチの調節で加減することにより作用したのだが、最高点に調節するとすべてを破壊するパワーを持った。ベリアルの子らは、これを高水準に調節したために、地球の火山活動を引き起こし、最後の大洪水をもたらした。今から約一万二千年前のことである。」

このケイシーのリーディングも聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶と一致する。すなわち、「自己の利益によって目が眩んだ人々」の手によって、「装置の限界を超える大量のエネルギーを取り出し続け」、その結果として「地球の至る所に変化が現われ始め」、「様々な天変地異が多発」するようになり、大陸の滅亡を招いたという点においてである。



アトランティス人は大西洋両岸の様々な土地に避難した

## 〝神の掟の子ら〟エジプト等へ脱出！

そして、ケイシーは正しき心を持つ〝神の掟の子ら〟が、アトランティス大陸からエジプト等へ脱出していく模様も次のようにリーディングしている。

「ポセイディアとアトランティスの島々が最後の崩壊を迎えようとしていることを神の掟の子らは知り、そして多くの指導者が人民を誘導して様々な土地に移住していった。例えば、エジプト、アメリカ、ユカタン半島、ペルー、エクアドル、メキシコ、ピレネー等に。また、ベリアルの子らの活動の多くを知り、また神の掟の子らの発していた警告を知っていた人々も、他の陸に移り住もうとする人々に加わったのである。」

その中でも、技術的に進歩した有力な人々がエジプトのナイル河畔に組織化された移住を行なったということは、一般的なリーディング解釈において疑いの余地のないところとされている。ケイシーによると、彼ら神の掟の子らは、移民先のエジプトにおいて進んだ技術を広め、神殿の建設等を助けたというのである。

### ◉聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶はやはり正しかった

以上にご紹介したように、エドガー・ケイシーのリーディングと、聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶とは見事に一致している。もちろん、聖者マハー・ケイマ最上善逝は、宿命通によってこのヴィジョンを見る前に、エドガー・ケイシーの本などは読んだことはないし、またその後の今もない。つまり、聖者マハー・ケイマ最上善逝の記憶の正しさは、〝二十世紀最大の予言者〟と呼ばれたエドガー・ケイシーのリーディングによって裏付けられたのである。

# 決死の脱出！ 新天地へ向けてわたしたちは旅立った

## ——聖者マハーケイマ最上善逝と同じヴィジョンを見たオウム真理教修行者

オウム真理教には「宿命通」によって自分の過去世のヴィジョンを見ることのできる修行者が多数いるが、実は、アトランティス大陸脱出時の聖者マハー・ケイマ最上善逝のヴィジョンと同じヴィジョンを見ている修行者がいるのである。今現在オウム真理教に集っている人たちは、遥かの過去にも法縁によって、今生と同じように尊師のもとに集まっていたのだろう。

では彼らの体験談を以下に掲載しよう。それまで連絡を取り合ったこともなかった各個の修行者が、それぞれ別の時期に重複した同じヴィジョンを見ているのは面白い。

聖者タントラジェーンティー
到達光師

### ◉船に乗らなかった人には哀れみを感じました

その島（島といっても小さな島ではありませんでしたが）での暮しは恵まれていて、食物に困るようなこともありませんでした。でも、天変地異のような大変なことがもうすぐ起きるから、船に乗って逃げなければならなかったのです。

その船に乗り込む日は晴れていました。気候は暑くもなく寒くもなく、どちらかというと暖かい感じでした。港の周囲には特に建物も見えず、土の見えているところが多かったものです。

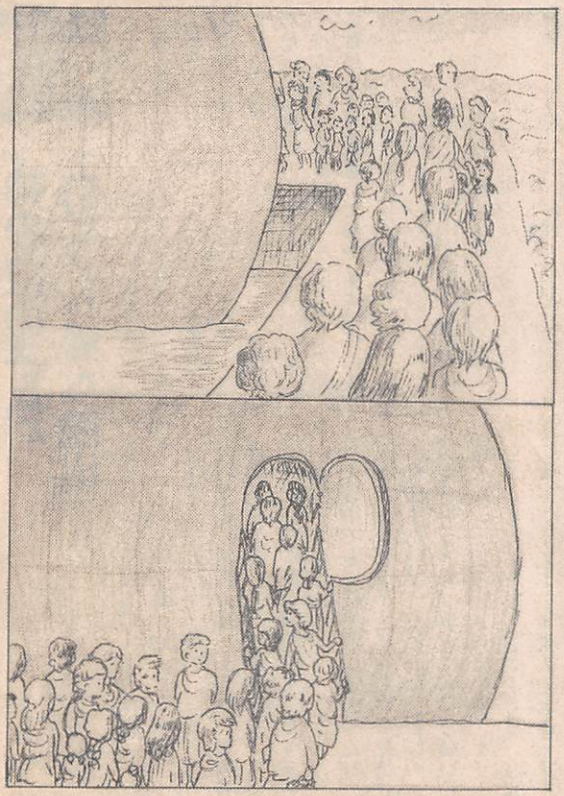
その船は、船といっても普通の船の形はしていませんでした。全体的に丸っこくて、デッキは見えなかったのです。鉄のような素材でできていて、黒っぽく、少なくとも一千人以上が乗れそうなかなり大きな船でした。わたしが見た限りでは、少なくとも三百名以上の人が百メートル以上の列をつくって順番に乗り組んでいました。乗り込むときは船体右側にある入口から、飛行機に乗るときのようなタラップを通じて乗り込みました。船のドアも、飛行機のドアのような密閉式だったと記憶しています。

船の中が薄暗かったのが印象に残っています。入って左に曲がると、廊下の左側に階段席状の大きなホールがありました。そこで何かの上映があるかもしくは偉い人の話があるというので、集合命令がかけられていました。

その船に乗り組んだ人々は統制がとれていて、どんなときでも行動を共にするような強い団結力がありました。わたしたちのリーダーは、精神的・宗教的な意味において絶対的な存在でした。

なお、船の中にはスーパーマーケットのような食品を置いてあるコーナーがありました。外の廊下は暗いのに、そこだけ明るかったのです。廊下とそのコーナーを仕切る壁は窓ガラスでできていて、廊下から中を見ることができました。今でいえばコンビニエンスストアの「セブンイレブン」のような感じのコーナーでした。他にも寝台列車の個室のような小さな部屋がたくさんあり、その窓は丸い形をしていました。

これから起きる出来事を信じなかった人々は船に乗っていませんでした。わたしは彼らに対して大変な哀れみを感じていました……。



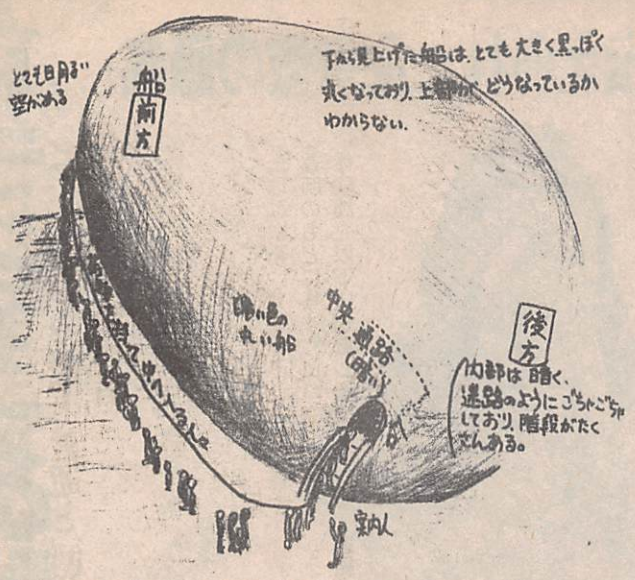
聖者タントラジェーンティー到達光師が描いた潜水艦への乗り込み風景

## ◉安心と不安が入り交じっていました

聖者タントラヴァジリ上流師

その島にいたわたしには、「何かが起きる！」「危険だ！」という不安があったのです。特に海関係の災害、例えば陸地が沈んでしまうというような恐怖感に、周りの人もとらわれていました。

ある晴れた日、周囲に何も建物の建ってない港のような所から、わたしたちは荷物を抱えて列を作って船に乗りました。船の形は丸っこくて、色は黒く、デッキがありませんでした。わたしは列の一番最後で、船の右側にあった入口から乗りました。乗り込むときに上を見上げたのですが、とても大きくて丸いということを感じ、また窓も密閉されていたので、ここで初めて潜水できる船なのだと気づきました。




聖者タントラヴァジリ上流師が描いた潜水艦への乗り込み風景

船の中の様子ですが、入ってすぐは薄暗さを感じました。中央に通路があり、サイドに部屋がありました。わたしがまず入ったのは、前方の左側の部屋でした。本来なら皆自分の部屋に行くはずなのですが、そこでは皆が何かの目的で一時的に集合していました。船の中には人がたくさんいて、親子、兄弟、家族等が結構いたように思います。しかし、わたしは家族と一緒ではありませんでした。もちろん家族はいたのですが、全員ここに連れて来れなかったという悲しい気持ちがありました。だから、だれかとまとまって行動するということはなかったのです。

また、船の後部には部屋がなく、いろいろな機械類や階段があってごちゃごちゃしていたのを覚えています。中は暗く、わたしはまるで迷路をくぐり抜けるようにして、そこで二人で作業や点検をしていました。船の中は空気が張りつめたような雰囲気でした。

船に乗り込んだときですが、わたしはやっとこれで安心できるという気持ちと、本当に大丈夫か、これからどうなるのかという不安を感じていました。

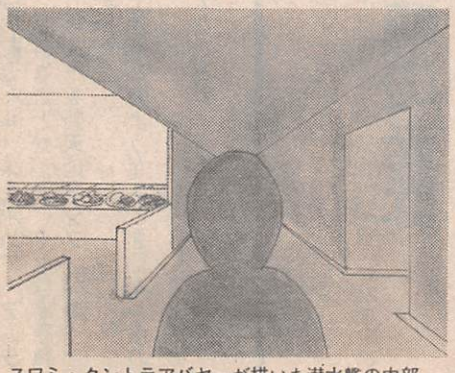
## ◉普通の船ではなくて緊迫感がありました

スワミ・タントラアバヤー

その船は普通の船ではありませんでした。中は薄暗くて重々しい感じのする船でした。また、静かに動く船だったと思います。わたしはその中を、大きな迷路を探検するような気持ちで歩いていました。他の人は皆どこかに集まっていたので、わたしの周囲にはだれもいませんでした。

船の中にはセルフサービス形式の明るい店がありました。外は暗いのに店だけ明るかったのです。店員はいませんでした。壁はガラスでできていたので、中が見えました。マクドナルドの店のような感じがしました。

船の中は暗くて、赤黒い絨毯のようなものが廊下には敷かれていました。通路は上下に湾曲していたようです。船の中全体に緊迫感が漂っていました。



スワミ・タントラアバヤーが描いた潜水艦の内部

PART 4

# アトランティスの秘法、古代エジプトより全世界へ

## 麻原尊師から伝えられた全宗教の源泉

ノストラダムスが言っていた麻原尊師の起源ヘルメスを求めてのアトランティスの旅。そこからわかったことは、意外なことだった。それは麻原尊師がその時代に、アトランティスの心正しき人々を新天地エジプトへ導くという重要な役割をされていたということだった。

では、果たして尊師一行はエジプト上陸後どのようなことを行なったのだろうか？

実は、それは人類史上あまりにも偉大なことだったのだ……。

### 第一章

## 世界の古代文明の光は尊師から

### エジプトに高度な知識をもたらした〝神の掟の子ら〟

麻原尊師の導きによってエジプトに上陸したアトランティスの人々。エドガー・ケイシーは彼らを〝神の掟の子ら〟と呼んだが、彼らは母国の進んだ知識や科学技術をエジプトに持ち込み、現地の人々の技術水準・生活水準を飛躍的に向上させることに貢献した。現に、その状況証拠は数多く見られる。

例えば、パート2のコラムで紹介した、サッカラ墳墓から発掘されたグライダー状の模型（23ページ参照）や、ハトホル

科学者が見ても白熱電球としか思えないハトホル神殿のレリーフ

アトランティス人の到来で高度に発達した古代エジプト文明

## 古代文明の発祥はアトランティスから!?

電発電機やペニシリンの製造法がそうである。現代の専門技術者が見ても思わずうならざるをえないような高度な科学技術が、なぜ人類最古の文明といわれるエジプトに突如出現したのかというと、それはアトランティスからもたらされたからだと考えるのが自然であろう。

事実、宇宙考古学の権威・南山宏氏も、次のように述べている。

「古代エジプト文明の発祥をめぐる最大の謎は、文字、天文、地理、建築、政治、法律、宗教といった文明の基本骨格を最初からすべて備えて出現し、以後進歩らしい進歩のないまま、しだいに衰微の一途をたどったという点であり、このことは正統的なエジプト学でもはっきり認められている。しかし、この文明がじつはアトランティスからその遺産を受け継いだのであれば、謎は一挙に解決する。」

しかも、エドガー・ケイシーのいう、この〝神の掟の子ら〟がもたらした進んだ文化は、エジプトだけではなく全世界に伝播し、世界中の古代文明の基盤ともなったという。

例えば、『失われた大陸——アトランティスの謎』の著者として有名なE・B・アンドレーエヴァは、こう言っている。

「人類最古の文明といわれるエジプト文明、メソポタミア文明、インダス文明の間には相似た特徴があり、共通の性格を帯びている」

と。すなわち、都市の生活様式、禾本科(かほんか)植物の栽培、大きな有角動物（牛）や羊の飼育、冶金術、織物技術、煉瓦や土器の製造、堅い石に孔をあけたビーズの製作、瑠璃への愛着、陶器を知っていたこと等が一致するという。これらの共通点に基づいてアンドレーエヴァは、「古代文明の三つの中心の間には明白な交渉があった」と述べている。

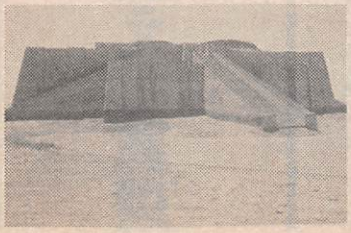
つまり、エジプト文明のみならず、メソポタミアやインダスの文明もアトランティス系統の人々の到来によって発祥したのではないかと考えられているのだ。

事実、メソポタミア文明の場合、民族系統が全く不明のシュメール人によって突如高度な文明が築かれたという歴史上の大きな謎がある。またインダス文明の遺跡モヘンジョ・ダロは最初から完全な都市計画に基づいてつくられており、完璧に近い下水道網まで備えていた。しかし、普通の遺跡に見られるような考古学的遺跡はほとんど残っておらず、だれによって築かれたのか全くわかっていない。さらに同文明のハラッパ遺跡の場合も、その担い手たちがはっきりせず、エジプトと同じように最初から最後まで、文字の分野でも、芸術、冶金術、建築の分野でも発展しなかった。そして紀元前二〇〇〇年紀の前半には完全に消失するという一方的な退化の過程をたどっているのだ。

また、両文明とも当初は現代の常識では考えられない高度な科学技術を持っていたのだ。というのも、メソポタミア（現イラク）の遺跡からは粘土製のつぼを外器とした〝古代の乾電池〟が発見されているし、古代インドの文献にも乾電池の製作法が残されているのだ。十八世紀になって発見されたはずの電池の原理がすでに古代において応用されていたこと、そして文明が突如発生し退化していった過程から考えるならば、やはりアトランティス系統の古代エジプト文明がこれらの古代文明の礎を築いたものと考えざるをえない。

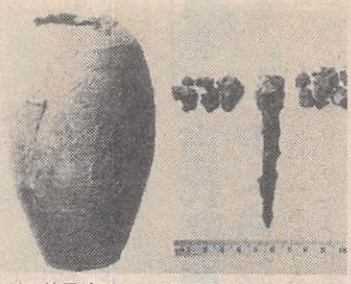
だれによって築かれたのかわからない高度な都市モヘンジョ・ダロ↓

突如高度な文明が発達したメソポタミア文明↓



## 人類の発展のために
## ——麻原尊師の使命

そして、それこそがアトランティスからエジプトに移り住み、新しい文明世界を作る役割を担った人々の使命だったのだ。超常現象研究家のマックス・トスはいう。



なぜか乾電池がメソポタミアに……

ペルシャ湾の海岸に現われて、メソポタミアのシュメール人に建築や農耕、正しい暦を教えたという神・オアンネス

「シュタイナー等の秘教の書物を著した人々によると、古代エジプトの使命は人類の発展のために必要な物質的基盤を確実にし、記述することにあった。この目的のため、天文学、数学、工学、医学、芸術の発展に重点が置かれたという。」（マックス・トス著『ピラミッド大予言』徳間書店より）

そして、〝人類の発展〟のために、麻原尊師率いるアトランティス出身の人々は、各地に散って文明の種をまいたのである。事実、世界各地には、神話的な使徒がやってきて高度な知識や技術をもたらしてくれたという伝説が残っている。その神話的な使徒の根源は、やはりかつての麻原尊師率いる〝神の掟の子ら〟に求められるのだろう。

## 第二章
# 尊師がエジプトに伝えた真理
## ——ヨーガ

〝神の掟の子ら〟が新天地エジプトに伝えたのは、何も知識や科学技術だけではない。彼らが伝えたもので最も偉大なものといえば、やはり、その高い霊性・精神性に裏打ちされた優れた宗教であった。というよりも、まさにそれこそが、後世に絶対に伝えられなければならない最も重要なものだったのだ。

事実、エドガー・ケイシーも、こうリーディングしている。

「新政府は『創造主なる神と人、人と人との関係をより親密なもの』とする霊的法則の教育を行なった。この法則を伝え啓蒙していくことが彼らの使命であり、それを彼らは神の啓示によって与えられたものだと感じていた。」

では、〝神の掟の子ら〟によってエジプトに伝えられ、そして栄えた「霊的法則」とは何だろうか？

## アトランティスから伝えられた真理の宗教

それは、現在でいう「ヨーガ」である。ヨーガというと、一般の日本人には美容体操としてのイメージが強いようだが、本当はそんなものではない。もちろんその要素も含まれているが、それは広大深遠なヨーガの全体系の中のごく初歩の一部にしかすぎない。日本人はそれをヨーガの全体だと勘違いしているのだ。

**真のヨーガとは、人間を神々に変容さ**せ、そして神々をも超越した絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜〟を伴う魂の最高の境地「解脱」へと導いてくれるものなのである。言葉を換えるならば、わたしたちの魂の本質に到達させてくれる最高度の宗教——それがヨーガなのだ。

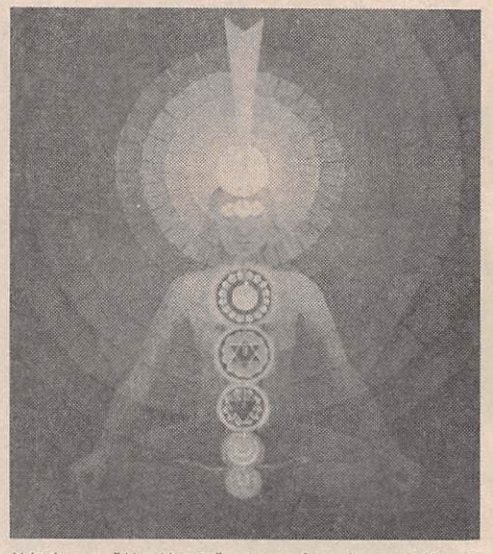
「でも、ヨーガってインドでできたんじゃないの？」

と思っているあなた、それは違う。とい

うのも、現にインドよりも古い歴史を持つ古代エジプト遺跡の壁画のあちこちから、ヨーガの象徴が数多く発見されているのである。宗教史を根底からひっくり返すような事実だが、詳しいことは後程述べるとして、まずはエジプトで栄えた宗教の最奥儀ともいうべきヨーガについて簡単に見てみよう。

## エジプトの秘儀——高度なヨーガ文明

ヨーガ——それは、「宇宙の構造はどうなっているのか」、「人間はなぜ存在しているのか」、そして「どう生きることが人間としての最高の生き方なのか」というだれもが一度は抱くであろう本質的な疑問に明快な解答を与えてくれる真理である。それは、この大宇宙の誕生から消滅に至るまでの、生命や物質を含む森羅万象の法則を一点の曇りもなくあまねく説き明かしている。いわば宇宙のすべてを解明する秘儀中の秘儀。人は、この最高の真理に触れることによって、初めて全宇宙における自分自身の位置を知り、自分が真になすべきことに気づき、そして遥か高次元の生命体へと〝回帰〟していくようになるのだ。



尊師率いる〝神の掟の子〟がエジプトに伝えた宗教の最奥儀——ヨーガ

## ヨーガ——全宗教の最奥儀

では、そのヨーガの説くところを見てみよう。

わたしたち人間を含むすべての生き物は、もともとは物質次元を遥かに超越した至高の世界において、絶対的に自由で幸福で歓喜に満ちた状態にあった。このように元来の状態にあったわたしたちのことを、真実の我という意味で「真我」といい、またこの永遠不滅の至高の状態を「真我独存」という。

しかし、始まりとてない遥かな昔、その真我に対して「三グナ」と呼ばれる宇宙の三大エネルギーが干渉し、両者が衝突して大爆発が発生した。これが現代宇宙物理学でいうところの「ビッグ・バン」である。

この大爆発によって以下の世界が生じた。まず光でできた想念の世界である「コーザル世界」、次に原子や素粒子よりももっと微細な物質でできたヴァイブレー

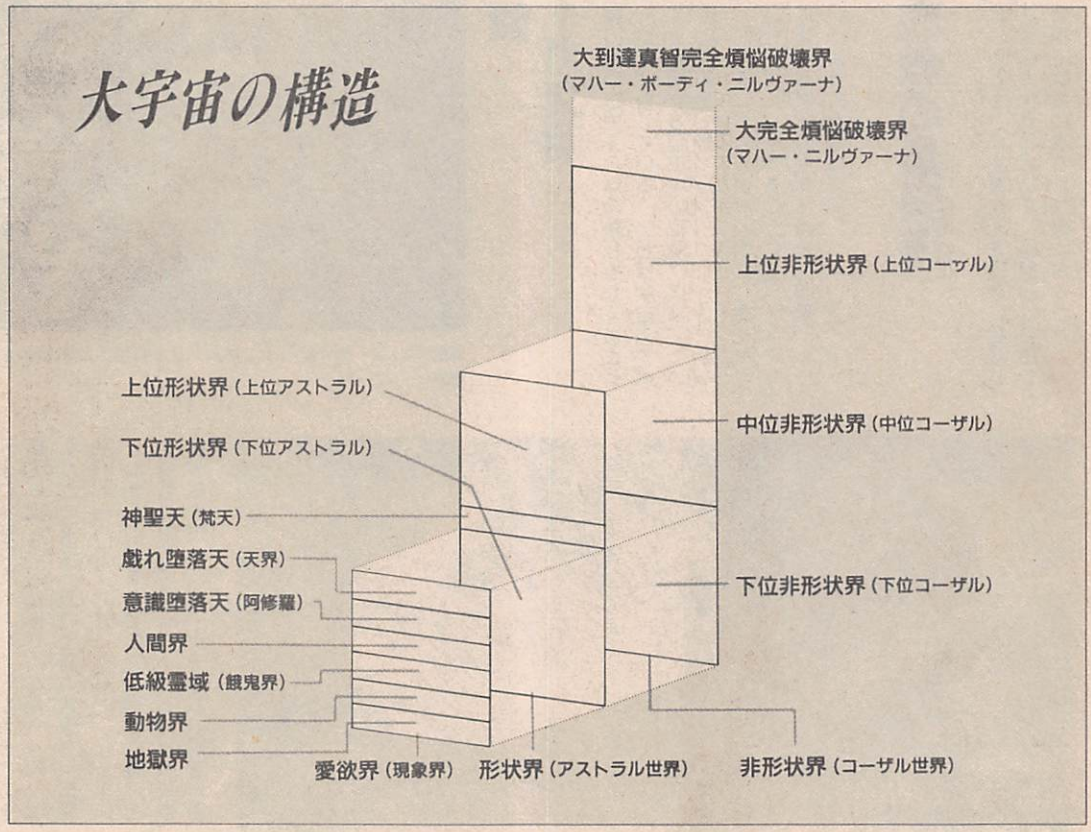
真我と三グナとの衝突によって現在の宇宙が生じた。それは真我の転落のスタートだった

ション優位の世界である「アストラル世界」ができた。そして最後に粗雑な物質でできた熱優位の世界である「現象界」ができたのである（図参照）。

多くの真我は三グナに惑わされた結果、本当は自分自身が最も完全で素晴らしい存在であるということを忘れ、外的なものを求めてそれを満足させることが幸福であると錯覚した。そして、仏教でいうところの「煩悩」を増大させ、コーザル世界、アストラル世界、現象界と転落していった。わたしたちが現在存在しているこの人間界も、最下部の現象界の中の下から四番目に属する低い世界である。粗雑で不浄な身体を持ち、精神レベルの低い苦しみ多き世界である。

わたしたちは愚かにも、元来の自分自身の至高の状態はもとより、自分自身が三つの世界を転落してきたプロセスまで完全に忘れ去ってしまっている。そのために、さらに新たなるカルマ（業）を積み重ね、それを原因としてこの低い世界を輪廻転生し、わけもわからず苦しみを受け続けているのだ。

しかし、この真理を知り、修行を行ない、低い世界に転生する原因を断ち切っていけば、わたしたちは至高の状態へと回帰することができる。粗雑な身体から微細な身体へ、さらに光の身体へと進化させ、神々の次元をも超え、ついには光をも超越した元来の「真我独存」の状態へと帰ることができる。これを「解脱」という。そうなれば、この低い世界へ戻る必要もない。壊れることなき不滅の世




## 書籍案内

『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』
大宇宙の実相
原始ヨーガ、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教などすべての真理を内在した史上最強の法則。
麻原彰晃尊師の修行体験と原始仏教などをベースに確立されたオウム真理教の教義をやさしく教えるオウム真理教入門書第一弾！ 真実の宇宙観と魂の落下のプロセスを詳述する。

550円

『タターガタ・アビダンマ 第二誦品』
真理勝者の救済計画
『タターガタ・アビダンマ 第三誦品』
サキャ神賢の在家信徒の実相
『タターガタ・アビダンマ 第四誦品』
真理のすべて

1800円

『生死を超える・増補改定版』
苦しみからの解放——解脱と悟り。それは、人として手にすることができる最高の宝物。八年の歳月を経て修行の最終地点に到達された尊師の体験が、解脱への道程を克明に語りかける。

界で〝絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜〟の状態に永遠に没入するのである。

これが、ヨーガの説く宇宙の成立ちと、わたしたちの歩むべき最高の生き方であり、かつ、すべての宗教に通じる最高の奥儀なのである（ヨーガおよびヨーガから発展した仏教の真理については、真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師著『タターガタ・アビダンマ 1〜4』に詳しい）。

「解脱」によって至高の状態へ回帰し、絶対自由・幸福・歓喜の境地に没入する

## エジプトで発見された クンダリニー・ヨーガの象徴

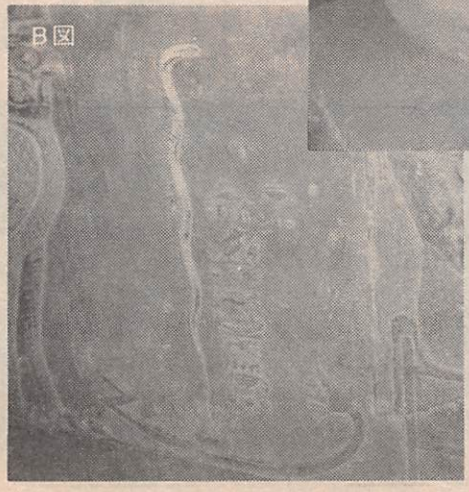
では、その発祥について述べよう。ヨーガというと東洋思想の専売特許のように思われがちだが、実は先程も少し述べたように、古代エジプトこそが、その真の発祥の地なのである。その証拠に、インドよりも古い古代エジプトの遺跡には、ヨーガの象徴を多数認めることができるのだ。

特に、カイロから六百キロほど南下したところにある「ハトホル神殿」には、人間の尾てい骨に眠る神秘の生命エネルギー〝クンダリニー〟を用いて解脱に至る「クンダリニー・ヨーガ」についての象徴を数多く見ることができる（クンダリニーとクンダリニー・ヨーガの詳細は、真理の御魂 最聖麻原彰晃尊師著『生死を超える』を参照のこと）。

例えば、列柱室の柱には三本の蓮の花が彫られているのだが（A図参照）、この蓮の花は〝サハスラーラ・チャクラ〟という最高位の霊的センター、ひいてはヨーガの象徴であり、しかもその本数もクンダリニー・ヨーガで最も重要な三本の霊的エネルギーを通す管を意味しているとしか思えないのだ（61ページ参照）。

そして、地下室には蓮の花から天に向かって立ち昇る蛇のレリーフがある（B図参照）。クンダリニーは、尾てい骨にとぐろを巻くようにして眠っており、それが目覚めると蛇のようにシュッと飛び上がる。よって、クンダリニーは「蛇の力」とも呼ばれ、蛇をもって象徴されるのである。つまり、まさにこのレリーフは、クンダリニー・ヨーガにおけるクンダリニーの動きをこれだけで物語っているのである。

クンダリニー・ヨーガのシンボルが遺跡に記されていた!!



→古代エジプトにヨーガ文明が栄えていたことを物語るハトホル神殿

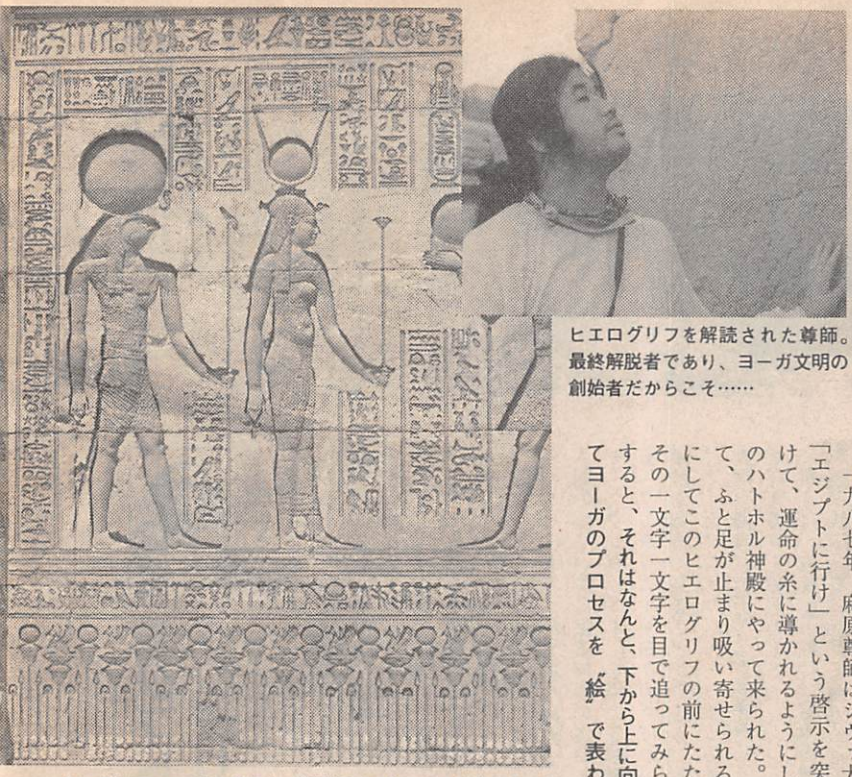
## 謎の文字はクンダリニー・ヨーガの象徴だった！

さらにである。神殿の外壁に彫られているヒエログリフ（聖刻文字）が、クンダリニー・ヨーガによる解脱の全プロセスを如実に表わしていたのだ。ヒエログリフとは古代エジプトで使われていた文字で、象形文字に属している。つまり絵文字である。当時は筆記体が発達していたのにもかかわらず、あえてめんどうな絵文字を使ったのは、古代エジプト人が後世の人に何としてもヨーガの秘儀を伝えたいと考えたからだろう。そして、遥かな時を超えて、ついにその願いは実現された。それは麻原尊師によって見事に解読されたのである。

一九八七年、麻原尊師はシヴァ大神の「エジプトに行け」という啓示を突然受けて、運命の糸に導かれるようにしてこのハトホル神殿にやって来られた。そして、ふと足が止まり吸い寄せられるようにしてこのヒエログリフの前にたたずみ、その一文字一文字を目で追ってみられた。すると、それはなんと、下から上に向かってヨーガのプロセスを〝絵〟で表わしていて、しかもそれぞれのステージの秘儀までをはっきり物語っていたのだ。

これまでは、このハトホル神殿の絵や文字は、学者の間でも未解読未解明のミステリーだった。しかし、麻原尊師がその真意を一瞬にして理解できたのは、尊師がクンダリニー・ヨーガを含むすべてのヨーガを経験し成就し、〝最終解脱〟という最高の修行ステージに到達されていたからである。そして何よりも、尊師ご自身が、古代エジプトのヨーガ文明の創始に深く関わっておられたからに他ならない。

その他にも霊的覚醒を促すヨーガの技法である「ビバリータ・カラニー」を示す図などが発見されている（下図参照）。インドに先だって、古代エジプトでヨーガ文明が開花していたことは疑いようのない事実なのだ。



ヒエログリフを解読された尊師。最終解脱者であり、ヨーガ文明の創始者だからこそ……

クンダリニー・ヨーガによる解脱の全プロセスを物語っていたヒエログリフ

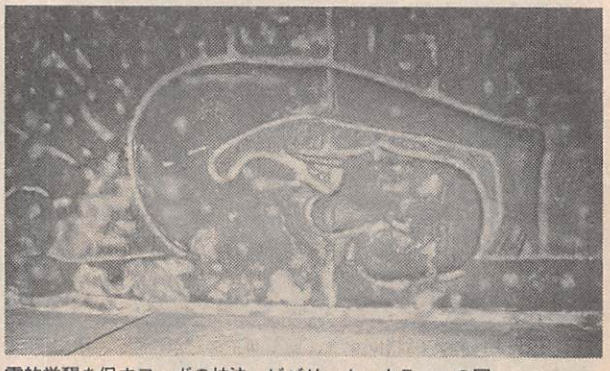
## ピラミッドの謎も明かされた

アトランティスの〝神の掟の子ら〟がエジプトに伝え栄えた宗教、ヨーガ。あらゆる宗教の最奥儀を秘めたヨーガ文明における最大の象徴が、実はあのピラミッドなのである。

ピラミッドは皆さんご存じだと思うが、その高い知名度のわりには多くの謎に包まれている神秘的な建築物である。〝世界の七不思議〟のトップに挙げられるほどだ。

まず、古代エジプト人がどうやって巨大なピラミッドの石を切り出して、運び、そして大量に積み上げたのかという建築方法が全くわかっていない。確かに、付近からは簡単な建築道具とおぼしきものが発掘されてはいるが、その程度の道具では、現在の建築技術をもってしても困難といわれるピラミッドを建築することはとても不可能なのだ。

そして、最大の謎は、なんのために作られたのかわからない、ということである。一般には王の墓だといわれているよ



霊的覚醒を促すヨーガの技法、ビバリータ・カラニーの図

うだが、実はあの有名な〝クフ王のピラミッド〟からは、初めて内部が明かされたとき、王の遺体も遺品も発見されなかったのだ。それだけに、ピラミッドは建築されてから何千年も経っているといわれながらも、依然学者の間で諸説が飛び交っているだけなのである。

**しかし、その謎も、古代エジプトにおいてヨーガ文明の創始に関わられた尊師によって明快に解き明かされたのだ。**

何のために造られたのかわからないピラミッド——それはヨーガ文明の最大の象徴だった

## ヨーガ文明最大のシンボル——ピラミッド

八七年、尊師がシヴァ大神の啓示によってエジプトに行き、ハトホル神殿でクンダリニー・ヨーガの象徴を発見されたことは前述したが、そのとき尊師はピラミッドにも足を運ばれ、その謎のベールを取り払われた。

尊師はまず〝クフ王のピラミッド〟を訪れられたのだが、その際驚くべきことが起こった。**一歩足を踏み入れた瞬間、尊師のクンダリニーが上昇したのだ。ピラミッドを形成する巨大な石灰岩の一つ一つに、強力な上昇エネルギーが込められていたのだ。さらに、尊師は、王の玄室にも強い上昇エネルギーを発する花崗岩を発見された。**

ピラミッド内部の尊師——ピラミッドの謎を解明された

事実、ピラミッド内に存在する不思議なエネルギーについては、アラビア人学者アルム・ゴヘッド博士も、

「説明できない謎だ。お望みなら、オカルトとでも、ファラオの呪いとでも呼んでいいが、とにかく**大ピラミッドの内部には、科学の法則を無視した力が働いているとしかいいようがない。**」

とコメントしている。

さて、尊師はこのエネルギーを感じられた結果、ピラミッドの正体を明かされた。ピラミッド——それは、「ポア」のための特殊装置なのであると。

ポアとは、ヨーガの最終段階に位置し、「意識を移し変えるヨーガ」ともいう。つまり、意識を肉体から抜け出させて、アストラル世界やコーザル世界などの高い世界へと意識を移し変える技法のことである。その際は霊的な身体を持って高い世界で活動することができ、意識は鮮明で連続している。よって、もし、この世の肉体を捨てるときにポアを使ったとしたら、それはもう〝死〟とは呼べない。ゆえに、ヨーガ経典ではこれを〝死を克服する〟という言葉で表現している。まさに最奥儀なのである。

## ピラミッドは尊師が建設した！

尊師がこのミステリアスなピラミッドの正体を明らかにすることができたのは、何を隠そう、**尊師ご自身が過去世においてエジプトでピラミッドを造っておられたからなのである。**

というのも、それは尊師が〝クフ王のピラミッド〟をご覧になった後、サッカラにある〝ジェセル王の階段ピラミッド〟（エジプトにおける最古のピラミッドとされている）をお訪ねになったときのことだ。**尊師はこの前に立った瞬間、ご自身が遠い遠い昔にこのピラミッドを設計していたことを思い出されたのである！**

尊師が過去世において設計されたジェセル王のピラミッド

## 過去世の記憶でピラミッドの真相を知った尊師

### 談・聖者ヤソーダラー最上善逝

尊師の宿命通が本物だと実感したエピソードはいくつかありますが、特にエジプトではびっくりさせられました。

最古のピラミッドといわれているジェセル王の階段ピラミッドを訪れたときのことです。尊師が、

「これは、わたしがイムホテップという名の宰相だったときに建造したものだ。」

と言われ、玄室の位置から入口、葬祭殿の位置、それらの使用目的に至るまで、過去世の記憶にしたがって説明されたのです。

当時、すでに尊師は視力をほとんど失っており、事前にそんなことをお一人で調べることなどおできにならないということは、そこに居合わせただれもが知っていましたので、尊師の宿命通のすごさに感じ入ったものです。

後でその宰相のことを調べてみたところ、尊師と同様にあらゆる知識に通じた万能者とされていたので、あらためて尊師はイムホテップであられたんだなと思いました。

その他にも、尊師が宿命通によって思い出された過去世の記憶に従って、地形や宗教、風俗、産業などを調べてみると、そのとおりだったということが数限りなくあります。

実はそれに先立つ四年前、尊師は宿命通によって、ご自身がジェセル王の時代にエジプトの宰相イムホテップだったことを思い出されていたのだ。尊師のご記憶によると、イムホテップは王に修行の指導をし、王は徳をもって政治を行ない、国民からは神として崇拝されていた。しかし、王は「死にたくない」「一人で死ぬのはいやだ」とイムホテップに不安をもらしていたため、イムホテップは神殿を建てて、王にポアの秘儀を会得するための修行をさせたのである。

その一方イムホテップは、ピラミッドの建造にも着手した。王と追随者の希望によって、王が死ぬときに彼らを一緒に集団でポアさせるためであった。イムホテップはピラミッドの素材に強力な上昇エネルギーを込めたのだが、それが現在に至っても依然パワーを放っているのである。

その後、フランスの考古学者J・P・ロエールによるピラミッド調査結果が『クォーク』という科学雑誌に発表されたのだが、その報告は尊師の集団ポア説を裏付けるものだった。ここに尊師の宿命通の記憶の正しさが証明されたのだった。

## 神として崇拝されていたイムホテップ

イムホテップは今生での尊師と同様に、秘儀を会得した解脱者だったと思われる資料がある。というのも、彼は学問、特に医術の神として後代になって神格化され、崇拝されていたのだ。次に示すのは、ロエールの言葉である。

「イムホテップが神と崇められているのをご存じですかな？ 彼は医術書のようなものまで書いていましてね。それを読んだギリシャ人たちが、彼を医術の神アスクレピオンになぞらえたのです。もっともわたしが1926年に、ジェセル王の台座にイムホテップの名を見たとき、その肩書はこう刻まれていました。『下エジプトの大臣、王宮管理人、名門貴族、ヘリオポリスの大神官、建築家、石器彫刻家』。いやはやすごいものですな。」

さらに、古代エジプト研究家のリュシ・ラミはこう語っている。

「これまでに知られているエジプト最古の石造建造物は、建築家であり医師であり賢者でもあったイムホテップの作品であるが、彼は後世には神と崇められるようになった。このジェセル王のピラミッド複合体は、以後けっして超えるもののなかった知識、そして多分肩を並べるものすらなかった知識を示している。」

解脱者は神のような能力を持っているのである。イムホテップが神として崇められていたのは、彼が解脱をしていた証拠であろう。

イムホテップ
——多岐にわたる才能は古代エジプト人に尊敬された

## エジプト・ヨーガ文明の創始者だからこそ……

エジプトにヨーガがあったと聞いて驚かれたかもしれないが、実は謎のピラミッドと未解読文字のヒエログリフこそが、その最大の証拠だったわけだ。これも、アトランティスからヨーガを伝え、エジプトでヨーガ文明を開花させた過去世をお持ちになる尊師だからこそわかったことである（ヨーガのみならず、ピラミッドの起源もアトランティスにあることは大西洋両岸にピラミッド文明が栄えたことや、大西洋海底からピラミッドが発見されたことから明らかである）。

なお、エジプトにヨーガの真理が存在していたことは、超常現象研究家でありピラミッド研究家として有名なマックス・トスが次のように述べていることからも明らかだ。

「当然ながら科学者でもあった（エジプト）古代宗教の大師たちは、創造のサイクルという哲学に基づいて転生（生れ変わり）の考え方を説教していた。」

「古代の大師たちは、現代の宗教家が聖書を解釈しているようには創造を説いていなかった。地上の世界（物質界）はアストラル世界、天界、精神界（メンタル界）を反映したものにすぎないという変質の原理を説いていたのである。」（マックス・トス著『ピラミッド大予言』徳間書店　より）

この世界観がヨーガに基づくものであることはいうまでもない（42ページ参照）。

さて、このヨーガ。次章に述べるように、エジプトから世界中に伝播し、現在に伝わる世界中の宗教の根源となったのである。

（以上、麻原尊師による一連の古代エジプト文明の謎の解明については、真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師著『古代エジプトの秘儀を解く——甦るクンダリニー・ヨーガ文明』に詳しい）

**書籍案内**

『古代エジプトの秘儀を解く
——甦るクンダリニー・ヨーガ文明』
神秘の国エジプトで麻原尊師が発見した驚くべき真実。ピラミッド、スフィンクス、ヒエログリフ……。あまたの古代遺跡は、何を語りかけていたのか？ 封印されたエジプト古代文明の謎が、今解き明かされる！

660円

古代エジプト・ヨーガ文明の創始者・麻原尊師

# 尊師のもとでピラミッドを作った
# オウム真理教の修行者たち

やはり縁ある者たちは、いつの世にも自然と集団を形成するのだろう。現在のオウム真理教の修行者の中にも、尊師の指揮のもとでピラミッドを作り、古代エジプトのヨーガ・ピラミッド文明の一翼を担っていた人々がいるのだ。

彼らも宿命通によって、次のような当時の記憶を取り戻しているのである。

### ◉尊師からポア装置の説明を受ける

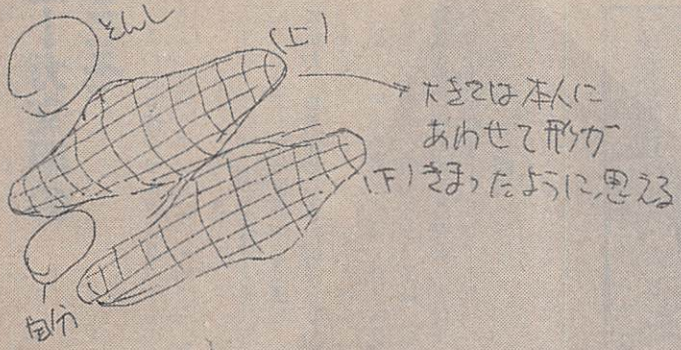
聖者ティンジン・サンポ化身成就師

わたしが見たその場所は広い所で、周りには大勢の人が働いていました。石造りの大きな建築物を作っていたのです。その中に自分がいるのが見えました。

わたしは、高いところにいました。そこは広く、その上に棺が置かれていました。わたしはそこで、その棺についての説明を受けていたのですが、その説明を行なっておられたのが過去世の尊師でした。現在よりもお若い感じがしました。

説明によると、これは“ポア装置”だということでした。尊師は、その材質と形、そしてエネルギーの流れる方向について細かくわたしにレクチャーしてくださいました。それをわたしは納得しながら聞いていたのです。

棺の大きさや形は、中に入る人によって決まったようで、かなり綿密に設計されていました。わたしは今後その技術をマスターしなければならなかったようなので、注意深く説明を聞いていたのを覚えています。




聖者ティンジン・サンポ化身成就師が描いた当時の状況

### ◉神聖な人々が建設を指導

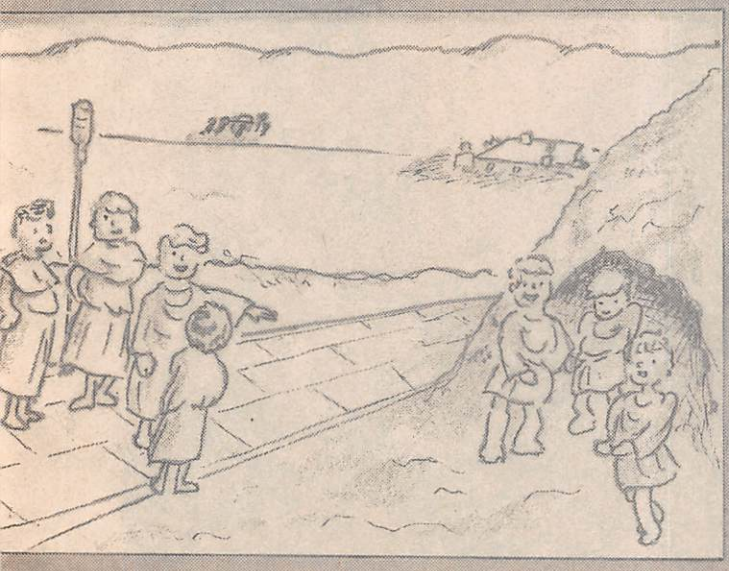
聖者タントラジェーンティー到達光師

わたしはそのとき二十歳前後の若者でした。場面は小高い丘で穴が開いていて、洞窟がありました。中は薄暗く、男性が数人出入りしていました。

わたしの役目は上役の指示をその労働者たちに伝えるというものでした。

三人くらいの白っぽい服を着た神聖な感じのする上役の男性が、わたしの目の前に立ち、わたしに仕事の指示を与えていました。その中の一人は現在のオウム真理教のK師のようでした。わたしは仕事を覚えようと張り切って、一生懸命に話を聞いていました。なお、そのときのわたしたちは、ベージュ色の長方形の石を規則正しく敷きつめた、幅三メートルぐらいの石の道の上にいました。

眼下を見渡すと遠くの方に全体的にベージュ色っぽい大きな石を運んでいる人がいました。数人一組で運んでいましたが、あまり重そうに見えませんでした。向こうの方では、その石を組み立てて建物を作っているようでした。建物は何もなく、とにかくだだっぴろい土地で、山には少しの草も生えていなかったのが目に焼きついています。



聖者タントラジェーンティー到達光師が描いた当時の状況

## ◉巨石を軽々と運送
### スワミ・アシバンダカブッタ

そこは緑のない砂漠のようなところで、カラッとした空気でした。白い服を着た白人でも黒人でもない人が働いていました。目前には建築の途中のピラミッドが見えていました。

作業者たちは、一辺の大きさが人間の身長くらいの大きな石を、手を使わずに（物理的な腕力を使わずに）、まるで綿菓子に触れるように軽々と持って運んでいたのが印象的でした。五人くらいが一チームとなって運んでいました。

＊

なお、スワミ・アシバンダカブッタの話に出てくる、石の運送法は注目に値する。ピラミッドの巨石の運送法や積み上げ法がいまだに大きな謎となっていることは前述したが、もしこのような超常的なパワーを用いていたのならば、たちまち納得がいく。

興味深いことに、かのエドガー・ケイシーも、ピラミッドの建造方法について、次のようなリーディングをしている。

問：「どのような力で、この初期のピラミッドや神殿は建造されたのでしょうか。」

答：「今の文明でも次第に使われようとしている、気体の浮揚力であり、あらゆる力が出てくる源に関して通じていた人々の見事な働きによるものである。」

問：「ギゼーの大ピラミッドはどのようにして建造されたのですか。」

答：「鉄をも泳がす性質の力を使ったのである。同じようにして、石もまた空中を浮揚した。これは一九五八年に発見されよう。」

そして一九五八年、この「鉄をも泳がす性質の力」にあたるものとして、カルフォルニアのウエスティングハウス研究所で、電磁力による潜水艦推進実験が報告された結果がある。またこれを、同年にW・ハイゼンベルグ教授によって発表された「統一場理論」とみる解釈もある。これは質量、重力、エネルギーを包括する理論であり、スワミ・アシバンダカブッタの見たピラミッド建設のヴィジョンに通じるものがある。

＊

麻原尊師がピラミッドの建設者であると同時に、ヨーガの偉大な指導者であられたことは述べたとおりだが、その時代に尊師のもとで修行していたオウム真理教の修行者は数多い。その中の一人が、次のスブーティー師である。

## ◉尊師の指導でヨーガ修行
### スブーティー師

――地下のひんやりした空気が漂っていました。わたしはそこで瞑想をしていました。周りは真っ暗で肉眼では何も見えません。わたしと同じ空間で他に何人か修行している様子でした。どうやら地下のリトリート（修行用の個室）での極厳修行だと思われます。

そのときわたしは天眼（遠隔透視の超能力）で、意識をリトリートの外に向けました。するとピラミッドが見え、灼熱の砂漠が見えました。頑丈なピラミッドは高くそびえ立ち、砂漠は蜃気楼を放ち広大な光景でした。

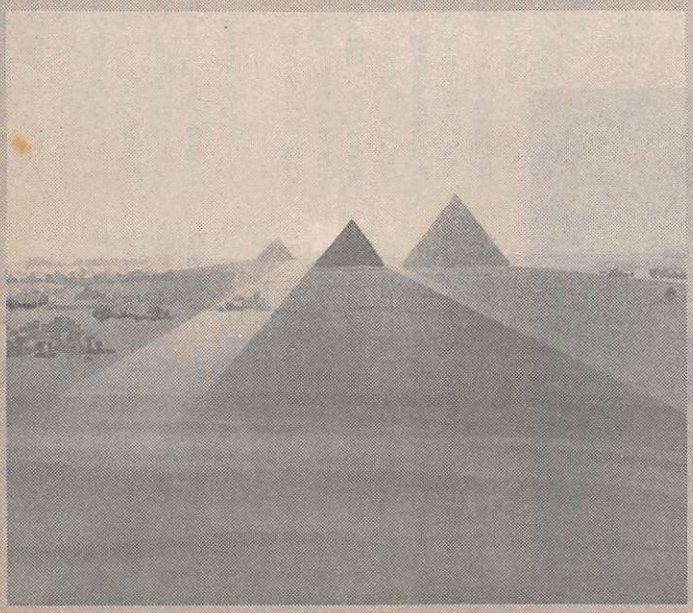
そのときリトリートの階段をだれかが降りて来る足音が聞こえました。すぐにグル（霊的指導者）だとわかりましたので、意識を内側に戻し修行に専念しました。グルはわたしのそばに来られて、修行の状態を見られてアドバイスを下さいました。わたしの隣で修行していたのは今のK師でした。師はそのとき何らかのヨーガを成就されたとグルに認められていました。

グルがそのとき話していた言葉はもちろん日本語でも英語でもありませんでした。そのときのグルは麻原尊師でした。

＊

以上のように、尊師はアトランティスからエジプトに上陸して、荘厳なヨーガ・ピラミッド文明を創始した後、再びエジプトの地にイムホテップとして転生し、高度な精神文明の興隆に努められたのだった。

そして、遠い遠い過去世からの尊師との縁によって、あるいは尊師との約束を果たすために、現在のオウム真理教の修行者たちはあらゆる時代を通して尊師のもとに集い、真理の実践と救済活動に励んできたのである。



第三章

# 世界の宗教は尊師から始まった
## ——エジプトから全世界へ

## 世界の宗教は尊師から始まった

"神の掟の子ら"によってアトランティスからもたらされた進んだ知識や科学技術が世界各地に伝播し、古代文明の源になったことは第一章で述べた。

それと全く同じように、麻原尊師によってエジプトにもたらされたヨーガ、真理の教えも、その後世界各地に伝播し、現在に伝わる世界中の大宗教の根源となり、またはそれらに大きな影響を与えたのである。では、エジプトから発した真理の流れを、成立した宗教順に見てみよう。そのいずれもが、ヨーガの根本教義である輪廻転生やカルマの法則、解脱の概念を含み、または世界観が一致していることがわかるだろう。

### ◆ゾロアスター教

紀元前1200年頃　ペルシャ

ゾロアスター教は、紀元前一二〇〇年頃のペルシャに、ゾロアスターによって開かれた宗教で、「拝火教」の名で有名である。アフラ・マズダを最高神とし、アフラ・マズダが天地創造をし、また善き者には悦びがあるが、悪しき者には苦しみがあることを定めた者であるとされている。また、ゾロアスター教の信徒は、火を拝し、善き心を持ち、正義にのっとってアフラ・マズダに近づくこと、善思・善語・善行を行なうことが求められている。

お気づきのとおり、「善き者には悦びがあるが、悪しき者には苦しみがある」というのは、「カルマの法則」のことを指している。また、「マンスラ」という神に祈りを捧げるときの聖なる言葉があるが、これはヨーガでいうところの「マントラ」に相当し、もちろんその原型はエジプトに見ることができる。

さらに、アフラ・マズダは、かつての麻原尊師をエジプトに導かれたシヴァ大神のもう一つの姿だと考えられる特徴を多数有している。それは、アフラ・マズダが、創造・光・善の神であるとされること、カルマの法則を説いていることという性格である。かつ、この神は審判者なのだという。シヴァ大神が悪業の清算のための裁きをするのと、同じことをいっていると考えられる。

もっと興味深いことに、ゾロアスターだけはアフラ・マズダ神に会い、直接示唆を受けていたという。

これは、ゾロアスター自身が超能力を持っていたことと、瞑想に入ってアストラル世界のアフラ・マズダ神に会い、示唆を受けていたことを示している。麻原尊師がシヴァ大神の示唆を受けられるときと同じ方法を採っていたわけで、彼は麻原尊師と大変似た側面を持った宗教家だったということになる。事実、教義（もちろん、すべてではないが）や神に対する認識が一致しているのだ。

つまり、ゾロアスター教は、エジプトから発した真理の流れにくみする宗教であり、その起源はエジプトに求められるのである。

ゾロアスター

## ◆仏教

紀元前600年頃　インド

ご存じのとおり仏教は、紀元前六〇〇年頃に真理勝者サキャ神賢（釈迦牟尼如来）によってインドに開かれた世界宗教である。その教義の中心は、カルマ（業）の法則と輪廻転生により成り立っている。この世の一切の事象を苦と認め、悪業を滅して善業を積み、その果報によって苦界における輪廻を断ち切って、いわゆる「涅槃」（煩悩破壊と訳される）の境地に至ること、つまり「解脱」することを最終目的とする。

さて、作家で『エジプト死者の書——宗教思想の根源を探る』（人文書院刊）の著者である石上玄一郎氏は、「古代エジプトの宗教儀式、慣習、来世観と仏教とのそれとの間には否定すべからざる類似がある。それを『偶然の一致』と見るにしては両者の間にその頻度が多すぎる」と述べている。確かにそうなのだ。

両者の時代が離れすぎていると思う方もいようが、そもそも、仏教の思想的源流は、紀元前一五〇〇年頃にインドに進入してきたアーリア人の手によって成立した、バラモン教の聖典『ヴェーダ』に見ることができる。『ヴェーダ』は、〝ブルシャ〟（サンスクリット語で真我のこと）から万有が展開したと説き、聖典『ウパニシャッド』も、カルマの法則と輪廻転生について述べ、輪廻からの解脱を説いている。

つまり仏教は、バラモン教等の古代インド宗教を媒介にしつつ、**エジプトの真理の流れを受け継いだものだと考えられるのである。**

真理勝者サキャ神賢

## ◆ギリシャ哲学（プラトン／ピタゴラス）

紀元前400～600年頃　ギリシャ

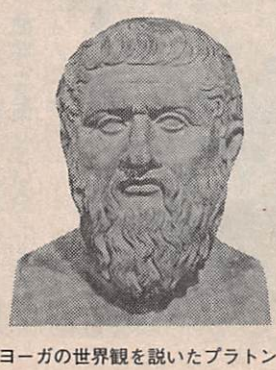
西洋哲学・倫理の源流となったギリシャ哲学。そんな中でも紀元前四〇〇年前後に活躍し、後代の哲学にまで甚大な影響を及ぼした大哲学者プラトンは、こう述べている。「人間が感覚でとらえる現実の世界は、絶えず変化する経験界で仮の世界であり、真の世界は完全無欠な真実な存在で、永遠不変のイデア（事物の本質、原型という意味）の世界である」

**これは、この現象界が真我と三グナとの衝突によって生じた仮の世界であり、永遠不滅の「真我独存」の状態に回帰せよと説くヨーガの世界観に見事に通じている。**このような認識は高度な霊的体験がなければ不可能であり、彼には、エジプトにおける真理との強い関連がうかがえる。

事実、あのトーマス・テイラーは、「プラトンは四十九歳のときに大なる密儀に通じた。密儀参入はエジプトの大ピラミッドの地下広間で行なわれた。そこで彼は最高の秘教思想を口頭で伝えられた」と述べている。

麻原尊師がイムホテップのとき、ピラミッドをヨーガ最高の奥儀である「ポア」のために開発し、強い上昇エネルギーを

プラトンはエジプトのピラミッドで密儀を学んでいた……



ヨーガの世界観を説いたプラトン

込められたことはすでに述べたが、プラトンもピラミッドで秘伝を身につけるために、はるばる真理の地エジプトまでやってきていたことになる。大哲学者プラトンの源流はエジプトにあったわけだ。

また、紀元前六世紀頃に活躍し、「ピタゴラスの定理」で有名なピタゴラス。彼は、動物と話したり、遠隔透視をしたり、離れた二地点に同時に現われたりするという超能力者だったとも伝えられているが、南イタリアでは宗教団体を組織して、霊魂の不滅と輪廻転生、死後の応報（つまり、カルマの法則）などを説いている。そんな彼も若いときにエジプトで秘儀に参加して、宇宙の真理に触れているというのである。

ピタゴラス

## ◆キリスト教

1世紀　イスラエル

### ◉すべてを語る『死海写本』

そして同じように、一世紀に発祥したキリスト教も、エジプトの真理を起源としているのだ。その証明のためには、まず『死海写本』といわれる古文書について述べなくてはならない。

それは一九四七年、死海西岸にある洞窟の中から発見された西暦以前の古文書で、その発見は聖書考古学史上最大の発見として世界中の学者に一大センセーションを巻き起こした。なぜかというと、この写本には驚くべき内容がたくさん記されていたからだ。というのも、当初はこの写本は『旧約聖書』の『イザヤ書』の写本であると思われていたのだが、研究が進むにつれて、そこには『旧約聖書』のどこにも含まれていない内容が多くあることがわかったのだ。

イエスの教えの真相を明らかにした「死海写本」

折しも写本発見現場のすぐ近くで、ユダヤ教の一派である「エッセネ派」の修道院跡が発掘され、この写本がエッセネ派の手によるものであることが判明するとともに、『新約聖書』には記されていない同派についての詳細が史上初めて明らかにされていったのである。

そこで注目されたのがエドガー・ケイシーであった。彼は、写本発見の十一年前からすでに、当時無名のエッセネ派についてのリーディングを行なっていたのだ。そして、彼の言っていた同派の存在位置や活動内容が写本の研究結果と一致していたため、彼のリーディングの正しさが考古学的に実証される形になったのだ。

### ◉イエスの教えはエッセネ派の教え

さて、写本の研究結果とケイシーのリーディングを総合すると、イエスにまつわる非常に興味深い事実が判明してきたのである。というのも、イエスはエッセネ派出身の人物であり、救世主として歴史に登場するまでの青年時代は、エッセネ派によって教育を受けていたということなのだ（なお、イエスの少年期から青年期までの生い立ちについては『新約聖書』には記されておらず謎の〝空白期〟となっている）。つまり、キリスト教とはイエス単独によって生み出された教えではなく、それ以前に古くから存在したエッセネ派の教えに根ざしているということなのである。

事実、原始キリスト教がエッセネ派の教義に酷似していることは多くの点で指摘されており、写本研究家として有名なクロス教授も、

「『新約聖書』とエッセネ派の書記達は、共通の言語、共通の主題と概念の上にたっている。彼らは同じ雰囲気の中で呼吸し、同じ問題に直面している。」と語っているほどだ。

イエスの教えは、エッセネ派に根ざしていた

イエスを生んだエッセネ派の源流はエジプトにあった——写真は同派修道院跡

**◉エッセネ派はエジプトに端を発した**

では、このイエスの教えのもととなったといわれるエッセネ派はどのような一派だったのかというと、ユダヤ教の中でも少々変わった一派であった。彼らは、他の諸派が腐敗し形骸化していることに対抗して、世俗から離れ、禁欲的な戒律を厳守し、原始共産制のようなコミューンで厳しい修行生活を行なっていたという。しかも、予言能力等の超能力を獲得していたともいう。まるで仏教の出家修行者教団のようである。

**そして、これは最も重要なことなのだが、その教義の特徴やエジプトにも存在していたことからして、どうやらエッセネ派とはエジプトを源流とするあらゆる神秘思想を統合していた集団のようなのだ。**

現に、ケイシーも、「エッセネ派はエジプトに起源を発する『聖白色同胞団』（詳細は後述）の一派ですか」と質問された際、「おおむねそうである」と答えている。しかも、彼のリーディングによると、**エッセネ派の教育下にあったイエスは、エジプトに赴いて修行をし、大ピラミッドの中で「最高の秘伝」を伝授され、「死の束縛を破り」、「成就」したというのである。**プラトンが秘儀の会得のためにピラミッドに入っていたらしいということはすでに述べたが、イエスも同様であったとは興味深い。

エッセネ派の起源となった古代エジプトの秘儀

**◉イエスはインドにも学んだ**

しかも、である。ケイシーによると、**イエスは仏教・ヨーガの栄えたインドにも足を運び、修行していたというのだ。**現に、インド側にもその伝説が残っている。インドのビンディヤ山系のヨーガ・ナートの修行者たちの間で保存されている『ナート・ナーマーヴァリー』と呼ばれる写本がそうだ。それによると、エーシャイ・ナートという人物が（イエスをインド式に発音するとエーシャイとなる）インドにやってきて修行し、シヴァ大神が偉大な神であると悟った後で故郷に帰り説教を始めたが、はりつけになってしまったというのだ。

もはや、イエスがアトランティスからエジプトに伝えられた真理を体得して教えを説いていたことは疑いあるまい。事実、彼が示した予言能力、遠隔透視、水上歩行等の様々な神通力は、ヨーガの修行によって得られるものである。また、彼が説いた法の中には「カルマの法則」が含まれているとともに、彼が唱えた〝慈愛〟の実践も、ヨーガでいうところのアストラル世界にある「神聖天」へと至る教えなのである（詳細は、真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師著『キリスト宣言1～2』を参照のこと）。

以上でおわかりのように、キリスト教も、もとをさかのぼればエジプトに起源を発していたのである。

イエスが見せた神通力の数々はヨーガ修行で得られるもの——上は水上歩行

**書籍案内**

『キリスト宣言』
神の審判のとき、この世は、破滅する——。
『聖書』にまつわる破局の様相が、今ここに明かされる。イエス・キリストの大予言をいよいよ解読！　わたしたちの未来はいかに？

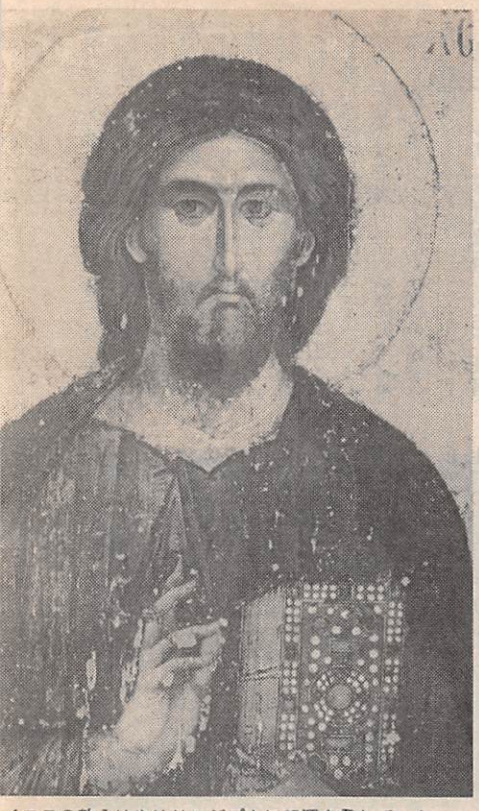
550円

## ◆コプト教（原始キリスト教）

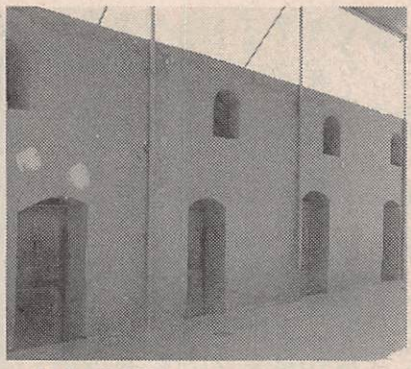
1世紀　イスラエルからエジプト

コプト教とは一世紀にキリスト教が発祥した直後にエジプトに入り、そのまま現在にまで伝えられている宗教で、〝原始キリスト教〟とも呼ばれている。

このコプト教には、クンダリニーを覚醒させて、霊的センター〝チャクラ〟を開発し、高次元の生命体に至るための修行法が存在している。これはまさに古代エジプトに栄えたヨーガそのものであり、エジプトの真理の流れを受け継いでいるものといえる。また、キリスト教がその流れに属することを証明するものということもできる。



イエスの教えはやはりエジプトに起源を発していた



コプト教の修行場

## ◆マニ教

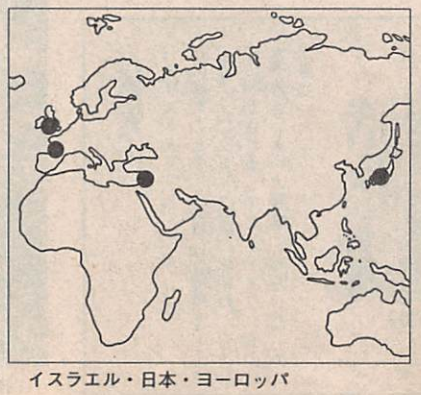
3世紀　ペルシャ

マニ教は、三世紀にマニがササン朝ペルシャにおいて、ゾロアスター教を母胎として創始した宗教である。四～五世紀には、キリスト教最大の強敵となるほどの教勢を誇った。

「魂を肉体から解放するために修行が必要である」と説く（岸本英夫編『世界の宗教』より）ところは、まさに意識を物質界から切り離して本質の世界へ戻そうとするヨーガでいうところの「解脱」に通じるものがある。そこには、エジプトを起源とする真理のベクトルを見いだすことができる。

マニ教の信者

## ◆その他にも



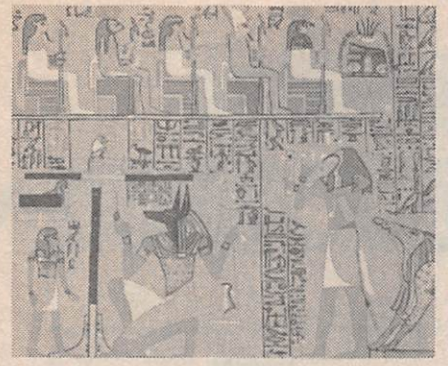
イスラエル・日本・ヨーロッパ

さらに、ユダヤ神秘思想の開祖的存在ともいえるモーセは、エジプトで生まれ育ちエジプトの秘儀を学んでいる。そしてその後、エジプトからユダヤ人をイスラエルの地に導き、ユダヤ教の基盤を形成している。事実、ユダヤ神秘思想にはエジプトの秘儀を認めることができる

そして、ユダヤ教と日本神道の間には多数の共通点があり、両者には何らかのつながりがあるのではないかと見る向きがあるが、太古神道の修行者である川面凡児（かわつらぼんじ）の記述の中には、クンダリニー・ヨーガによる解脱への一プロセスである「喜」のことが述べられている。それ以上の修行ステージのことは書かれていないものの、神道にも確かにエジプトで栄えた真理の命脈を見ることができるのだ。

また、イギリスとフランスにおける密

儀宗教として有名なドルイド教も、エジプトの古代祭儀と極めてよく似ていることが指摘されている。



エジプト「死者の書」——全宗教の根源が……

## すべてはエジプトから始まった

ある神秘学者が、「すべてはエジプトから始まった。エジプト人は生まれながらにして神秘家であった」と述べているが、まさに至言である。

そして、それを物語っている最大の書物が、エジプトに古代から伝わる『死者の書』（魂が死後の世界へおもむく過程や、魂が死後、死者の神オシリスの面前で善悪判定の秤（はかり）にかけられる描写でよく知られている）ではないだろうか。事実、前掲の作家の石上氏は、

「『死者の書』を読み終えて、最後に感じるのは、すでにこの書の中に、後代の名だたる宗教思想が、未文化なままに渦巻いているカオスといっても過言ではない。例えばそこには、善悪二元の対立抗争あり、太陽崇拝あり、また『受難と復活と永生』のドラマがある。また終末論的な世界観とともに『霊魂不滅』と『転生』の思想があり……」

と述べている。さらに、

「古代エジプトの宗教思想と後代諸宗教のそれとの相似は、個々別々に発達したものの『偶然の一致』などではなくて、明らかに系統的な類縁関係を示唆するかに思われる。」

と言い、やはり世界の宗教には一つの流れがあることをうかがわせている。しかも、同氏は、

「それは、すでに滅亡し去った偉大な先史文化、一夜にして海中に崩壊し去り、あるいは大河の河床深く埋没した未だ知られざる文化の片鱗にすぎないとも考えられる。」（前掲書より）

という注目すべき見解も述べているのだ。

そういえば、あのエドガー・ケイシーも、

「世界の偉大な宗教は本当は根本的にみな同じものであり、ただそれがまとっている衣裳だけが違っているだけだ。」

ということをリーディングでたびたび語っている。

そうなのだ。現在に伝わるあらゆる宗教の根源をたどると、そこにはエジプトがある。そしてアトランティスがあるのだ。麻原尊師が滅亡し去ったアトランティスからエジプトに伝え、後代のために整えられた真理の法則は、その後エジプトを起点として全世界へと広がり、何百億、何千億もの人類に光をもたらしたのであった。

アトランティスの進んだ知識や科学技術のみならず、最高の真理を残され、現文明の精神文化の基盤を築き上げられた尊師の功績は、なんと偉大なことであろうか。まさに、人類に叡智をもたらした〝神〟だとなぞらえられても不思議ではない。

世界の宗教は古代エジプトの尊師から始まった——

PART 5

## 超古代から復活した世紀末救世主

# 伝説の救世主ヘルメス、そして麻原尊師へ

伝説の〝超古代救世主ヘルメス〟――ノストラダムスの詩に〝尊師の起源〟として登場するこの実像を求めて、わたしたちは遥か一万二千年の時空を旅してきた。その結果わかったこと、それは、

幻のアトランティス文明が存在し、それが太古の人類のおごりのうちに滅亡していたこと、

その際、過去世の麻原尊師が救世主として登場し、人々を新天地エジプトに導き、新たな精神文明を創始していたこと、

そして、その精神文明こそが現文明の礎となったということ、

である。

しかし――。わたしたちが追求してきた尊師の起源〝ヘルメス〟は、いったいどこに現われたというのだろうか？　どこにも登場しなかったではないか。わたしたちは一番肝心な目標を見失っていたのではないだろうか？

〝ヘルメス〟、その実像を知るために、以下にヘルメスがいかなる人物（神）として現在に伝えられているのかを詳しく見てみようではないか。

## 第一章

# ヘルメス――最奥儀を究めた解脱者だった

## ヘルメス――言葉に尽くせぬ偉大な存在

それは、一言では表現できない。あまりにも偉大すぎるからである。「三重に偉大」を意味する〝トリスメギストス〟がその名に加えられるのはそのためだろう。

伝説によると、ヘルメスは〝半神半人〟の神秘的人物で、錬金術、医学、化学、哲学、法律、芸術、占星術、音楽、修辞学、魔術、地理学、数学、解剖学、

雄弁術などといった数多くの技術と科学を人間に伝えた。太古の地球に三千二百二十六年間君臨し、三万六千五百二十五冊の本を書いたといわれ、あらゆる学問がヘルメスから発しているという。

また、ギリシャ神話の神としては、冥府の案内人、死者たちの魂の導き手、生と死を自由にくぐり抜けられる神の使者として位置づけられている。

さらに、ローマ神話に登場する神メルクリウスでもあり、かつ、エジプトの〝知恵と学問の神〟といわれるトートとも同一の存在であることはすでに述べた。トート・ヘルメス・トリスメギストス、あるいはヘルメス・メルクリウス・トリスメギストスとも呼ばれるゆえんである。

世界中に描かれたトート・ヘルメス・トリスメギストス、世界中の宗教家、神秘家から崇敬されている

神として人間として幾度となく現われ、人々を導いてきたといわれている彼は、人間としては歴史上に三回存在したといわれる。第一がノアの洪水以前にいた賢者で、アダムの孫。天文や地球に関する研究を進め、エジプトのピラミッドを創作したと伝えられる。第二がノアの洪水後にバビロンに存在。自然学、医学、哲学、数学に優れ、ギリシャの数学者ピタゴラスの先師だったという。第三がエジプトにいた。医学者であり哲学者であり、各種の科学技術に優れ、都市計画についても素晴らしい才能を持っていたと伝えられている。人間とはいうものの、いやはや、まさに神のごとき活躍ぶりである。

## ヘルメスの根源トート神
## ――エジプト最古の神

さて、このトート・ヘルメス・トリスメギストス。各神話の成立年代から考えると、**最も古い存在はエジプト神話の神トートだといえよう。**では、トートとは、どのような神なのだろうか。

トートは、エジプト神話における中心的役割をなしていることで最も有名なオシリス神よりも古い**最古の神であり、あの『死者の書』の著者だといわれている。**彼は時のはじめに自生し、「聖なる言葉の王」として、その言葉の力で万物を発生せしめ、またその言葉は死人を復活させる力を備えていたという。

また、彼は**月神**であり、かつ**学問・医術・技芸の神**であり、その名は「測定者」を意味している。彼は**天地の法則をつくり、**天体を支持し、太陽や月や星の運行を定めた。**文字や数を発明し、芸術や科学を興した。**さらに、大神の書記とも呼ばれ、**人間の行為や言葉の記録者**であった。彼は**道徳律をつくり、正義の具現者**とされ、冥府（死後の世界）にあっては**死者の魂を秤ることをまかされていた**という。しかも彼の評定は絶対であり、いったん判定が下されるや、いかなる神もそれを変更できなかったという（参考石上著等）。そして、彼は**「三つの世界の支配者」**とも呼ばれた。

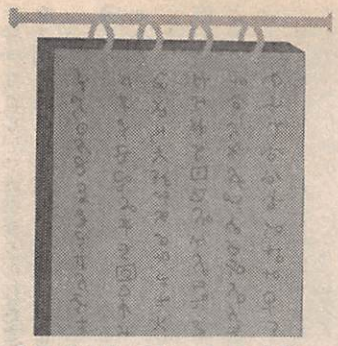
エジプト神話の神トート。トキの頭は医術と関係あるとされる。手に持つ十字架は、「不死の世界へ入ることのできる人」を意味する

# トート神はアトランティス人だった!

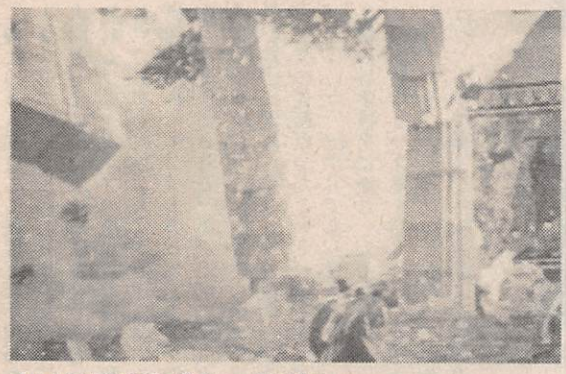
極めて強大で、人間に様々な神の叡智を授けたというトート神。彼はエジプト最古の神とされているが、突如ナイル川のデルタ地帯に出現して民族を教化したと言い伝えられている。彼は、果たしてどこからやって来たのだろうか。

実は、「海を越えて西の国からやって来た」と伝えられているのだ。それは、〝太陽が長い間かくれた時〟(火山噴火と思われる)のことだったという。大洪水が発生し、トートは自分の知識によって、他の神々が海を越えて東の国に逃げるのを助けたといわれている。

実に不可解な話だが、このトートの正体を明かしてくれる手がかりが一つある。それが、彼が書いたといわれる著作『エメラルド・タブレット』である。これは一九二五年、メキシコのユカタン半島で、アメリカ人学者M・ドーリル博士によって発見されたエメラルド色の金属板である。そこには、トートが洪水から逃れてエジプトに来るときの様子が次のように書かれている。



『エメラルド・タブレット』の外形
(『エメラルド・タブレッド』霞ヶ関書房より)



「地上に大洪水襲い来り……地は沈み……」

「その時、地上に大洪水襲い来り、人々は溺れ、地は沈み、地球の均衡はくづれ、遂に『光の寺院』のみ水中に聳ゆるウンダルの大山岳の頂に残れり。かしこに住める者の中、洪水の奔流より助けられしは僅かなり。

その時、『大師』我に曰わく、

『汝、我が民を集めよ。汝の学びし術により、遥かに海を越え、我が民を導け、遂に汝は、荒野の洞窟に住む毛深き未開の民の地に着かん。而して汝の知れる計画を進めよ』

**我即ち我が民を集め、『大師』の大船に打ち乗れり。**我等上方に向い、朝ぼらけへと上る。下方には暗闇の中に『寺院』横たわる。『大寺院』は定められし時までありしが、突如、洪水襲い来り、地上より消え失せぬ。

我等は朝の太陽に向い、急ぎて脱出せり。やがてケムの子等の国、我等の眼下に現わる。彼らは激怒して来り、棍棒と槍をふりかざし、アトランティスの子等をみな殺しにせんとす。

我、杖を上げ、波動の光線を向けて彼等を打つ。山の石の破片の如く、彼等は其の場に釘づけとなり、動くことを得ず。

而して我、静かにして平和に満てる声もて彼等に告ぐ。アトランティスの偉大なりしを、また我等は太陽の子にして、その使者なるを。**我が魔法の力にて彼等をおどしたれば、彼等を解放せし時に、彼等は我が足下に平伏せり。**」(田中恵美子訳『エメラルド・タブレット』竜王文庫より)

トート神とはアトランティスから逃れてきた人々のリーダーのことだった!

なんと、トート神とは、アトランティスの滅亡から逃れてきた人々のリーダーのことだったのだ。そこで「ケムの子」が、つまり原始的な生活を送っていた当時のエジプト人が、アトランティス人を神と仰いだのは無理もない。なにしろアトランティスは、現代の我々の文明よりも遥かに高度な精神的・物質的文明を誇っていたのだから——。

**エジプト上陸の際に神秘的な力を使って現地人の攻撃を鎮め、そしてアトラン**

ティスの進んだ文物をもたらした超古代救世主が、現地人から〝知恵と学問の神トート〟として崇められるようになった

## 全世界を教化したトート

そして、トートはエジプトに滞在して、全人類に貢献する偉大な業績を重ねた。彼は、『エメラルド・タブレット』でこう述べている。

「いと長き間、我等はケムの国に住み、遂に眠り給うも、永遠に生ける『大師』の命に従い、アトランティスの子等を各方面に送り出したり。未だ来たらざるさきの世に、子等に再び智慧を目覚しめんとして。

然る後、また長く我はケムの国に住み、我が内なる智慧もて大なる仕事を数々なせり。我が智慧の雨にて、ケムの子等はうるおされ、彼等の智慧の光は成長せり」（前掲書より）

つまり、トートは、エジプトを拠点にして世界各地にアトランティス人を派遣し、その進んだ知識・科学技術・宗教などを流布したというのである。これにより世界中が啓蒙され、文明が発展し、トートはますます各地で神と崇められるようになったのだろう。むろん現地エジプトの人々の智慧も向上したということなのである。

## トート、ピラミッドを建設

さらにトートは、あのピラミッドの建造にも着手したというのだ。

「我は地の力（重力）に打ちかつ力量もて、巨大なるピラミッドを、その通路の上に建立せり。……誰か敢えて暗黒界に入らんと思わば、先づ、長期の断食をして身を浄め、我が室なる石棺に横臥せよ。然る時、我は大神秘を彼に示現せん。……我、永劫に燃ゆる地の力のピラミッドにかたどりて、大ピラミッドを建立せり。これまた、世々に亘りて残さんためなり。その中に我、『魔法の科学』を収む。」（前掲書より）

トートがピラミッドを建設したことについては、エドガー・ケイシーもリーディングで明言している。それによると、ピラミッドは紀元前一〇四九〇年から一〇三九〇年の間に、「ヘルメス（＝トート）のも、そのためだろう。それがギリシャではヘルメス神とされたわけである。

つまり、トートは、エジプトを拠点にして世界各地にアトランティス人を派遣し、その進んだ知識・科学技術・宗教などを流布したというのである。これにより世界中が啓蒙され、文明が発展し、トートはますます各地で神と崇められるようになったのだろう。むろん現地エジプトの人々の智慧も向上したということなのである。

を指導者として、言い換えればヘルメスを実際上の建築技師とし」建設されたという。

そしてトートは、「重力に打ち勝つ力」によってピラミッドを建設したといっている。それについて訳者のM・ドーリル博士は、「つまり建築時、石は非常に軽くなり、その後またもとの重さに戻ったのである。」と述べているが、49ページで述べたスワミ・アシバンダカプッタの見たヴィジョンと一致している点が面白い。

また、このトートの記述からは、ピラミッドはやはり王の墓などではなくて、高度な秘儀が行なわれる場所だということがわかるのである。

## トートは何を説いたのか？

では、トートはどのような教えをエジプトや世界各地に説いていたのであろうか？それは、彼の残したとされる著作を見ればわかる。彼は明らかに、ヨーガの世界観に基づく輪廻転生やカルマの法則、そして解脱について述べている。

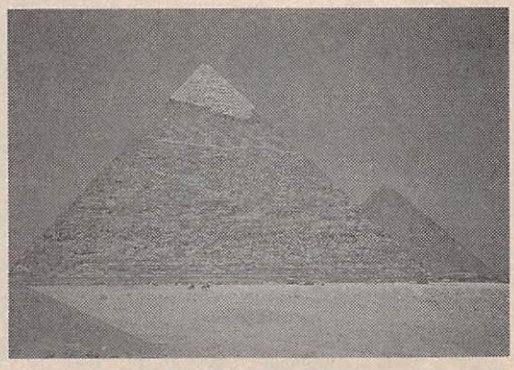
例えば、『エメラルド・タブレット』には、カルマの法則について次のように述べられている。

「あらゆる効果が第一原因より生じたる如く、あらゆる結果が次なる原因を生ずるならん。未来は固定化せる不動のものに非ずして原因が結果を生ずる時は多変するなるものを知れ。汝が存在さすだろうところの原因をのぞきみよ、しからば汝はすべては結果なることを理解するならん。

太初に存在せるすべてのものを存在化せる第一原因生じたり。汝自身も因果律の結果にして、それが次に代わりて更に他の結果の因となるなり。

さらば、おー人よ、汝がもたらす諸結果を必ず常により完全なる結果をうむ原因たらしめよ……」（林鐵造訳『エメラルド・タブレット』霞ケ関書房 より）

この「太初に存在せるすべてのものを



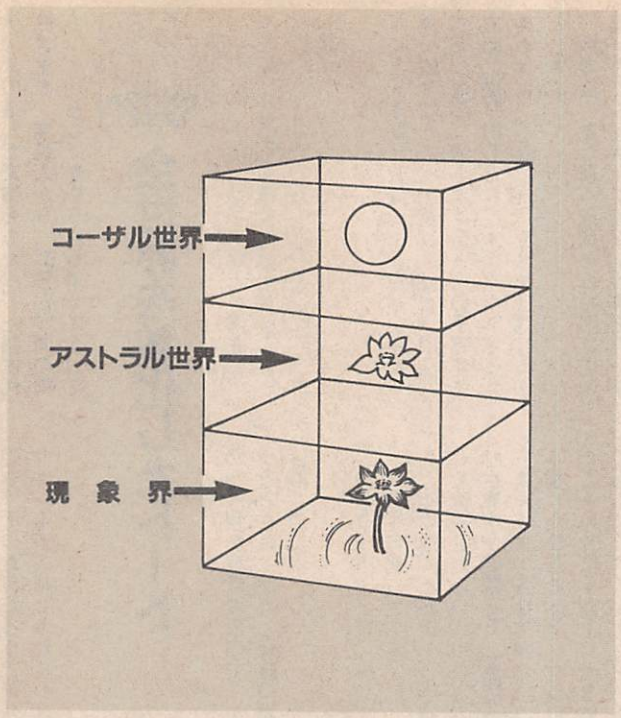
ピラミッドはトートが建てた

存在化せる第一原因生じたり」というのは、現在の宇宙が形成された発端となった真我と三グナとの衝突を連想させるが、いずれにせよこれは、宇宙誕生以来自らが生み出した原因に束縛されて自由を失っている魂に対して説き明かされたカルマの法則であると考えることができる。

また、現存する最古のヘルメス文献の一つである『聖なるポイマンドレス』には、トートの世界観を示す次のような言葉がある。

「目に見える世界が作られる前に、そのひな形が作られた。このひな形は原型と呼ばれ、創造の過程が始まるずっと以前に『最高の精神』の中にあった。」（マンリー・P・ホール著『象徴哲学体系Ⅰ』人文書院 より）

これは、太初は「真我独存」という最高の状態にあった真我が三グナと衝突することにより、コーザル世界、アストラル世界、現象界という三つの世界が上位の世界のデータの投射によってそれぞれ「創造」されたことを言っていると思われる。現象界から見れば、アストラル世界もコーザル世界もまさに「ひな形」なのである。（41～42ページ参照）




ヨーガの世界観
この世界の現象は、「データの世界」コーザル世界からアストラル世界へ降りたデータが、この世で現象化したものである。現象界から見ればアストラル世界もコーザル世界も「ひな形」である

## トートは説く ——「解脱して光に至れ！」

さらに、トートは、彼自身が解脱していたことを『エメラルド・タブレット』で次のように述べている。

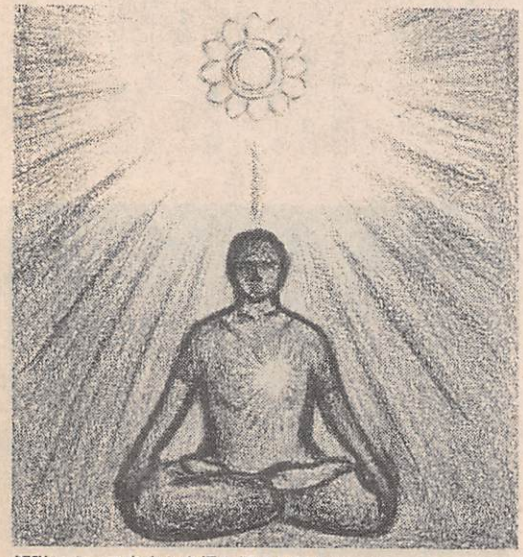
「わが魂遂に自由となりたることを知りて、われは時間空間の中を旅せり。今やわれ智恵を追求し得ることを知りて……我らの知れるすべてを超越せる延長の界にと通過するに到れり。おー人よ、われこの知識を得し時、今やわれ自由となりたれば、わが魂に幸せみなぎれり。空間に生まれし者よ聞け、わが智恵に聞け。汝らもまた解脱するならんことを知らずや。……解脱せる意識は、宇宙と融合し、すべての法と秩序と一体なり。」（前掲林訳書より）

そしてトートは、人々に解脱することを説いた。つまり幻影の自己を捨てて、真実の我である真我へ到達せよと。『聖なるポイマンドレス』には次のようにある。

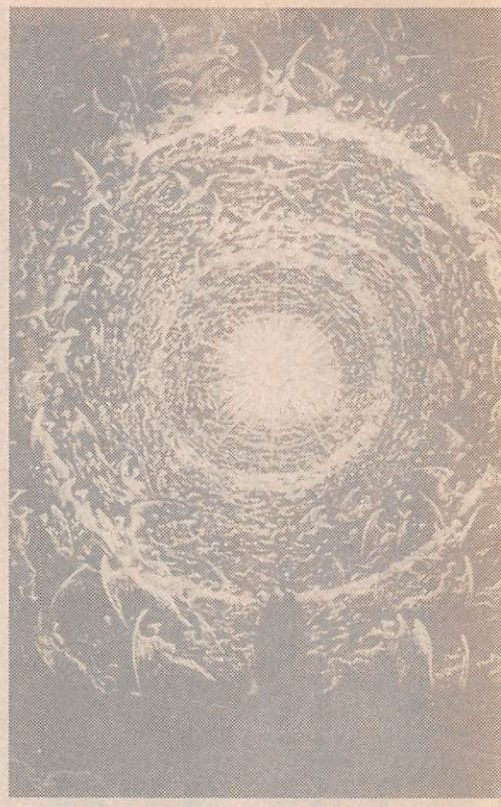
「『精神』の力によって自己自身を非我と分離し、『実在』の僕となるべきである。」（前掲マンリー・P・ホール著書より）

ヨーガ・仏教の経典には、真実の我でない存在を「非我」と表現しており、その点が一致していて興味深いのだが、では、真実の我とは何だろうか。トートは、それは光であると説く。

「あなた方の家は地ではなく『光』にあることを知れ。不死にあずかる力を持ちながら、なぜ自らを死に引き渡すのか。……



解脱によって自由と幸福を得よと説くトート


「魂を永遠の『光』と合体させる準備をせよ」

魂を永遠の『光』と合体させる準備をせよ。」（同右）

「もし人間が『生命』と『光』の本性を学び理解するならば、彼は『生命』と『光』の永遠へと入るであろう。……『光』に吸収され、『光』のなかにあって神の内なる『霊』となるであろう。」（同右）

光に没入することによって「不死」に到るという。さらに彼は、人間に死をもたらすものは、肉体と感覚に対する愛着だという。

「死は肉体を愛するために生じるのだと知れ。」（同右）

「無知なる者にとって肉体は至上のものであり、彼らの内部にある不滅性を理解することができない。死に従属する肉体だけしか知らず、死の原因でありまたその実体であるものを拝しているため、彼らは死を信じているのである。」（同右）

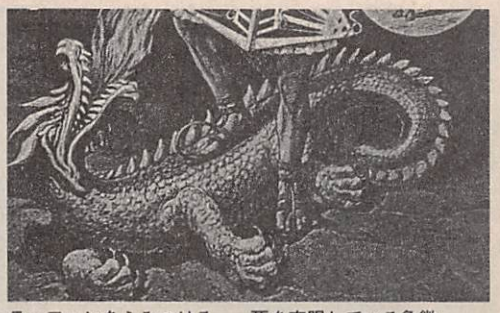
「賢者と哲学者は死ぬ前に、感覚が不滅の魂の敵であることを知って、それを捨てることを学ぶ。」（同右）

ちなみにヨーガでは、肉体や感覚に執着することによって魂は物質世界を転生し、死を繰り返すと説く。よって、そこから離れよと説いている。

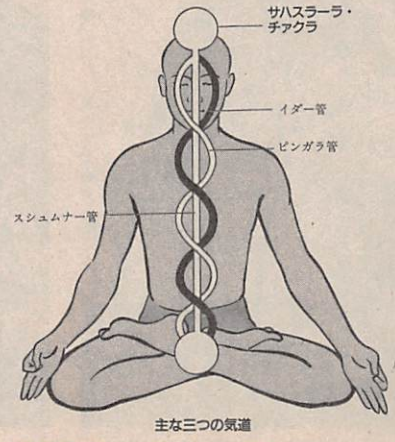
## 最奥儀を究めていた解脱者、トート・ヘルメス

トートの説いた教えをつぶさに見てみると、よくわかる。彼は、最高奥儀を究めていたのだ。麻原尊師がハトホル神殿で解読されたヒエログリフの象徴するヨーガの最高奥儀を――。つまり、トート・ヘルメス・トリスメギストスは、まさに解脱し、悟り、神通力を持った〝半神半人〟だったのだ。

彼が解脱を果たしていたことは、彼が足で龍を踏みつけている図にも現われている。エジプトの密儀参入者にとって、この龍テュフォンは、魂を滅ぼす者であり、個人の霊的本性を呑み込む劣等な世界を意味している。テュフォンは不完全であるので、高次な世界から下降して、物質的世界に再び生まれなければならない。そのため、テュフォンに呑み込まれることは再生（転生）の過程を意味するのだが、逆にこの龍を打ち負かしているということは、死を克服した者、つまり解脱を得た者ということができるのだ。


テュフォンをふみつける――死を克服している象徴

そして、もう一つ彼がヨーガを究めて解脱していたことを示す象徴がある。それは彼が左手に持っている〝ヘルメスの杖〟である。これは、一本の棒の周りに二匹の蛇が巻き付いているものだが、この蛇は解脱に不可欠な霊的エネルギーであるクンダリニーの象徴であり、この三つのラインはヨーガにおいて最も重要だとされる三本の気道（霊的エネルギーを通すパイプ）そのものを表わしているのだ。そして、棒の先端に翼がついているのは、頭頂にある霊的センター（サハスラーラ・チャクラ）からクンダリニーのエネルギーが突き抜けたときに訪れる解脱を意味しているという他ないのである。



三本の気道とサハスラーラ・チャクラ

ヘルメスの杖

## ヘルメス——あらゆる宗教家の畏敬の的

こうして〝超古代救世主ヘルメス〟は、長きにわたってエジプトに生き、ヨーガを基盤とする優れた精神文明を繁栄させ、現代文明の礎を作り上げるという人類史上最大の業を成し遂げた。そして、人々を解脱させるためのあらゆる秘儀・奥儀を説き広め、後代の宗教思想の源流を形成したのである。

事実、前掲のマンリー・P・ホールも、次のように述べている。

「長いあいだすべての民族と宗教の賢者たちは、人間の救済を求めながら暗闇のなかで、ヘルメスによって確立された『道』によって『不滅』へと導かれたのである。」（前掲書より）

その人類の精神的始祖ともいうべき業績の偉大さによって、〝エジプト大密儀の護り手〟として最高位の神官に敬意を払われ、さらに〝すべての創造物の中で神に最も近い存在〟〝神々の使者〟〝最高の哲学者〟〝最高の祭司〟〝最高の王〟とまで讃えられ、太古の昔から崇拝され続けている——それが今に伝わる〝三重に偉大なヘルメス〟の姿なのである。

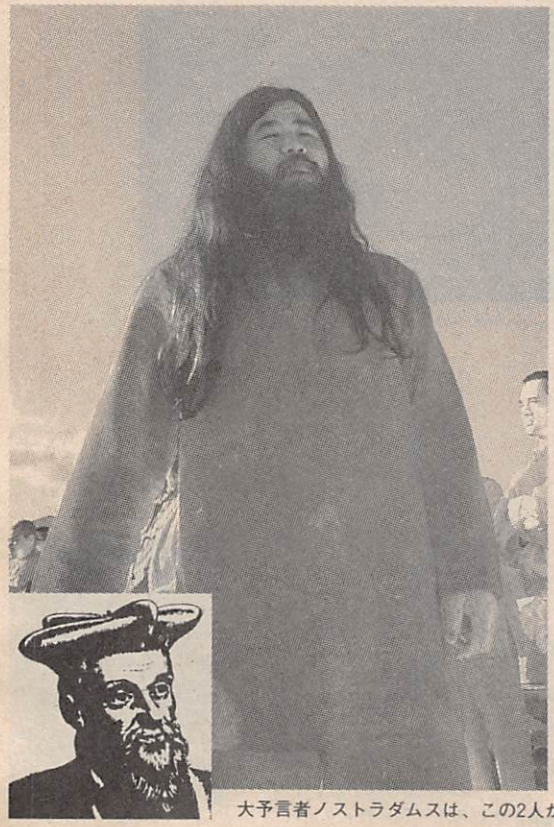
## 二重映しになるヘルメスと尊師

「第十章　七十五
長く待ってもヨーロッパには決して
再び現われないが
アジアで現われる
偉大なヘルメスから生じた宗派の一つ
そして東洋のすべての王たちの上で
成長する」
（一五六八年版　オウム真理教翻訳チーム訳）

——「偉大なヘルメスから生じた宗派の一つ」。ノストラダムスによって、こう表現されていたオウム真理教・最聖　麻原彰晃尊師。その救世主としての系譜を明らかにし、この詩の真意をつかむために、わたしたちは「偉大なヘルメス」を求めてアトランティス、そして古代エジプトを旅してきた。

その結果、ヘルメスと過去世の麻原尊師との間には多くの一致点が、いや一致点というよりも、その生涯、その説いた教えが限りなく重複していることに気づいた。超古代救世主ヘルメスと麻原尊師は、見事なほどにオーバーラップしているのだ。

では、この両者は互いにどのような関係にあるのだろうか——。ユダヤの密儀を修め、過去と未来を自在に見抜くことができたというノストラダムスは、それをはっきり知っていたのに違いない。



大予言者ノストラダムスは、この2人がどのような関係にあるのかを知っていたのだろう

第二章

# 復活したヘルメス――それは麻原尊師

## 一九八五年、ヘルメスは再臨した!?

かのヘルメスは、アトランティスから脱出した後、大洪水後の新しい世界を霊的に指導していくための団体として「聖白色同胞団」を組織し、その秘伝を大ピラミッドに残したといわれる。さらに、大ピラミッドには、この現象界の過去、現在、未来の解説者として役立つべく、その後の国々の栄枯盛衰や宗教思想のあらゆる変化までが予言され、刻み込まれたという。

ピラミッド研究家によると、ピラミッドの回廊内には、一ピラミッド・インチという単位を一年として、壁面や床面の素材、道の広狭や凹凸、刻印等の特徴をもって、この世界に起きる出来事が正確に記されているという。イエスの誕生や処刑はもとより、第一次大戦の勃発や世界恐慌、原爆投下までもが示されていたということだ（A図参照）。また、エドガー・ケイシーも、ピラミッドが〝壊れることなき石の予言書〟として建てられ、「宗教思想の変遷の模様が、レンガの層と色調によって墓の底から頂上に至るまで描かれている」とリーディングしている。

そして、これらの大業を果たしたといわれるヘルメスは、こう言い残してこの世を去っている。

「今また我は暫し下り行く。ケムの人等は我を忘れん。されど時来らば、天来の意志を有つ我は、残したる者の為に強大なる力をもて再び地上に現わる。」（前掲田中訳『エメラルド・タブレット』より）

必ず地上に再来すると宣言してヘルメスは去った。それから、彼が神話の登場人物となってしまうような長い長い歳月が経過した今、〝立体予言書大ピラミッド〟は、〝ヘルメス再来〟をうかがわせる出来事が起きる時代が来た、とわたしたちに語っているのだ。

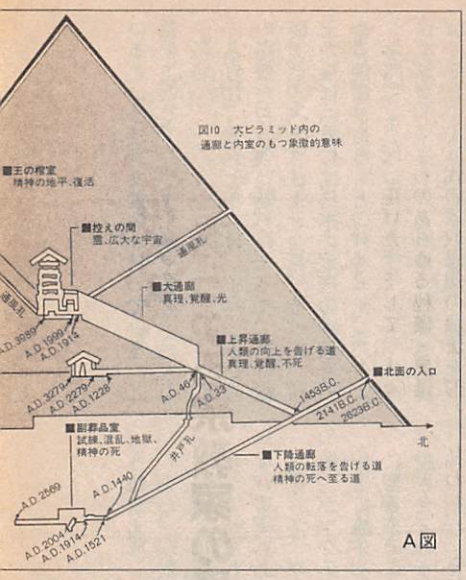
というのも、近年のある年に相当する予言の箇所で、ピラミッド通廊の床が花崗岩に変化しているのだ（B図参照）。花崗岩には「霊的」という意味があるので、そのポイントに当たる年には、全人類に影響を及ぼす偉大な霊的指導者、救世主が登場するのではないかと研究家の間で強く期待されていた。

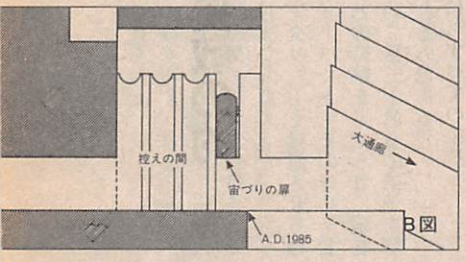
そして、その年というのは、一九八五年であった（上坂晨著『大ピラミッドに刻まれた戦慄の大予言 人類は滅亡する!』三笠書房 等より）。

## 一九八五年に現われた尊師

ところで一九八五年といえば、一九七七年から解脱のための激しい修行を続けておられた麻原尊師が、空中浮揚をはじめとする数々の奇跡を現わして、人々の注目を集め、救世主としての「あかし」を始められた年である。

そして翌年には、世界でただ一人ヒマラヤで最終解脱を果たされ、本格的な宗教活動を開始。たちまち聖者方から絶賛を受けた。例えば、インド政府から「大聖者」の称号を受けていることで日本でも有名な超能力者パイロット・ババからは「あなたなら日本の破滅を救うことができる」といわれ、「功徳の聖者」といわれるスワミ・アカンダナンダからは「あなたは歴史に姿を現わす超人類を率



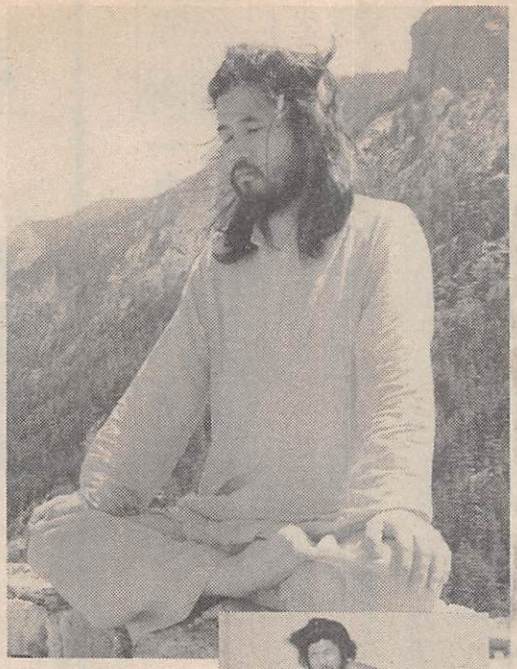

A図　ピラミッドには、人類の歴史が予言されていた……
B図　一九八五年から床が花崗岩に変化。大救世主の登場が期待された
（AB図とも上坂晨著『大ピラミッドに刻まれた戦慄の大予言 人類は滅亡する!』三笠書房 より）

いるという特別な使命を持っている」と、救世主としての使命を宣言された（73ページ参照）。

さらに、翌八七年には、チベット仏教の高僧たちの強い勧めによって、同教総帥ダライ・ラマ法王と会見。その際、法王からは「君には日本に本当の宗教を広める使命がある」と告げられた（73ページ参照）。また、先にも述べたように古代エジプト・ヨーガ文明の謎の解明に成功した上、八名の弟子を解脱へ導くという快挙を成し遂げられた。

また、宗教のみならず、音楽、医学、占星術、出版、教育等も幅広く手掛けられ、それぞれの分野のプロに引けをとらない功績を上げてこられた。

そして、クンダリニーを覚醒させる秘儀〝シャクティーパット〟をのべ八千名以上に施すなどの奇跡を見せられ、現在に至るまでに約二百五十名もの弟子を解脱させておられるのである。



↑86年には世界で唯一最終解脱を果たされた

85年、空中浮揚等で世間の注目を集め、世に登場→

以下の聖者が尊師を絶賛

パイロット・ババ

スワミ・アカンダナンダ

故カール・リンポチェ師

カムトゥール・リンポチェ師

アーナンダ・マイトリー高弟

## 世界中から絶賛される尊師

また、尊師の活動は急激なスピードで全世界に拡大している。例えば共産主義が崩壊したロシア共和国の政府からは、「国民の心に和平を培うために人間を高尚にする宗教」（ハズプラトフ最高会議議長）として、尊師一行が国賓として招待されている。また、尊師は世界で唯一「タントラ・ヴァジラヤーナ仏教」という高度な仏教を国教としているブータン王国からも国賓として招かれ、国王や法王と会見された上、同国から〝最聖〟という最高の称号を贈られている。

また、仏教国スリランカでは、崩壊しつつある上座部仏教を守るための活動を展開し、同国国民から「世界を救うことのできる唯一の人」と期待されている。さらに同国総理大臣に公式招待され、仏舎利（仏陀釈迦牟尼の遺骨）まで贈呈された。同じく仏教国ラオスからも国賓として招かれ大歓迎を受けている（尊師の国際的な活躍については、『世界は尊師を待っている』〈オウム出版〉を参照のこと）。

このような世界的活動ならびに尊師の霊性・精神性は、世界各地の「聖者」と呼ばれている方々からの高い称賛を受けている。

例えば、チベット仏教カギュ派総帥の故カール・リンポチェ師は、尊師を「仏陀（覚者）」と賛嘆し、「偉大な智慧と大いなる愛を持っておられる方」だと絶賛した。

元ダライ・ラマ法王宗教局長でチベット仏教ニンマ派の高僧であるカムトゥール・リンポチェ師は、尊師のことを「イエシェ（完全なる絶対なる神の叡智）のステージだ」と驚き、「尊師の生きている意味合いは衆生を済度するためである」と明言した。

さらに、仏教国スリランカナンバーワンの瞑想家であり学者として同国国民から尊敬を集めている聖者アーナンダ・マイトリー高弟は、尊師のことを「今の時代、この地球に現われた偉大な聖者」と称賛し、「尊師ほど高い修行ステージに達した方は見たことがない」と感動した（73ページ参照）。

これらの聖者方は常人を超える霊性・精神性を持っており、相手の本質を瞬時に正しく見抜く神通力を持っている。そんな彼らの絶賛の言葉は、麻原尊師の本質を如実に表わしているといえる。

## 尊師――まるでヘルメスの再来

このような尊師の活躍や評価を見ると、ますます尊師がヘルメスの再臨のように思えてくる。

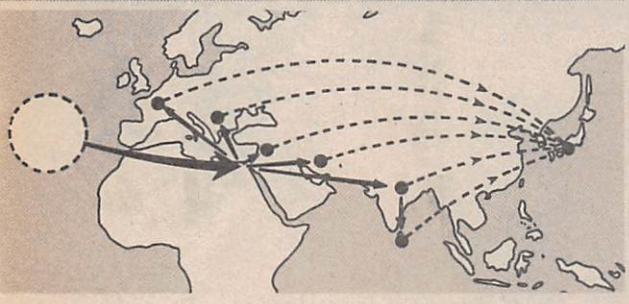
ヘルメスは解脱し、多くの人を解脱に

ロシア共和国から国賓として招待される

「本物の宗教を広めなさい」そう言
チベット仏教総帥ダライ・ラマ法王

ブータンから〝最聖〟の称号を贈られる

スリランカの総理大臣から仏舎利を贈呈



世界中の宗教が「地球の教祖」のもとに今再び統合されるときが来た

尊師によって約二百五十名の
弟子が解脱に導かれている

導いた。尊師もそうである。

ヘルメスは宗教のみならずあらゆる分野に才能を発揮した。尊師もそうである。

ヘルメスはエジプトを拠点として全世界に真理を説いた。尊師も全世界を飛び回るとともに、他に例を見ない毎日長時間の全世界向けラジオ放送を行なって、真理の教えを全世界に広めておられる。

ヘルメスは高度な教えを流布したために世界各地から「神」として仰がれるようになった。尊師も過去世イムホテップであられたときには「神」として崇められ、現在も世界中のあらゆる聖者方から「仏陀」「完全なる絶対なる神の叡智」等と最大級の絶賛をされている。

あたかもヘルメスの再来を思わせる尊師。そんな尊師は、こう認められた。ご自身が「聖白色同胞団」の系統に属しているのだと――。

## 復活したヘルメス――再び「地救の教祖」となるために

やはり尊師は「ヘルメスから生じた宗派」、それもヘルメスの直系だったのである。〝すべての宗教の祖〟とも仰がれるヘルメスの直系だったのである。であるからこそ今世紀末の尊師の登場は、遥かの昔から古今東西の宗教家や予言者に予言されていたのだ。

ノストラダムスの予言は成就した。アトランティスに起源を発する「ヘルメスから生じた宗派」が「ヨーロッパ」にではなくて「アジア」に登場し、救世の大事業を開始したのだ。

アトランティス伝来の秘法をオウム真理教に復活させ、その指導のもとに、かつてのアトランティスの「神人」たち、すなわち解脱者を続々と生み出されている尊師。そして、ヨーガ、仏教、キリスト教、中国思想等、世界中のありとあらゆる宗教の隠された秘儀を解き明かし、唯一の〝真理〟を説き示される尊師――。

世界中の大宗教の源流となった宗派が極東に出現し、アトランティスとエジプトから世界に散った真理の流れを今再び一つにまとめ上げて、真理を統合しようとしている。

そのときが来た。世界中の宗教が一万二千年の時を経て、いよいよその源流に戻り来て完成されるときが。ヘルメス直系の救世主のもとに。

そして、諸教を統合し、真理を完成した世紀末救世主は、ノストラダムスの予言にしたがって「地球の教祖」となり、新しい世界の人々を栄光の時代へと導いていくのだ。かつてその前身が「最高の王」として伝説を残したように――。

PART 6

# 新しい世界の始まりの鐘が鳴る
# 集え 縁ある弟子たちよ、
# アトランティスの悲劇を繰り返すな！

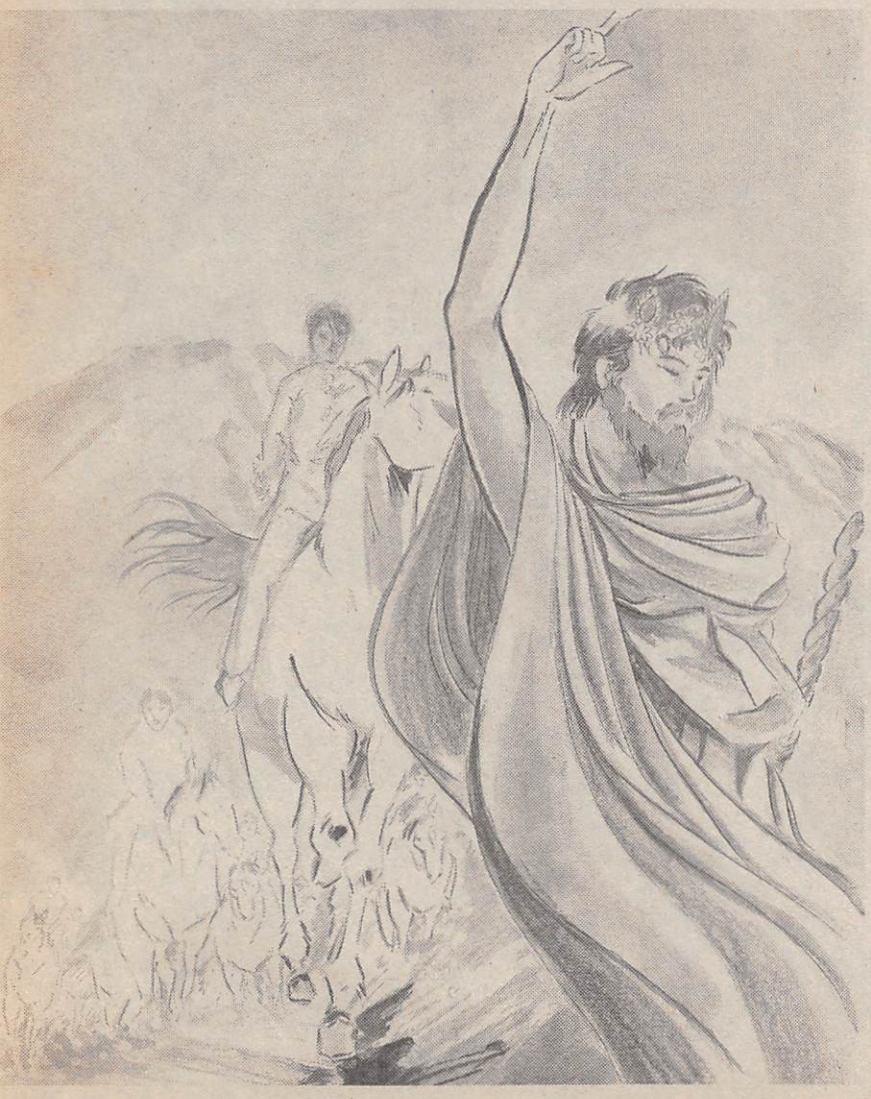
## アトランティスの過ちが再び……

超古代の救世主ヘルメスは現代に復活した。そして、〝ヘルメス〟の指導のもとで、アトランティスの秘法によって、アトランティスの神人たちが次々と復活している。すべてはノストラダムスの予言どおりにである。

しかし、喜んでいる場合ではない。それと同時に、またあのアトランティス文明末期と同じ危機が迫ってきているのだから。エドガー・ケイシーはいう。

「**数多くのアトランティス人が現代にもやって来ているので、彼らの性質が地球上に形をとって現われているのだ。**どの国の、どんな集団のリーダーもアトランティス人の生まれ変わりだというのは確かで、これは敵味方を問わずにそうなのだ。」つまり、かつてアトランティスを滅亡に追いやった魂が多数転生してきているので、彼らの影響によって、現在の世界にアトランティスの滅亡期と同じ特徴が現われているというのだ。確かに世界の現状は雄弁にそれを肯定している。

例えば核兵器がそうだ。かつてエゴイズムに汚染されたアトランティス人たちが〝ツーオイ石〟のエネルギーを濫用して滅亡を招いたように、今の人類も原子力エネルギーを戦争のために悪用し、滅亡しようとしている。同じように、汚れた情報で人々を荒廃させ、物質主義で地球を汚染し、戦争でそれを破壊しようとしている。そして、真理の実践者たちを躍起になって迫害している。



# 再び集え、新文明建設のために!

彼らはまたもや同じ過ちを繰り返そうとしている。

今また、アトランティス末期のように、"神の掟の子ら"と"ベリアル(悪魔)の子ら"の間に、壮絶な戦いが始まろうとしているのだ。ヘルメス率いる"神の掟の子ら"の陣営に加わるのか、それとも欲望に負けて"ベリアルの子ら"の陣営につくのか、それはあなたの選択次第である。

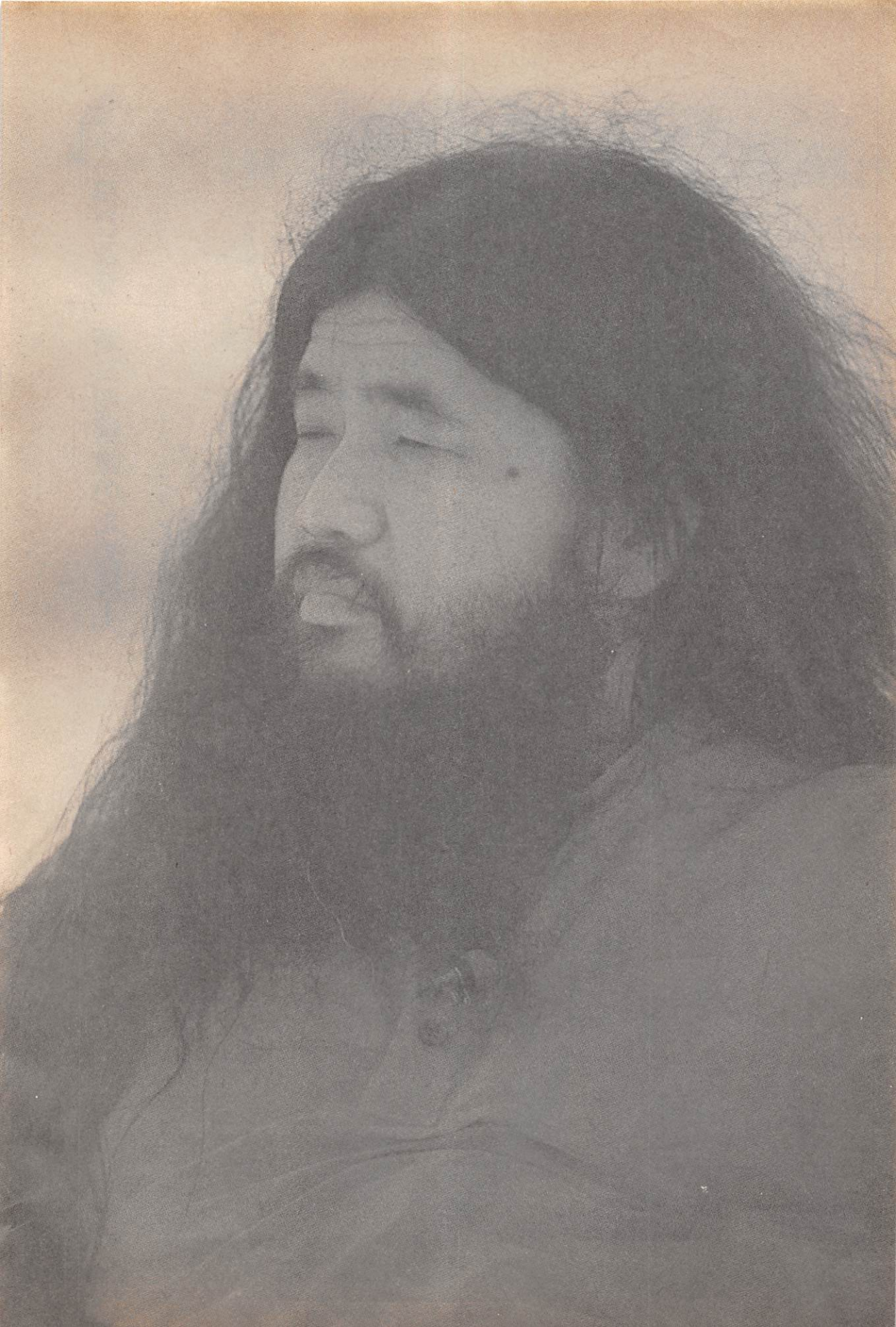
尊師は弟子たちの前でこう語られる。

「アトランティスにいたときは、救済活動が失敗して大陸は沈没してしまったんだよ。そしてそのときにわたしと弟子たちは、潜水艦で脱出して別の地に移ったんだよ。ムー大陸のときも失敗して、大陸は沈没したけど同じように潜水艦で脱出したんだよ。**だから今回の救済活動はどうしても成功させなければならない。**」

そう、今度は成功させねばならない。アトランティスの悲劇を繰り返したくないあなたには、ぜひとも尊師の警告に耳を傾けてもらいたい。そして速やかに"神の掟の子ら"の陣営に参加してほしい。歴史的使命のために再び集まってほしい。かつて麻原尊師の呼びかけに応じて集まったアトランティスの弟子たちのように。

今、縁ある者たちは集まらなければならない。

**なぜならば——、わたしたちの手でまた新しい文明を築かねばならない時が来たからだ。**



# 黎明

作詞・作曲　真理の御魂（みたま）
最聖　麻原彰晃尊師

新しい世界が始まろうとしている
そして　その前には
多くの苦難が待っている
光音天（※）からやって来た
アフラ（※）の世界からやって来た
真理の実践者

新しい世界をつくろうとしている
そして　その前には
多くの試練が待っている
光音天から降りて来た
アフラの世界から降りて来た
真理のヤーメンタカ（※）

新しい世界が約束されている
そして　その前には
多くの犠牲が必要だ
光音天から命を受け
アフラの世界から命を受け
真理のマハーカーラ（※）

新しい世界の始まりの鐘が鳴る
そして　その後には
予言の世界が待っている
光音天からやって来た
アフラの世界からやって来た
真理の救済者

※光音天――アストラル世界にある天界
アフラ――透明な輝きに満ちあふれた完全なる精神的世界
ヤーメンタカ――タントラ仏教の神。死を征服する智慧、死に対する勝利を象徴
マハーカーラ――シヴァ大神の異名

あの名著がグレードアップ！

増補改訂版

# 生死を超える

麻原彰晃尊師の不朽の大ベストセラー『生死を超える』が、新しく増補改訂して登場！

麻原尊師の教えに導かれ、生死を超えて解脱した四十八名の弟子の体験談を、解脱へのプロセスに沿って掲載した。

真理の御魂（みたま） 最聖麻原彰晃尊師著

B6判 定価1800円

オウム出版 本　社　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部　〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL 03(5370)1598

好評！ あなたとオウムをつなぐ

# パソコン通信、"オウム真理教ネット"

オウムについてもっと詳しく
知りたい……
教義その他について、いろいろと
聞きたいことがある……
オウムの人たちの生の声を
聞いてみたい……
そんなあなたに最適な
情報ネットワーク

**"オウム真理教ネット" のご紹介**

| | |
|---|---|
| TEL番号 | 03-5370-1726(四回線)<br>Tri-P利用可能(CXAUMNET) |
| 通信速度 | 1200/2400bps |
| 通信条件 | BITS-8 PARITY-NONE STOP-1 |
| プロトコル | X-MODEM Y-MODEM(-G) |
| ゲストID | GUEST |
| 運用時間 | 24時間 |
| 入会方法 | ゲストログイン後、<br>SYSOPあてメールにて申請 |

面倒な手続きはいっさいありません。オウムに興味をお持ちの方、聞いてみたいことがある方は、今すぐお気軽にご利用ください。

※ただ今、新入会員の方に素敵なプレゼント(えんじょい・はぴねす最新号)をさしあげています。

●なお、その他詳細は下記までお問い合わせください。

〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
"オウム真理教ネット" 事務局 TEL 03-5370-1721

# 尊師対談ハイライト

真理の御魂（みたま） 最聖麻原彰晃尊師は各界の有識者と対談されてきたが、その際次のような高い評価を受けている。

**中沢新一氏**（宗教学者・東京外大アジアアフリカ言語文化研修所助手）
「僕は彼(麻原尊師)がとても高度なことを考えている人で、高い意識状態を体験している人だと認めています。日本の今いるいろいろな宗教家のなかでも知性においてかなり上等なレベルにいる人だと思いました。今の日本で宗教をやっている人のなかで稀に見る素直な人なんじゃないかな」（『週刊ポスト』89年12月4日号より）

**島田裕巳氏**（宗教学者・日本女子大学助教授）
「『オウム』は最初はヨーガから始まったが、その後は、仏教の本来のスタイルに近づいている。日本の仏教は世俗化しているために『オウム』が特異な集団に見えるが、むしろ仏教の伝統を正しく受け継いでいる。パーリ語の仏典を訳したりして、勉強している点も、それを裏づけている。」（『週刊朝日』91年10月11日号より）

**荒俣宏氏**（作家）
「私は麻原尊師にかぎりない好感を抱いた。おそらく解脱した者は幼児のように他愛もないか、あるいは阿修羅のように熱狂的であるかの、どちらかだろう。……麻原彰晃がほんものの解脱者であるとして、かれが示す寛大の姿勢は、あきらかに前者の例といえるだろう。」（『０３』91年6月号より）

**栗本慎一郎氏**（経済人類学者）
「麻原さんのように煩悩を越えられた方は、非常に素晴らしいし、そこからの教えを説いていっていただきたいと思います」（『サンサーラ』92年1月号より）

『ビートたけしのテレビタックル』（91年12月30日放映）ビートたけし氏と対談。以前から尊師に会いたがっていたというたけし氏と話が弾んだ。録画終了後にたけし氏から尊師に個人的に話しかけがあり、後日『Bart』（集英社）誌上において再び対談がなされた。

# 各地の大学で大反響を呼んだ麻原尊師

昨年から今年にかけて、最聖 麻原尊師は日本全国の有名大学において学生を相手に講演し、いずれの地でも好評を博した。

東京大学の講演では、二階席のある大教室でも立ち見の出るほどの大盛況だった。大宇宙の創造のプロセスから社会問題まで広範な質問がなされたが、どの質問に対してもスパッと回答する尊師の明快さがきわ立っていた。

京都大学講演会においては、定員二百人の会場に、麻原尊師を一目見ようとした学生千三百人以上が詰めかけて大変な盛況を呈した。後半の大質問会では、時間を延長して、人類学や物理学の専門家からの問いに答える尊師に何度も熱い拍手が巻き起こっていた。

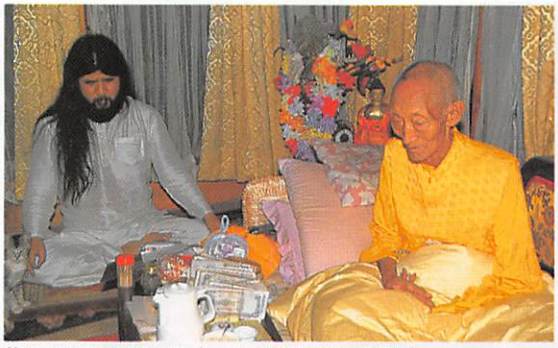
なお、国内のみならずロシアの大学においても講演が行なわれ、大反響を呼んだ。写真は日本でいえば東大に当たるモスクワ大学での講演（本年3月）。その他、モスクワ工科物理大学、モスクワ国際関係大学、モスクワラジオ電子自動制御大学でも行なわれ、超満員の聴衆が集まり、尊師への質問が殺到した。

# 聖者からのメッセージ

## 「救世主はあなただ!」——聖者方に使命を託された真理の御魂(みたま) 最聖麻原彰晃尊師

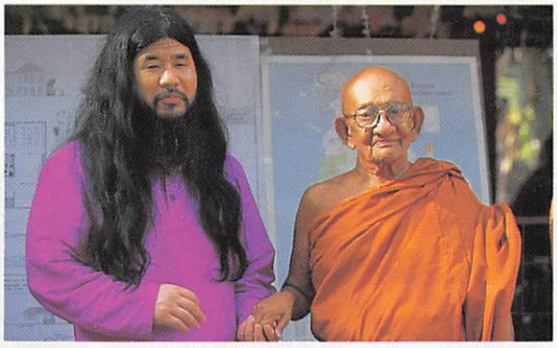
最高の修行ステージに到達された、真理の御魂 最聖麻原彰晃尊師は、高い霊性と精神性を持つ世界中の聖者から、その修行ステージの高さを絶賛されている。

**ダライ・ラマ法王**（チベット仏教の政治・宗教の最高指導者）
「君（＝麻原尊師）が日本に本当の宗教を広めなさい。君ならそれができる。」（87年　インド・ダラムサラーにて）
「オウムは宗教的・社会的活動を通じて、人々の覚醒を促すよう努力する団体です。瞑想の実践方法を人々に指導するとともに、オウムの人たちは大乗仏教の伝統を引き続き実践しています」（89年5月　親書）



**故カール・リンポチェ師**（チベット仏教カギュ派総帥）
「今生のわたしたちは大きな幸運に恵まれています。それは、仏陀（覚者＝目覚めた人）が現われて法を説き、その法が今なおここに存在している時代に、わたしたちは転生したからです。……それは皆さんのグル、麻原彰晃尊師です。」（88年8月　オウム真理教福岡支部道場にて）
「尊師は偉大な智慧と、偉大な法の理解、そして大いなる愛、すべてのものを助けようという願望を持っておられます。」（88年　同名古屋支部道場にて）

**カムトゥール・リンポチェ師**（元ダライ・ラマ法王宗教局長：チベット仏教ニンマ派の高僧）
「あなた（＝麻原尊師）は高い悟りを得ている。イェシェ（完全なる絶対なる神の叡智）のステージだ。完全にあなたの生きている意味合いは、衆生を済度するためである。」（91年5月　インド・ダラムサラーにて）
「麻原尊師は公の協力が得られた場合には、真に多くの人々に受け入れられる仏教の師として、日本に真の法を再び確立できるお方です。」
（89年5月　親書）



**アーナンダ・マイトリー高弟**（仏教国スリランカナンバー1の瞑想家であり学者として同国国民から尊敬を集めている聖者：高弟とは「長老」の意）
「初めて尊師にお会いしたとき、尊師が今の時代、この地球に現われた偉大な聖者の一人であることを理解しました。尊師は偉大な宗教的師です。精神的に非常に高いレベルに達している方です。わたしは多くの修行者、グル（霊的指導者）に会いましたが、尊師ほど素晴らしいグルには会ったことがありません。」（92年5月　スリランカ・バランゴダにて）

**スワミ・アカンダナンダ**（歴史上傑出したヨーガ行者ラーマ・クリシュナ・パラマハンサの孫弟子：「功徳の聖者」と呼ばれている）
「あなたには特別の使命がある。……近い将来、日本はほとんど破壊されるでしょう。それは神の意思なのです。そのときに、歴史に姿を現わす新しい人類を率いなければならないのが、あなたです。」
「あなたには特別の任務がある。それは日本人を高い精神状態へと引き上げることです。」（86年　インド・ウッタルカシにて）

**バイロット・ババ**（インド政府より「マハリシ〈大聖者〉」の称号を受けている日本でも有名な超能力者：86年、日本でのサマディ実験がテレビで放映された）
「……日本だけではない。アメリカも、ソ連も、中国もいろいろな形で破壊されていくことだろう。しかし、救われる道は残されている。それは、日本人が正しい宗教を持つことである。そうすれば、日本は破壊を免れるに違いない。そう、あなたは日本を救うことができる。あなたは日本を救わねばならない。」（86年2月　インド・デリーにて）

# へ羽ばたくオウム真理教

全世界へ広がるという。そして、予言どおり
規模に拡大し、各地で大歓迎を受けているのだ。

## ロシアにて

最聖 麻原尊師はじめとするオウム真理教のメンバー約三百名は、今年三月ロシア共和国に公式招待された。

ルツコイ副大統領 「麻原尊師と会えて、とてもうれしい」

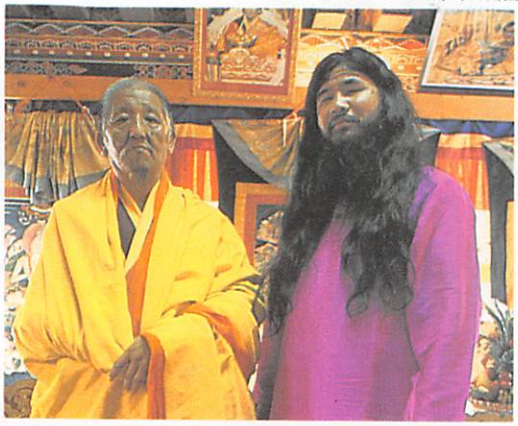
露日基金会長ロボフ氏（露日基金会長／前ソ連首相代行／現大統領直属専門評議会議長）
「オウム真理教の若いスタッフがモスクワで活躍することを望みます。」
「露日基金の会館が、モスクワの中心地にできます。その中の一部をオウム真理教の拠点にすればいいのではないでしょうか。」

ハズブラトフ最高会議議長（エリツィン大統領に次ぐロシア・ナンバー2の政治家）
「尊師が日本だけでなく、全世界で、その純粋な仏教の崇高な理念を普及するため、本当に偉大な活動をなさっていることをわたしはよく承知しております。この活動のますますのご成功と、ご健康をお祈りします」

オウム真理教の舞踏歌劇「死と転生」がクレムリン大会宮殿で行なわれた。六千百五十人収容の同会場は超満員となった。

## ブータンにて

今年七月に尊師一行はブータン王国国賓として招かれ同国国王ならびに法王と会見した。
そして尊師は同国より〝最聖〟の称号を贈られた



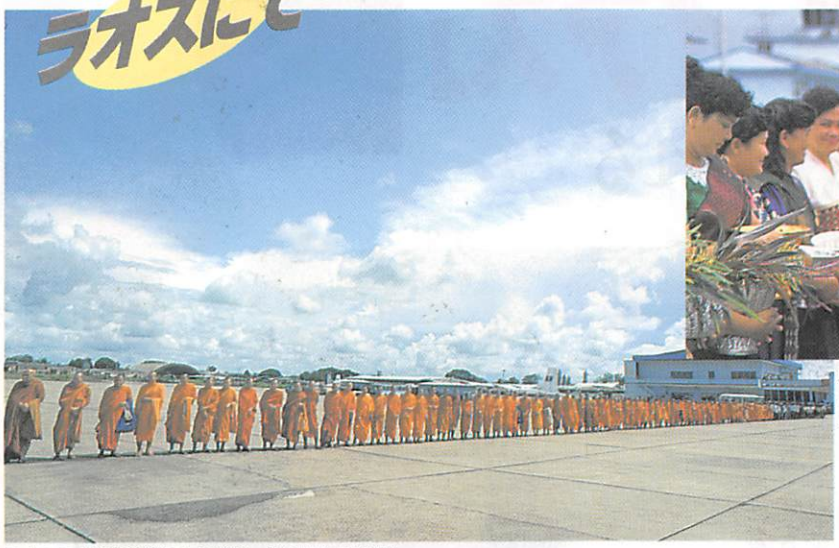
法王と

国王と

# 世界との交流——世界

予言によると、世紀末の救世主が説く教えは
真理の御魂（みたま） 最聖麻原彰晃尊師の活動は全世界的

## ラオスにて

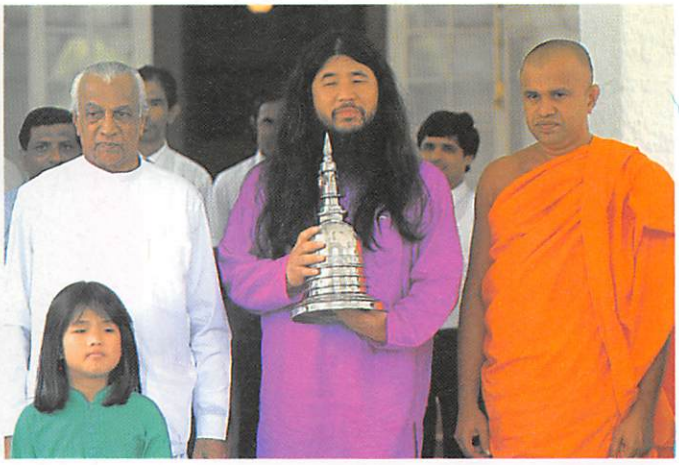


ラオスの出家修行僧による尊師一行に対する出迎え

麻原尊師は仏教国ラオスにおいても国賓として迎えられ、大歓迎を受けた。ラオス国民の温かい歓迎を受けた尊師一行

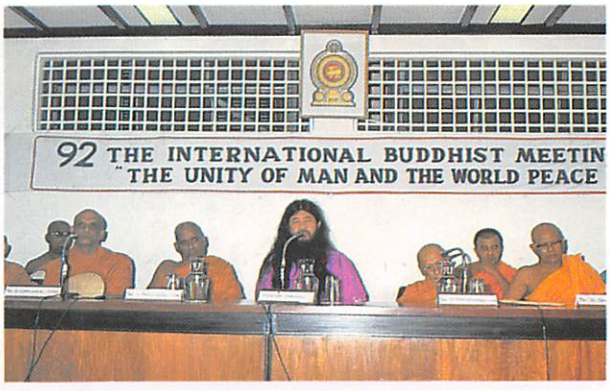
## スリランカにて

尊師を歓迎して日本語で歌を歌うスリランカの少女たち



麻原尊師は仏教国スリランカからも公式招待された。総理大臣D・B・ビジェトゥンガ氏より仏舎利（仏陀釈迦牟尼の遺骨）を受け取る尊師

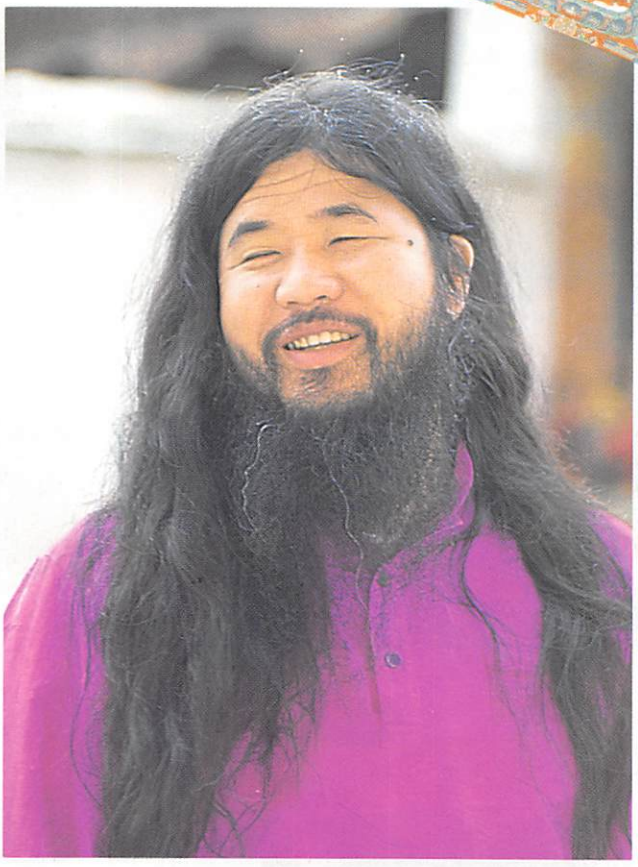
尊師を歓迎して集まったスリランカの民衆（ゲートの文字からは手作りの温かさが伝わってくる）




麻原尊師の呼びかけによって、「国際仏教会議」が開かれ、スリランカを代表する高僧の方々が出席された

# を聴いたか？

# のラジオ放送
# テス・バシレイアス」
# 世界へのべ伝えられる



真理の御魂（みたま） 最聖 麻原彰晃尊師の声があなたの耳を直撃！

今、オウム真理教では、日本全国に、そして全世界に向けては英語で、毎日ラジオ放送を行なっています。その名も「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」。ギリシャ語で「御国の福音」という意味です。

その名に違わず、番組内容は魅力たっぷり。ラジオから流れ出る〝福音〟は、きっと、あなたの心をときほぐし、安らぎを与えてくれるでしょう。そして、明日への新たな活力を与えてくれるに違いありません。

### ●主な番組内容

**★真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師説法**

大好評の尊師説法。最終解脱者の説き明かす真理の法則は、あなたのいかなる悩みや疑問でも解決してくれるでしょう。

**★わたしは見た！ これが尊師の超越神力**

弟子が目撃してきた尊師の驚くべき神通力の数々。尊師が持っている人間を超えた神の力をレポートします。

## エウアンゲリオンを10倍クリアに聴こう

日本全国どこでも聴ける「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」。この番組をもっと鮮明に聴きたいという方のために、簡単にできるループアンテナの作り方をご紹介します。

**◉中波用ループアンテナの作り方**

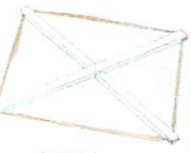
①長さ90センチ、太さ12ミリくらいの角材二本を図1のように加工し、組み合わせて接着し骨組をつくる。（図2）

②0.5ミリくらいの太さのエナメル線を骨組みの端の切れ込みに沿わせ、十回巻きする。（図3a）

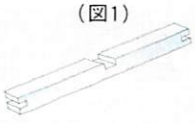
エナメル線の巻き始めと巻き終わりは、角材の端に穴を空け、その穴に通して数回巻きつけておくと解けないので作業がしやすい。（図3b）

③エナメル線の末端のある側の角材の端にポリバリコンを接着する。（図4）

④エナメル線の端を適当な長さに切り、サンドペーパー等で被覆をはがし、ポリバリコンの端子にハンダ付けする。（図4）



（図1）



（図3a）

（図2）

# キミはもう尊師

# オウム真理教「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」
## ――救世主の教えは全

★リラクセイションのコーナー
現代人を悩ませるストレスを昇華し、肉体と心に健康を呼び戻す秘儀を伝授。

★麻原彰晃尊師のノストラダムスの大予言
『諸世紀』の原文翻訳のうえ、尊師が解脱者の智慧を駆使して解読するノストラダムスの予言。驚くべき人類の未来が今明らかに!

★麻原尊師の運の良くなるザンゲコーナー
知能を発達させ、心を安定させる仏教の修行「ザンゲ」の方法をお教えします。

★ミラクルパワー 神秘の世界を開け!
修行によって超人類へ変身していく過程で得られるミラクルパワーの世界を公開。

★仏典を楽しもう
二千六百年の時を超えて復活した覚者サキャ神賢の法。あなたを「悟り」へと導く覚者の叡智をどうぞ。

★STEP UP 真理
生きることの本当の意味、宇宙や生命の神秘、なぜ修行が必要なのか。そのナゾに明快な回答をもたらす真理の法則をわかりやすく解説します。

★今月の歌
尊師が作曲された真理の歌を歌おう。歌えば力がもりもりわいてくる!

その他にも番組内容はもりだくさん。一日の最後に、ゆっくり体を休めながら耳を傾けてみてください。いにしえの聖者方が説かれた「解脱」と「悟り」の素晴らしさが、心に染みて感じられることと思います。そして、あなたも超人類への道を歩みましょう!

### ラジオ・タイアップマガジン『えんじょい・はぴねす』プレゼント

「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」が10倍楽しくなるタイアップマガジン月刊『えんじょい・はぴねす』最新号をもれなくプレゼントします。放送の聴きどころのほか、オウム真理教の最新情報を満載したオールカラー80ページ。巻末のハガキに必要事項を記入して、どしどしお申し込みください。

### 放送時間と周波数

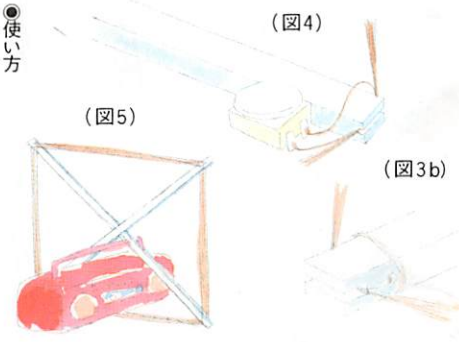
●中波（23:00～1:00）
720kHz

●短波（22:00～23:00）
11/1～3/6：7.310MHz
3/7～5/1：15.315MHz

●使い方
・ラジオを七二〇キロヘルツに合わせて受信する。
・ポリバリコンを回して、最もよい受信状態にする。
・ラジオとループアンテナをそのまま一緒に回してみて、最もよく受信できるようにする。
・ラジオは図5のとおり、ループアンテナに対して常に垂直になるようにする。

●材料
・バルサの角材（非金属であれば何でもいい）……12ミリ角を90センチ（2本）
・エナメル線太さ0.5ミリを30メートル
・ポリバリコン（中波ラジオ用、単連）1個

●注意点
・ラジオはループアンテナの内側に配置する。外側だとあまり効果がない。
・鉄筋の建物では電波が届かず受信しづらいので、できるだけ窓際で聴く。
・コンピュータ、蛍光灯などの電気製品は雑音を発することが多いので、雑音の多いときは電源を切ってみる。



# コーナー ―救世主の法をあなたに

## 最聖 麻原彰晃尊師の説く法とは？

でお申し込みください。もれなく無料でプレゼントいたします。
目でしっかりと確かめてみてください。

### ◆オウム真理教を知りたい方のための十冊
――この本なしには宗教は語れない！
絶対最勝の教え

絶対幸福の鍵を解く
**生死を超える・増補改定版**

解脱と悟り。それは人としての最高の宝物。八年の歳月を経て修行の最終地点に到達された尊師の体験が、解脱への道程を克明に語りかける。

真理勝者　絶対最勝の法則
**タターガタ・アビダンマ 第一誦品 大宇宙の実相**

オウム真理教の教義をやさしく教える入門書第一弾。真実の宇宙観と魂の落下のプロセスを詳述。

**第二誦品 真理勝者の救済計画**

サキャ神賢の教えの全体系が明かされる！ 魂が救済されていくプロセスと解脱への道程を詳述。

大乗ヨーガ経典
**イニシエーション**

最高の秘儀を惜しみなく公開。今日の日本と世界の動向を正確に予言している驚くべき記述の数々。

**マハーヤーナ・スートラ**

解脱の真理が実体験として証明された。解脱へのステップ、希代の体験談がすべてを語っている。

麻原彰晃の世界　PART1
**マハーヤーナ・スートラ PART2**

サキャ神賢の教えと尊師の説法と弟子たちの体験談が満載。読み、考え、実践する「本物のお経」。

麻原彰晃の世界　PART1
**幸福に至る四つの実践**

仏教の基本ともいえる「四預流支」を麻原尊師が縦横無尽に説いた画期的な説法群。

### ◆真理をもっと深く学びたい方の本
――甦る釈迦牟尼の教え

麻原彰晃の世界　PART3
**真実！六道輪廻**

麻原尊師と高弟たちの瞑想体験が証明する六道輪廻の真実。間違いだらけの現代の死生観を正す。

麻原彰晃の世界　PART4
**宗教にだまされるな！**

霊障、水子供養、先祖供養……。この世にはびこる間違った観念を打破し、正しい意味を説く尊師。

麻原彰晃の世界　PART5
**絶対の真理**

運命の鍵を握る〝カルマの法則〟。すべての人がカルマに支配されていることを多数の例が証明！

麻原彰晃の世界　PART7
**仏教真理・八正道**

原始仏教の根幹をなす教え「八正道」。仏教の基礎ともいえるサキャ神賢直説の教えを、麻原尊師が正確かつ現代人にわかりやすく説く。

麻原彰晃の世界　PART8
**仏教真理・六波羅蜜**

仏教の基本的な教え「六波羅蜜」をただ一人の最終解脱者、麻原彰晃尊師がわかりやすく説いた。

麻原彰晃の世界　PART10
**仏教真理・五蘊**

絶対自由、[illegible]
自ら体[illegible]

### ◆真理の御魂 最聖麻原彰晃尊師の魅力を探りたい人のための本
――真理勝者の叡智をあなたに

**原始仏典講義 一**

どんな学者も修行者も解き明かせなかったサキャ神賢の真理の法を麻原尊師が鋭く解説！

麻原彰晃の世界　スペシャル
**約束の大地**

インド・チベット・ラオス……仏教ゆかりの地を尊師が行く。尊師が初めて明かす高度な瞑想・秘儀の数々。その魅力を結集させたファン待望の書。

麻原彰晃の世界　PART2
**尊師、麻原彰晃が斬る！**

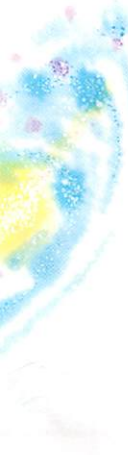
願望成就の秘法、UFO&宇宙人、医学、音楽、食養、輪廻転生等について麻原尊師が斬る！

チベット仏教の高僧が、インド・ヨーギが、世界の聖者が絶賛した！
**麻原彰晃の聖者誕生**

チベットの高僧をはじめとする聖者方が、唯一の最終解脱者麻原尊師について語った全記録を収録。

**原爆覚醒**

最高のイニシエーション（エネルギー移入）、「シャ[illegible]ット」。今その詳細が明らかに。



**神通力**

[illegible]ての魂の救済のための神通力とは？ 最終解脱者麻原尊師の神通力を弟子たちが徹底追究。

# オウム真理教の本プレゼント

## 世紀末の人類を救済する真理の御魂（みたま）

以下のオウム出版の本の中から、ご希望の一冊を選んで巻末のハガキ
予言されていた「救世主」の姿をあなたの

### ◆超能力を獲得したい方の手引書
——あなたの持っている本当の力

すべてが思いのままになる
**超能力秘密の開発法**
**増補大改訂版**

人が修行によって“人間”を超えようとするとき、必ず人智を超えた力が身につく。あの不朽のベストセラーが増補・大改訂されて今ここに登場。

あなたの持っている本当の力
**超越神力**

PART1
**天耳通・他心通**
人の魂に宿っている力“超越神力”。その神秘の力の秘密、そのすべてを今明らかに。

PART2
**前生を知れ！・死生智の秘密**
輪廻転生を繰り返しているわたしたちの魂。本書では、麻原尊師の興味深い前生体験を満載。

PART3
**完全なる絶対なる神の叡智、漏尽通**
最終解脱者だけが知る“完全なる絶対なる神の叡智”とは？ 漏尽通の秘密が今明らかになる。

PART4
**わたしは見た！これが尊師の超越神力**
麻原彰晃尊師の“超越神力”を目の当たりにした内弟子の生の声を豊富に満載。

麻原彰晃の世界 PART6
**願望成就の秘法**
心からの幸福を願うすべての人々に、麻原尊師が仏教の願望成就の秘法をそっと伝授する。

**能力覚醒の秘法を解く**
多くの科学的智見を駆使して人が超人へと進化していくプロセスを解明し、その衝撃の秘法を公開。

**麻原彰晃のズバリ！浮揚**
二十八人の決定的瞬間、空中浮揚の仕組みを解説する仏教・ヨーガ理論。空中浮揚のすべてを満載！

**麻原彰晃のザ・サマディ**
サマディ——それは真の解脱者のみがなし得る奇跡。生死を超えた瞬間、彼らの見た世界とは？

実録：アンダーグラウンド・サマディ 一九九一
**ザ・サマディ PART II**
尊師の愛弟子マイトレーヤ正悟師が挑んだ「土中サマディ」、その奇跡を再現。

**甦る聖者伝説**
呼吸も止まった“死”の状態から、彼らは復活する。解脱者のみがなし得る奇跡、サマディの神秘。

人間から神に生まれ変わった麻原尊師の愛弟子たち
**神通力者への道 1〜4**
尊師の指導のもと、秘儀を駆使して生まれ変わった弟子たち。彼ら「神通力者」のすべて。

そのステージに達した弟子が語るグル・麻原尊師と修行
**マハー・ムドラー**
仏典でいう“阿羅漢”の境地に達した高弟二人が語る。だれも知らないグル・尊師の姿、そして修行。

### ◆世紀末の行方を知りたい方の本
——大予言をズバリ解明

1999年の謎
**ノストラダムス秘密の大予言**
ついに封印を解くべきときが来た！ 自らの神秘力によって奇跡を見せた尊師が明かす衝撃の真実。遥かなる時間を経て今甦るノストラダムス——。

「黙示録大預言」の秘密のベールを剥ぐ
**滅亡の日**
「ヨハネの黙示録」の謎を麻原尊師が徹底的に解読。人類滅亡のシナリオの封印が解かれた。

「黙示録大預言」完全解読
**滅亡から虚空へ（続・滅亡の日）**
大破局後に来る新たなる闘いとは？ だれにも解けなかった予言書のすべてが、今明らかにされる。

**人類滅亡の真実**
滅亡の真実を克明に説き明かす、真理勝者サキャ神賢と最終解脱者麻原尊師が贈る人類啓蒙の書。

Harmaggdon ー
**マンガ 滅亡の日**
尊師が動き語る。未来ヴィジョンが迫ってくる。「ヨハネの黙示録」の謎がヴィジュアルに！

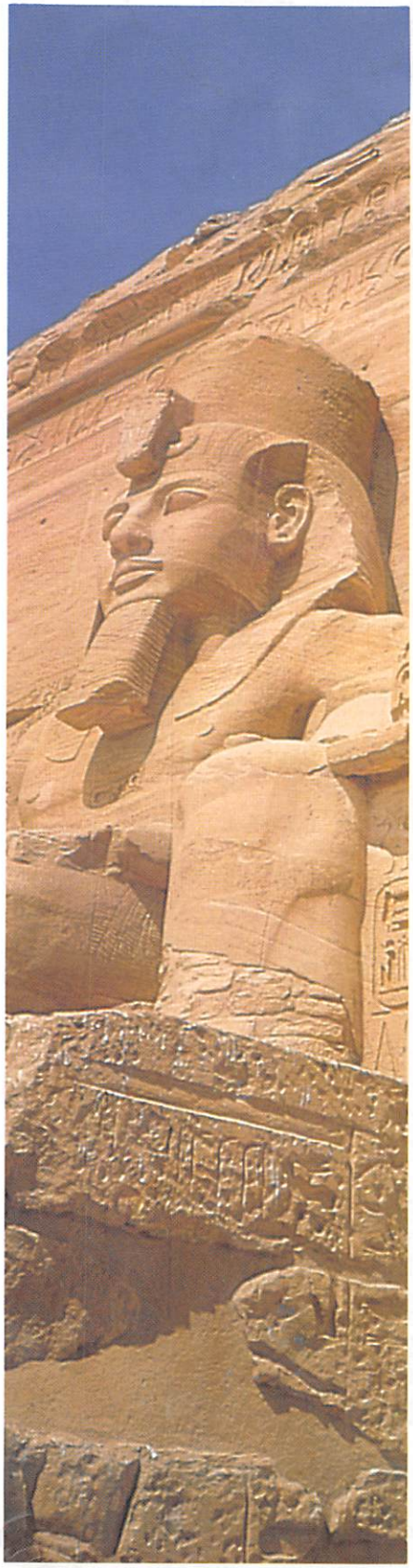
### ◆宗教に疑問をお持ちの方の本
——邪法を正す書

キリストの教えのすべてを明かす
**キリスト宣言**
PART1

日本でただ一人の最終解脱者、オウム真理教麻原彰晃尊師が説く、これがイエスの真実だ。この一冊でイエス・キリストの教えのすべてがわかる！

PART2 再臨・裁き・終末
**真実の仏陀の教えはこうだ！**
神の審判のとき、この世は破滅する——「聖書」にあるイエス・キリストの予言をいよいよ解読。

幸福の科学の会員よ聞きなさい！
すべての仏典を熟知した最終解脱者、麻原彰晃尊師が大川流仏法の大ウソをズバリと正す！



## 各道場のご案内

富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
那覇支部　098 (869) 7707
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
堺支部　0722(21)1843
〒590　大阪府堺市海山町4-168-9
高崎支部　0273(46)1573
〒370-12　群馬県高崎市倉賀野町下稲荷前1081-5
福井支部　0776(26)6145
〒910　福井県福井市御幸3-3-41 東伸ビル2F
松本支部　0263(28)7429
〒399　長野県松本市芳川野溝527-3
深谷出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市菅場441-8
渋谷出張所　03(3476)5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号

〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St.#2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hügel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany
スリランカ支部（AUM SACCA SAṄGHA ASSOCIATION）
Horahena, Watte, Angulugaha, Galle, Sri Lanka
モスクワ支部　095-451-62-41
Kindergarten No.468 ul. Dybenko, 6A, Moscow, 125475, Russia

理想社会 11
1992年10月5日発行
定　価　1,000円
監　修　真理の御魂（みたま） 最聖麻原彰晃尊師
発行者　青山吉伸
発行所　オウム出版
〒154　東京都世田谷区世田谷2-8-17
電話　03(3439)6043　振替　東京2-109325
※乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

# オウム真理教の本と『えんじょい・はぴねす』最新号をプレゼント!

PRESENT

下のハガキでお申し込みの方にもれなく無料で、ご希望のオウム真理教の本と、オウム真理教のラジオ放送『エウアンゲリオン・テス・バシレイアス』が10倍楽しめるタイアップマガジン『えんじょい・はぴねす』最新号をプレゼントいたします。

詳しくは、本文の「キミはもう尊師を聴いたか?——オウム真理教ラジオ放送開始」と「オウム真理教の本プレゼントコーナー」をご覧ください。

おハガキお待ちしています。

※なお、ご希望の方には、あわせて『理想社会9』『理想社会10』も差し上げます。ハガキの「ご希望になるオウム出版の本」の項目の最後部に、「9希望」「10希望」とお書き添えください。両方ご希望でも結構です。

キリトリ線

料金受取人払

杉並南局承認

359

差出有効期間
平成6年8月
24日まで有効
(切手不要)

郵便はがき

168

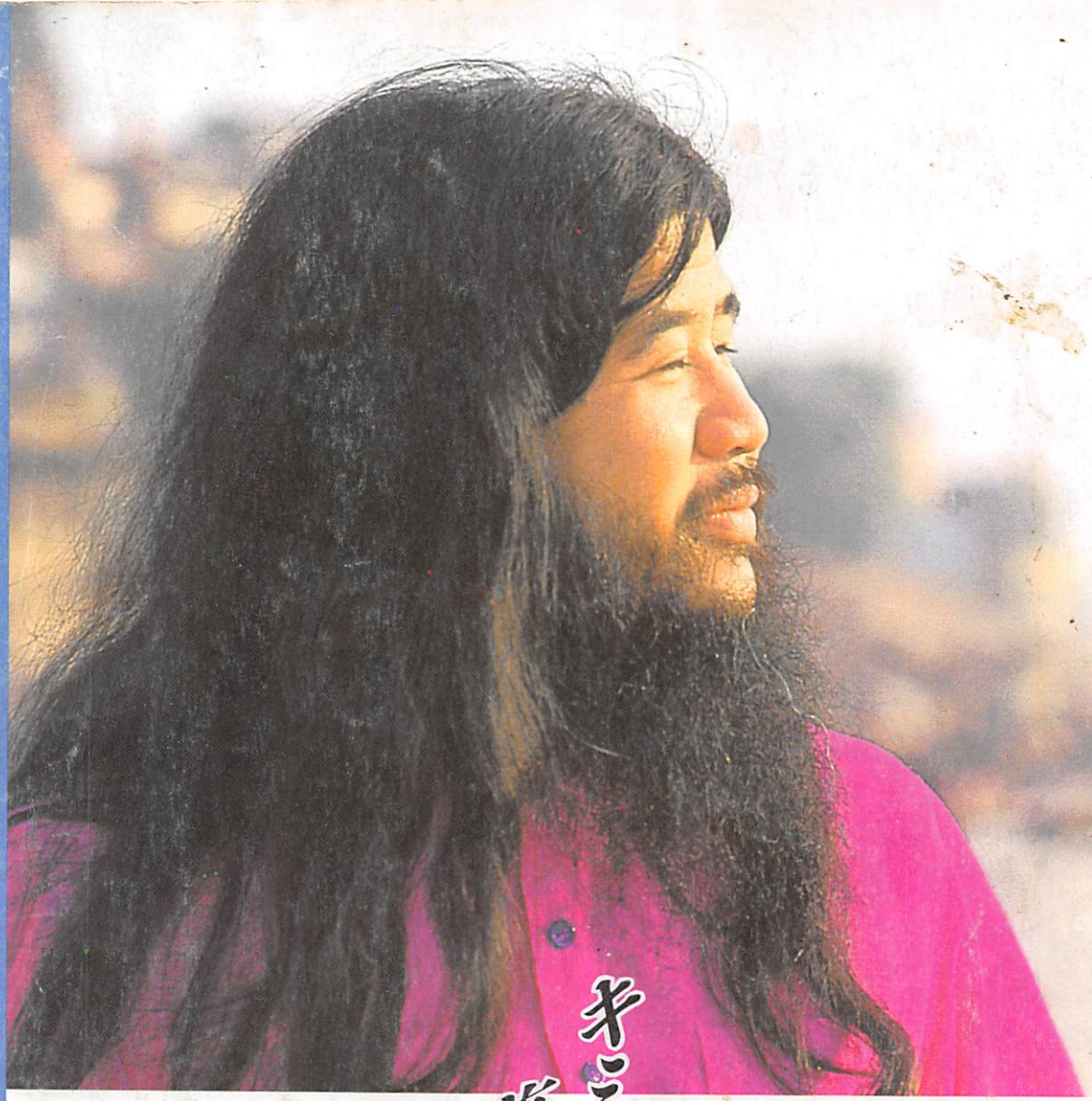
東京都杉並区宮前
3−8−11

オウム出版
理想社会係 行

キリトリ線

オウム出版の本、および「えんじょい・はぴねす」プレゼントカード詳しくは本文をご覧ください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| フリガナ | | 性別 | 年齢 |
| お名前 | | 男・女 | 歳 |
| フリガナ<br>ご住所 | 〒 - TEL. ( ) 都道府県 | | 内<br>様方 |
| ご職業 | ①学生 ②主婦 ③会社員 ④自営 ⑤公務員 ⑥その他( ) | | |
| 興味のあるジャンル | ①超能力・UFO・オカルト ②思想・哲学・宗教 ③健康・食養 ④自然科学 ⑤エコロジー・環境問題 ⑥政治・経済 ⑦ドキュメンタリー ⑧武道・スポーツ ⑨文芸 ⑩コミック ⑪歴史 ⑫その他( ) | | |
| ご希望になるオウム出版の本 | | | |
| 「えんじょい・はぴねす」ご希望ですか | YES NO | | |
| 理想社会 第( )号をお読みになっての感想 | | | |



# キミはもう尊師を聴いたか？

真理の御魂 最聖麻原彰晃尊師のラジオ番組

## エウアンゲリオン・テス・バシレイアス

**夜11時はAM720kHz**

短波でも午後10時から放送しています。

「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」のタイアップマガジン

**「えんじょい・はびねす」定期購読募集のお知らせ**

「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」が10倍楽しくなるタイアップマガジン月刊「えんじょい・はびねす」の定期購読をただいま大募集しています 料金は6カ月で送料込み6000円です お申し込み・お問い合わせは下記まで

〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 オウム真理教ラジオ放送
「えんじょい・はびねす」プレゼント係 TEL 03(3335)4965

＊その他、オウム真理教ラジオ放送「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」へのご意見・ご感想などありましたら併せてお書きください

●主な番組内容

◎麻原彰晃尊師説法　◎仏典を楽しもう
◎わたしは見た！ これが尊師の超越神力
◎リラクセーションのコーナー
◎麻原彰晃尊師のノストラダムスの大予言
◎麻原尊師の運の良くなるザンゲコーナー
◎ミラクルパワー 神秘の世界を開け！
◎STEP UP 真理　◎今月の歌

**世界でただ一人の最終解脱者、真理の御魂 最聖麻原彰晃尊師が贈るミステリアスなこの2時間——**